私より前の私



Eudgene Brenev

2026

研究書

私より前の私

死から新たな誕生へ：生と生の間の人生についての証言を調べる

臨死体験、出生前の記憶、死者との出会いについての証言を比較する。時間、自己意識、そして個人としての連続性の可能性を探究する。

2026

目次

序文 5

第一部 体験と証言

第 1 章 自分の死を体験するとは何か 7

第 2 章 体験談はどのようにデータになるのか 12

第 3 章 測定できる境界 18

第二部 想定される道筋

第 4 章 身体からの離脱 25

第 5 章 移行と出会い 32

第 6 章 人生の振り返りと周囲の世界 39

第 7 章 滞在、休息、回復 47

第 8 章 戻ることの選択 55

第 9 章 出生前の記憶 62

第三部 時間と人格の連続性

第 10 章 二種類の時間 69

第 11 章 誰が生き続けるのか 76

第 12 章 夢の中の出会いと共有された体験 84

第四部 考えられる説明

第 13 章 意識、脳、説明の限界 91

第 14 章 記憶、暗示、文化 98

第五部 地図と意味

第 15 章 分岐のある地図 106

第 16 章 なぜ戻るのか 112

第 17 章 世界像をどう検証するか 118

おわりに 123
付録 1 個々の証言の記録票 125
付録 2 想定される各段階への問い 127
付録 3 主要な概念の用語集 129
付録 4 本書で扱う報告の索引 131
付録 5 出来事の順序をどう検証するか 133
参考文献 136

序文

自分の死についての語りは、つねに生きている側から読者に届きます。ある人は蘇生後に目を覚まし、自分の体験を語ります。別の人は成長してから、自分では幼少期の記憶だと考えるものを書き残します。語られる出来事と、紙面に記された文章の間には、ひとつの連鎖があります。そこには、記憶、言語、聞き手の質問、身近な人々の期待、出版者の判断が関わっています。この連鎖を調べることによって、証言の価値を保ちながら、その限界も理解することができます。

継続的な存在の記述は、継続性の約束に訴えかけています。生涯が終わったように思える場所では、新しいシーンが現れます:別の存在、認識、自宅に似ている場所、帰還についての会話。そのようなシーンを出生前の人生の記憶と結びつけることは、ほぼ完全なルートを生み出します。一貫性だけでは何も解決しない。個々のセクションが一つの体験に属しているかどうか、同等の方法で記録されているかどうか、およびそれらの間の遷移を支持する証拠を確認する必要があります。

本書は、公表された証言を照合し、死にゆくことから新たな誕生へ至ると想定される道筋を調べる。焦点となるのは、体験者の状態、自己の存続、周囲の環境、ほかの登場者、そして時間である。休息、回復、戻ることの選択、語り手が新たな人生の道筋を説明する理由にも、それぞれ章を割く。

この本は、経験の内容、それが記録された状況、および起こったことの性質に関する結論を区別する。誰かが亡くなった親戚に会うことを報告するとき、最初に確立されるのはその報告の存在です。早期記録と独立した裏付けにより、追加の詳細を確認することができます。遭遇した人物は別個の考慮が必要である。これらの区別は、宗教的解釈と脳機能に基づく説明に等しく適用される。

本書の「魂」という言葉は、体験談そのものや、検討するモデルの中で、個人の体験を担うと想定されるものを指す。この語を使っても、その担い手の構成、性質、独立した存在が、あ

らかじめ確定するわけではない。死後に何が続きうるのかも、研究の対象であり続ける。

文献には、臨床出版物、記憶と自己認識の研究、子どもの記憶の記述、個人的な記録のアーカイブ、死別の経験に関する研究が含まれます。これらのグループの材料は、どのように選択され、どのように容易にチェックできるかによって異なります。その本は構造化された研究の比較を提供する。人口全体におけるこれらの経験の有病率を推定したり、出版された文献の網羅的なカバレッジを主張したりしない。

イラストは、出版された説明の再構築、著者の想像例、分析図の三種類の材料を伴う。彼らのステータスはキャプションに記載されています。再構成における仮定された詳細は別々に識別され、図は記述された関係と研究の仮定との区別を保っている。

パートⅠでは、実際に観察できるものについて説明します。パートIIは、パスの提案段階を通して私たちを導きます。第三部は、時間、個人的アイデンティティー、および単純なシーケンスに適合しない死者との出会いを考慮に入れます。第四部は可能なメカニズムについて論じる。最後の部分は分岐マップを構築し、なぜ帰還が起こるのかを調べます。

読者は、継続生活への信念から始める必要も、事前に拒否する必要もありません。証拠が許す範囲で質問をオープンにしておくことは十分です。調査は、かなり明確な説明を生成するか、いくつかの可能性を残します。また、元の問題は異なる現象を結合し、したがって一つの答えを認めなかったことを示すこともできる。

珍しい経験を真剣に取ることは、すべての語り手の結論に同意する必要はありません。経験は、その外部の状況が未確立のままで非常に個人的な意味を持つ可能性があります。研究の精度は、同じ本の中で両方のことを言うことができることから始まります。

第一部 体験と証言

第 1 章 自分の死を体験するとは何か

体験と出来事

「私は自分の死を経験しました」というフレーズは二つの異なるステートメントを結びます。人はその人に起こったことに関連している。もう一つは、何が起きていたかである。物語を理解するには、このつながりを解く必要があります。医学的記述は、循環停止を示すことができる。個人的な証言は、最終的に身体を離れる感覚を含むことがあります。あなたはそれらの間の関係を見つける必要があります、そしてちょうど均等な看板を置くことではありません。

体験は人に直接アクセスできます。彼は痛みを感じたり、光を見たり、顔を認識したり、声を聞いたり、目に見えない画像なしで存在感を感じる。外部原因の問題は、別のレベルの分析に属します。この区別は、知覚とその解釈が時間内に相互に従うことを暗示しない。テーブルの上にカップがある場合、カップとその知覚の違いの問題はめったに実用的な問題になります。珍しい経験は、この違いを考慮に入れることを強制します。

単純なメンタルサンプルが役に立ちます。人は夢の中で身近な部屋を見ています。夢の中に壁の色、ドアまでの距離、出会いの期待があります。部屋の経験は、その経験のイベントとして存在します。さらに、そのような経験の単なる存在は、対応する瞬間に彼が物理的な部屋にいたことを立証しない。この例では臨死体験は夢ではない。経験と外部オブジェクトを推測することの論理的な違いを示す。

同じ違いは、反対の仮定の下で成り立つ。経験が外的現実と真に結びついているなら、主観的な確実性の強さは、この接続

がどのように機能するかをまだ説明しません。研究には、正確な情報、独立した観察、情報を得るための従来のチャネルの制限など、追加の機能が必要である。問題は、状態がいかに内側から説得されたかだけではありません。

クオリアという言葉の意味

ここで「クオリア」という言葉は、経験している人に体験がどのように感じるかを指します。一つは光の波長を知ることができ、まだ別の質問:人との対応する色がどのように見えるか。恐怖の身体的兆候を説明し、恐怖そのものがどのように経験されているかを別々に尋ねることができます。そのような区別は、意識の起源の問題を解決するものではありません。会話の主題を定義するのに役立ちます。

非普通の状態を探索するとき、シーンの内容に焦点を合わせることは容易であり、その経験の仕方を見逃す。いくつかの物語は光に言及するかもしれませんが、一つは外部物体として認識され、もう一つは空間全体を満たす輝きとして認識され、三つ目は明確な視覚形態のない知識として認識されます。あなたが「光」という単語だけを書き留めると、違いは消えます。

したがって、経験を記述するにはフォームに関する質問が必要です。方向性はありましたか? 物体までの距離はありましたか? 注意を移すことは可能でしたか? 音は話し言葉に似ていたのか、それともすぐに意味が浮かび上がったのか? 体は感じられましたか? これらの質問は、物理的解釈を課すことなく経験を明確にする。見慣れた単語がアナロジーによって使われる場合に特に有用である。

「全てがはっきりした」という表現も明確にする必要があります。それは、完全さの感覚、特定の思考の出現、関係の理解、または特定の質問に答える能力を意味する可能性があります。以前の全知能科学にのみ信頼を戻した後、研究者はこの自信に関する情報を持っています。取得した知識の量の検証は、検証されるコンテンツが保存されている場合にのみ可能である。

自己のいくつかの意味

「I」の概念は、一つの不可分な指標に変わるべきではありません。人は自分の名前と生涯を覚えていますが、場所の感覚は異なります。彼は観察者として自分自身を知覚することができ、同時に彼が生きてきた年について考えない。精神分析では、存在感、身体の所有権、行動の著者、自分自身の記憶、そして自分の状態を反映する能力とを区別することができます。

「私が存在し続けていたことを理解した」というフレーズは、主に省察を指します。体験者は自身の経験に気付き、それについて結論を導きます。しかし、そのような言い回しがないことは意識の欠如を意味するものではない。通常の集中行動では、人は常に自分が存在するという考えを定式化する必要はありません。同様に、物語では、省察的なコメントの欠如と自己認識の喪失の直接的なメッセージとを区別しなければならない。

自伝を保存することは別の疑問を提起する。例えば、語り手が自信を持って自分と同じ人間を名乗ったとしましょう。この自信を与えたものを見つけることが重要です。彼は家族を覚えていますか。あなた自身の身体を認識しましたか? 記憶のない連続性を感じるか? 起きてから決着がついたの? これらの変種には「それは私だった」という同じフレーズが伴うかもしれませんが、個人的アイデンティティの異なる基盤を説明します。

以下では、人の比較的安定した生涯的および心理的組織に「人格」という単語が使われ、想定される経験者の「経験の主体」が使用されます。これは良い区別です。これにより、異なる主体が現れたかどうかをすぐに判断することなく、記憶または文字の変更の可能性を議論できる。この質問は、特に以前の人生の記憶に関する話で深刻に現れます。

記憶の空白と体験の不在

応答の損失前の最後の記憶と回復後の最初の記憶との間にギャップがあるかもしれません。それ自体は、利用可能な記憶を報告しません。経験がないと結論付けるには、他の根拠が必要で

す。逆もまた真である:覚時の記憶の存在は、それが発生した瞬間に自動的に確立されない。

精神的な例では、人は手順の始まりを記憶し、それから別の部屋で自分自身を見つける。彼にとって、その差は消えたようだった。時計によると、かなりの時間が経過した可能性があります。しかし、ギャップの主観的な欠如は、時間が個々の意識のために「加速」していることを証明しない。イベント記録がない場合があります。この例は、測定された持続時間と記憶構造を区別するために必要である。

したがって、本書は、生物の観察された状態、経験的な内容、利用可能な記憶、および語り手の説明を一貫して区別する。これら四つの記述は同じ人物を指すが、必ずしも同じ時間枠を持つとは限らない。彼らの比較は研究への第一歩です。



図1。一つのケースの四つのレベル。左から右へ、上から下へ、身体の状態、経験、記憶と説明が表示されます。著者の構成は、それらの発生のシーケンスを指定することなく、一つの症例の側面を分離する。

この問いが意味をもち続ける理由

慎重に区別しても、中心となる関心は失われない。死後にも個人の体験が続く可能性は、人が通常、自分の存在だと受け止めるものに関わる。身体、記憶、性格、そこにいるという感覚を別々に考えれば、どの性質の存続を想定しているのかが、より明確になる。

精神的な比較のために、継続のための三つのオプションを区別することができます。一方では生涯は保存され、他方では最小限の存在感しかありません。三番目は、経験者を保存せずに情報の転送を可能にする。これらのオプションは、一つの単語「不死」と組み合わせることはできません。特定の人の残存物に関するさまざまな質問に答えます。

次の章は利用可能な証拠から始まります。提案されたサイクル全体を議論する前に、単一のストーリの重みと、複数のストーリが単一のシステムの記述として理解されるようになったときに何が起こるかを理解する必要がある。

第 2 章 体験談はどのようにデータになるのか

最初の記録

歴史は、その詳細の起源を再構築することが可能になるときに研究形態を取る。珍しい経験を最初に報告したのは誰ですか? どんな言葉が使われましたか? その時点で知られていたことは何ですか? 次に誰に言ったの? そのような一貫性がなければ、詳細な公開でさえ最も重要な事実が不明になる可能性がある。

早い段階の記録は、その後に内容が変わりうる範囲を制限するため、有用である。以前の家族とされる人々に会う前に発言が記録されていれば、すでに記録された細部の由来から、その後の影響の一部を除外できる。ただし、それ以前の情報経路を排除できるわけではなく、記録の正確さも保証されない。それでも、検証できる明確な境界が得られる。

後者の物語には貴重な情報も含まれている。その制限は、研究者がより頻繁に参加者の記憶から情報の以前のパスを再構築することを余儀なくされることである。正確になりたいという欲求は、ドキュメントに取って代わるものではありません。したがって、証拠の質は誠実さだけでではなく、誠実さ、記録の条件と利用可能な検証の組み合わせによって決定される。

本書では、想定されるイベントの日付が最初のドキュメントの日と異なる。子どもの場合、発話の始まり、最初の詳細なインタビュー、および家族間の最初の接触をさらに区別するのに役立ちます。臨床例では、回復後の最初の会話と他の人の説明へのアクセスが重要である。睡眠のため - 記録の時間とそれに関連するニュースを受け取る瞬間。

観測の単位

計算はユニットの定義から始まります。一人は、いくつかの経験を報告することができます。記事、本、インタビューまたはドキュメンタリーに一つのケースが現れることがあります。複数の研究者が同じサンプルを再分析できる。あなたが新しい確認として各出版物をカウントすると、証拠の数は新しい観察なしに増加するでしょう。

独立にはいくつかの意味もある。二人はお互いを知らないかもしれませんが、同じガイド付き質問に答えます。最初のインタビューの前に、二人の目撃者がイベントについて話し合うことができます。二人の著者が初期の話を共有できる。これらのすべての状況では、偶然がありますが、その起源は異なります。

二十ストーリーの条件付きアーカイブを想像してみましょう後に、本文のうち八本は一件の回想であり、さらに四本が共同討論の後、同族から受け取った。テキストの算術数は同じままです。多くの独立した観察としてそれを使用する可能性は消えます。例は、なぜ書誌とケースコーパスが異なるレジスタを必要とするのかを示しています。

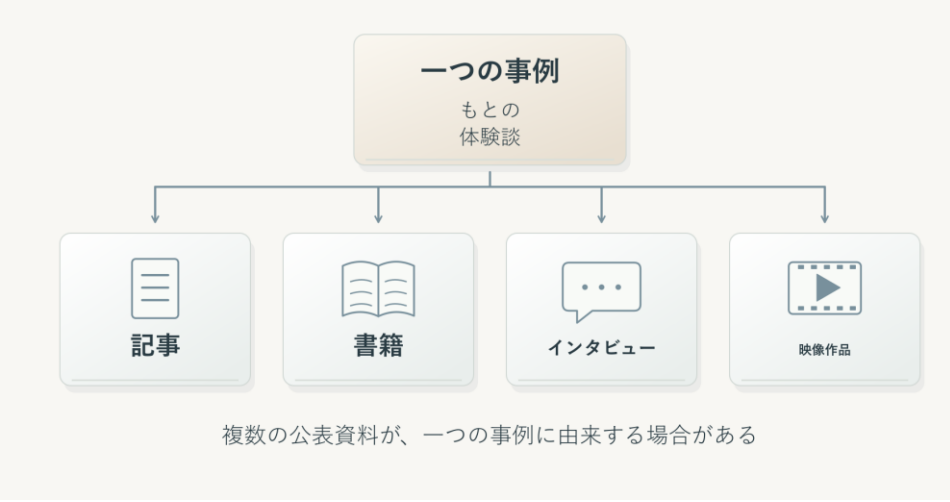


図2。一つの場合といくつかの出版物。スキーマ図は、記事、本、インタビュー、映画がすべて同じ証拠にさかのぼることができることを示しています。出版物の数は、独立したケースの数とは異なります。

グループの割合は同じ注意が必要です。参加者の一部だけが質問に答えた場合、回答者間の応答率はすべての招待者のレートと一致しません。本書は、生存者グループ、インタビューに同意したグループ、利用可能な記録を持つグループ、またはアンケートの一定のしきい値を超えたグループであるかどうかを示すことが不可欠です。

記述の類似と機能の類似

ストーリーはいくつかのレベルで比較できる。画面、橋、部屋、人、光:最初のものは、特定のイメージを格納します。二つ目は、閲覧、遷移、待ち、伴奏というアクションを強調します。三番目に、意図した機能が表示されます:情報を取得し、状態を変え、復元し、解決策を準備します。

この分類は、レベル間の遷移が見える限り有用である。画面と音声はメッセージとして機能するかもしれませんが、同じデバイスの二つの顔であることに従いません。メッセージの材料、スペース、相互作用のモードと著者性の違いは重要である。

あまりに狭すぎる比較では、意味的類似性が欠如している。広すぎると、ほとんどどこでもそれを明らかにします。「変化を経験する人」というカテゴリーは、睡眠、旅行、学習と病気を容易に組み合わせます。したがって、分類規則はケースの包含とその排除の両方を説明する必要がある。そのようなルールは、さらに分析コードと呼ばれています。私たちは、コンピュータプログラムではなく、材料をマークアップすることについて話しています。

本のワークマップは、説明と解釈を並べて保持します。語り手が部屋で待つことについて話す場合、それは説明のままです。準備段階への貢献は、再考できる研究決定です。期待の目的に関する情報がない場合、そのような目的を元のストーリーに静かに追加することはできません。

資料に記されていないこと

未発表のイベントでは、いくつかの説明が可能です。それは起こらない、忘れられる、語り手にとって重要でないように見える、または短縮された出版物に含まれないかもしれません。おそらく関連する質問は全く尋ねられませんでした。したがって、カード上の空のフィールドは、より明確な結論の根拠がない限り、未知を意味します。

直接否定は異なるステータスを持つ。個人が誰とも会ったことがないことを強調すると、研究者は自分の記憶に出会いがないことについて肯定的な情報を受け取ります。それでも、記憶の完全性に関する疑問は残る。慎重な記録により、否定がどの程度延びているかを確認することができます。

照合には、記入欄について少なくとも四つの状態を区別する必要がある。要素が記述されている、その要素が明確に否定されている、質問されていないか報告されていない、記述が曖昧である、という状態である。これらを「ある」「ない」の二値にまとめると、情報が失われる。とりわけ危険なのは、空欄がいつの間にかすべて否定に置き換えられた表から、普遍的な順序を組み立てることである。

不明であることを記録に残す

著者のメンタルサンプルを見てみましょう。第一話では「私は誰にも会わなかった」と、第二話では「私は明るい空間に自分自身を見つけた」と、その後レコーディングは終了します。両方のテキストは出会いを説明しませんが、情報は異なります。最初に、視覚的に知覚される出会いの直接的な否定に注目します。可視画像なしで存在についてはまだ何も知られていません。二番目は、不確実性を維持します:継続がないことは、誰かが近くにいたかどうかを示すものではありません。

次に、インタビュアーがガイドについて二人目の人に尋ねて肯定的な回答を受けた場合、二つのエントリが必要です。フリーストーリーでは、要素は記載されていないが、質問の後に記載されている。これは答えの信頼性に関する判断ではありませ

ん。この記録により、会話のモードが利用可能な材料の構成をどのように変えるかを調べることができる。事例を比較すると、当初の沈黙はもはや、出会いに関する独立した言及に置き換えられなくなる。

ネガティブなケースは、カラフルな物語に対する修辞的なカウンターバランスとして役に立たない。モデルの境界を明確にします。ある段階が義務であると見なされた場合、この段階の確実に記述されていないことは説明を必要とする。ステージが可能であれば、欠席は反論ではありません。重要なことは、声明の既定の意味です。

質問によって変わる体験談

面接は経験を再構築するのに役立ちますが、同時に答えの形式を設定します。「次に何が起こったか」という質問は、「誰があなたをあなたの休憩場所へ連れて行ったのか」という質問よりも多くの可能性を秘めています。二つ目のケースでは、ガイド、方向、特定の機能を持つ場所がすでに提案されています。

これは、本質的な質問に対する答えが常に誤りであることを意味するものではない。問題は要素の起源にあります。プロンプトの後にのみ表示される場合、その反復は、多くの人が自分自身がそのような段階を識別しているという完全に独立した証拠として使用することはできません。

だからこそ、良い研究論文は、さらに明確になるまで物語を解き放つのです。その後、質問と答え自体が記録されます。この順序により、後で、どの詳細が独立して発生したか、どの詳細が明確で、どの手順によって導入されたかを評価することができます。

始まりから終わりまで整った道筋は、とりわけ慎重に分析する必要がある。その魅力は、到着、出会い、説明、準備、帰還という連なりにある。しかし、その順序は、体験そのものに由来する場合も、聞き取りや編集によって生じる場合もある。検証には、初期の記録、質問の記録、刊行された文章の照合が必要である。

裏づけの度合いを読む

証拠は、ある部分で十分に確立され、別の部分に開かれ続けることができる。医療記録は、循環停止を確認することができるが、経験の内容ではない。別の目撃者は、この物語が死のニュースの前に伝えられたが、経験そのものの正確な時間ではなかったことを確認することができます。生涯的詳細の偶然は、二人の個人のアイデンティティを確立することなく説明を必要とする可能性がある。

ケース全体に一つのラベルを割り当てるよりも、個々のステートメントを評価する方が便利です。例えば、イベントのタイミング、早期記録、詳細の精度、可能な情報のチャネルと目撃者の独立性は別々にチェックされる。その後、強い側は弱者を隠さず、弱い側は他のすべてを自動的に破壊しません。

説明を区別するには、各々が期待する結果を求める必要がある。すべての可能な答えが仮説に等しく合っている場合、選択肢の中から選択するのに役立つことはほとんどありません。間違いの具体的な可能性を認めると、ステートメントはより意味を持つようになります。

以下の章は、この読み方を用いている。最初に報告されているものを確立する。その後 - 何がテストされ、どのような制限があるか。可能な説明が議論される。一貫性によって、それらを証明済みの世界図に変えることなく、異常なストーリーを探索することができます。

第 3 章 測定できる境界

一語の重み

医療記録は、他の人が観察した物語の一部を明確にすることができます。ここでは、特定の状態、それを確立する方法、および時間制限が重要です。どの質問が答えを得るかは彼ら次第です。生命を脅かす状態における意識の証拠と、人生の最終停止後の存在の証拠は、異なるテストを必要とする。

医学的記述は特定の状態から始まる。Greerらによる2023ガイドラインでは、神経学的基準による死は脳幹を含む脳全体の機能の確立された恒久的な喪失を伴う。診断には特定の手順が必要です。睡状態、脈拍の有無、あるいは単一の機器の読み取りから推測することはできません。循環停止後の蘇生は、それ自体では、確立された脳死の後の結果とはならない。[1]

この違いは、経験の重大さを軽減するものではありません。人は極度の危険にさらされ、人生を変える出来事を経験します。推論の次のステップには精度が必要である。意識機能のための条件が完全に存在しない場合に、その経験が生じたと研究者は主張するならば、彼はこの患者で特に測定されたどのような条件を示す必要があります。「死」という単語自体は、目撃者が発音してもそのようなデータを置き換えない。

ここで、名前と測定値の区別を維持することは有用です。名称は、多くの詳細を短い表現に圧縮します。測定結果はこれらの詳細に戻ります。自発的循環のない期間、対処への反応がない期間、アクセス可能な記憶のない期間は異なる間隔を指すことがある。それらを組み合わせると、一つの空白間隔の単純な画像が作成されます。その明白な単純さは、全体の旅がインターバル内に配置される前にテストする必要があります。

蘇生の時間軸

臨床史には複数の始まりがあります。最後の有意義な応答から、人の検出から、期待された循環停止から、助けを求めることから、または蘇生努力の開始から時間をカウントすることができます。これらのポイントは異なるタスクに便利であり、交換できない。良心的なリテリングでさえ、そのうちの一つが後に単に死の瞬間と呼ばれる場合、イベントの境界をシフトすることができます。

院外心停止に関する国際的な Utstein 様式の 2024 年版は、出来事と救護の時刻を区別し、算出する時間間隔の始点と終点を明示するよう求める。不明な時刻も、不明のまま扱わなければならない。体験談の研究にも、同じ規律が役立つ。何が続いていたのかを定めて初めて、持続時間に意味が生まれる。[2]

公開された患者に関係しない仮説的な例を想像してみましょう。人は反応せずに発見され、しばらくして助けが始まり、血液循環が回復し、最初の会話は後で可能になる。記憶の中で、彼は声を聞き、それから珍しい空間を見る。完璧な治療プロトコルでさえ、音声とスペースが外部ラインのどこにあったかはまだわかっていません。まず、ストーリーの少なくとも一つの要素を独立したラベルを持つイベントに関連付ける必要があります。

この接続はより強く、またはより弱いことができます。認識可能なフレーズは、一つの事前登録メッセージよりも間隔を制限します。ビープ音が実際に聞こえた時間を知っていれば、ビープ音の記憶はより有用になります。しかし、一つの一致する詳細は、語り手が前後に配置するすべての日付を自動的に更新しません。物語内の順序と外部の年代順は、まだ接続する必要があります。

したがって、各シーンに対して、その外部時間が知られているかどうか、それがいくつかの可能な間隔に限られているかどうか、または全く確立されていないかどうか、別の答えが要求される。ここでの不確かさは、文字通り空白のフィールドを残すことによって保持することができます。物語全体を劇的な瞬

間に割り当てることは、より完全な絵を作成しますが、誰も見たことのない情報を追加します。



図3。四つのタイムライン。医学的出来事、人間の反応、ナレーションされたシーン、記録履歴は、別々の時間参照を必要とする。スキームは条件付きです。数値の持続時間は指定されません。

前向き研究から分かること

興味のあるストーリーが利用可能になる前に、将来的な研究が設定される。参加者、質問、スクリーニング方法を事前に定義することができます。その利点は、将来の結果が誰がサンプルに含まれているべきかを決定しないことです。しかし、「将来性」という言葉自体は、すべてのストーリーがすぐに記録され、すべての生理学的測定値が保存され、すべての参加者が所定のテストに合格することを保証するものではありません。

最初のAWAREプロジェクトで、心停止の 2060症例が報告された。最初のインタビューは140生存者によって完了し、次のステージは101によって完了した。医療イベントの数は、経験を詳細に報告した人の数として使用することはできません。記事で

はまた、その情報が蘇生イベントと比較されることができた一つのケースを説明しています。このテストの内容は、体外知覚について論じるときに返さなければなりません。[3]

AWARE II では、院内心停止 567 例のうち 53 人が生存し、28 人が聞き取りを完了した。そのうち 11 人が、著者らが意識の可能性と関連づけた記憶や知覚を報告した。記述は複数のカテゴリーに分けられ、その中には死の超越的な体験についての六つの報告もあった。カテゴリーは一部重なっている。それぞれの数が別々の人を表すかのように、足し合わせることはできない。隠された画像を識別した人はいなかった。また論文では、聞き取りを受けた 28 人の中で、聴覚刺激を識別した事例が一つ報告されている。このような回答だけで、身体外から情報を得たと確定することはできない。[4]



図4。AWARE IIのメンバーグループ。元の事例、生存者、インタビュー対象および報告記憶は異なるグループを形成します。研究では、経験のカテゴリの間にいくつかの重複があった。[4]

サンプルの減少ごとに利用可能な情報を変更します。人が死んだ場合、面接は不可能です。生存しても参加できなければ、主観的体験は不明である。彼らがインタビューに同意しても何も覚えていなければ、研究者は特定の調査結果を得る。したがって、面接対象者の体験談の割合は、このアクセス可能なグループを特徴付けます。死にかけているすべての人にその数字を拡張すると、記載しなければならない追加の仮定が導入されます。

これはフェーズマップにとって特に重要です。長い物語は、一つの感情の断片よりも段階に分割するのが簡単です。しかし、詳細なストーリーの好みは、選択レベルで遷移をより自然にすることができます。研究は短いメッセージと光、出会いやライフレビューのないストーリーの両方から恩恵を受けます。意図したシーケンスが終了したり、方向を変えたり、まったく開始しない場所が表示されます。

体験と記憶へのアクセス

イベントの時の人の状態と、それについて後で話す能力は、二つの研究課題を表しています。インタビューで肯定的な反応は、会話の時に物語の存在を証明する。その内容がいつ始まったかを決定するには、さらなる作業が必要である。否定的な反応は、利用可能なストーリーが得られないことを示しています。これらの結果の間には、記憶の動作に関する単なる仮定では満たされないスペースが残っている。

サンダースと同僚による研究では、全身麻酔を受けている260患者の 12は、特別に隔離された手を移動することによって命令を受けました。しかし253術後のインタビューでは、手術中の出来事をはっきりと記憶することはなかった。この要約は、手順中に応答した各患者が、その後のインタビューに自信を持ってリンクされることを許可しない。それにもかかわらず、イベント時の行動応答と後の記憶の報告を明確に区別する。[5]

大動脈外科手術後のモードゥイットらの研究で、101患者のいずれも非反応期の記憶を報告しなかった。67では、低体温循環停止を含む。これは、操作の特定の条件とその後の調査に関するデータです。それらは、記憶の欠如が測定されたゼロ主観的持続時間と等しくなることを許さない。[6]

否定的な結果は何を制限するのか

どの位の頻度で、これらの条件の下で利用可能な記憶を識別できるのでしょうか? 101人のグループの大きさに基づいて別の数学的例を見てみましょう。観測結果が独立しており、肯定的

な報告の確率が同じと仮定すると、そのような報告がないと、信頼度は95パーセントで、一面の正確な二項上限は約2,9パーセントとなる。計算形式は$p_{max} = 1 - 0,05^{(1/101)}$です。これはこの本の追加計算であり、研究の著者によって記載された統計的推定ではありません。[6]

マージンは、所定の手順からレポートを取得する確率を指します。この確率は、経験の発生、利用可能な記憶の保持、および質問中にそれを報告する能力に依存する。これらのリンクを別々に評価しなければ、2,9パーセントの数は任意の経験の頻度の制限として使用することはできません。この区別は、医学的条件を同等に保ちながら、その後の記憶アクセスの品質と主観的コンテンツの記録を同時に検討する、という経験によって示唆される。

ここでは、人格継続の研究に重要な結果があります。物語の空虚さは、空虚さに関する物語と同じではない。最初のケースでは、人は何もコミュニケーションできません。第二に、彼は物体の欠如、暗闇、または存在しないという感覚の経験を説明します。第二の選択肢には、状態がどのように経験されたかという特性である特定の現象学がすでに含まれています。これらのオプションを組み合わせることで、欠落したデータと体験の固有のコンテンツとの区別がなくなる。

長期入院も同様に注意して治療されるべきです。Rousseauらによる将来的な研究では、126の長期集中治療ユニット生存者の中で、19は臨死体験の許容しきい値に達しました。著者らは、経験が発生した治療のどの時点で決定することができなかった。したがって、部門で過ごす時間は、説明されたシーンの持続時間を決定しません。[7]

何が測定可能なまま残るか

臨床試験は、意味のある死後の存在の問題にすぐに対処する必要はありません。特定の条件下でのストーリの受信頻度,機能の組み合わせ,外部イベントと記憶の比較などを確認することができる。また、独自の境界線を検出できます:記録、回答、または信頼性の高いタイムスタンプがない領域。

その後の分析では、複数の平行線を保存する方が便利です。最初のものは医学的出来事を含んでいる。二つ目は観察可能な人間の反応です三番目は彼が話すシーケンスです。四番目はインタビューそのものと、その後のストーリーの変化です。行間のマッチは検証の結果となります。未知なすべてを一つの便利な間隔に置くことで、事前に入手することはできません。

この読み方が、予期せぬことの余地を残している。詳細が本当に初期のストーリーで確立され、独立してイベントと一致している場合は、まだ説明がない場合でも調べるべきです。しかし、欠落したデータも欠落している必要があります。研究の整合性は両方の場合に適用されます:不都合な観察を維持し、便利な追加を拒否するには同じ規律が必要です。

提案された経路は、ここで観測可能な境界から始まる。身体、医学的状況、そしてその後の証言があります。さらに、物語はオブザーバーを天井、光、または不慣れなスペースに連れて行くことができます。彼と一緒に移動するには、まず、移動そのものの意味と、人によると、その場所を変えたオブジェクトの種類を理解しなければなりません。

第二部 想定される道筋

第 4 章 身体からの離脱

観察者はどこにいるのか

体外離脱体験は観察の状況に関係しているため、特に説得力があるようです。その人は、目の前の物が変わっただけでなく、見る人の位置も変わったと報告します。身体は周囲のシーンの一部になることができます:それは下、側、または遠くに位置していますが、起こっていることが知覚されている存在の点が残ります。この公式は、今のところメッセージの意味を説明しています。意識の物理的移動に関する問題は、まだ別々に提起されていない。

正確な読み取りには、いくつかの違いで十分です。自分の身体のイメージを見て、その外の感覚を見ることは異なる特性です。これらは、動きの印象、軽さ、体重の欠如、または新しい身体の形を伴う可能性があります。身の回りに関する別の質問もあります:可視体は自分自身として認識されているか、または他の人のように見えるかどうか。これらの特性の一つだけを含む物語は、既知のプロットに合うように他の人を補うべきではありません。



図5。身体と経験豊かな観察点。一つの条件付き部屋は、横たわっている人の位置と上から表示されます。著者のイラストは、可視体とシーンが知覚される位置を区別する。

思考上の例を考えられる。人が外から撮った自分の写真を思い浮かべ、それが画像であることを十分に理解しているとしよう。だからといって、本人が感じる自分の居場所が、撮影した地点に移ったことにはならない。逆に、目に見える分身をまったく描写せずに、空間内で自分の位置が移ったと語ることもできる。「離脱」という言葉は、研究によって違いが見分けられるより先に、これらの可能性をひとまとめにしてしまう。

視点の変化は、自己認識の消失を意味するものではありません。自己認識、関心、驚き、意思決定はストーリー内で維持される。しかし、「何が起きていたのか理解した」というメッセージは、これらすべての特性を明らかにしていません。その瞬間にその人が何を理解していたのか、そして後で何を結論付けたのかを尋ねることは有用です。経験の意味は、その理解のシーケンスはまだ不明ですが、語り手にとって非常に明らかかもしれません。

変えられる視点

2002では、Blanke et alは、右角回旋の刺激が足と下半身を見下ろす感覚を繰り返すてんかん患者について説明しました。ベッドの上にも軽やかさと印象がありました。注意と手足の位置が変わると、身体の錯覚が変化します。これらのエピソードは彼女の通常の攻撃を構成せず、刺激領域は特定されたてんかん焦点と異なっていた。[8]

Ehrsson 2007の調査では、健康なボランティアは背後にあるカメラの位置からディスプレイを通して自分自身の背中を見ました。コーディネートされたビジュアルイベントとタッチは、この新しい位置にいるという感覚を高めました。知覚された身体が脅かされると、反応の生理学的指標である皮膚コンダクタンスが変化した。一貫性のない条件との比較により、感覚信号の組織化の影響を調べることができた。環境に関する情報はカメラと目を通して来ました。[9]

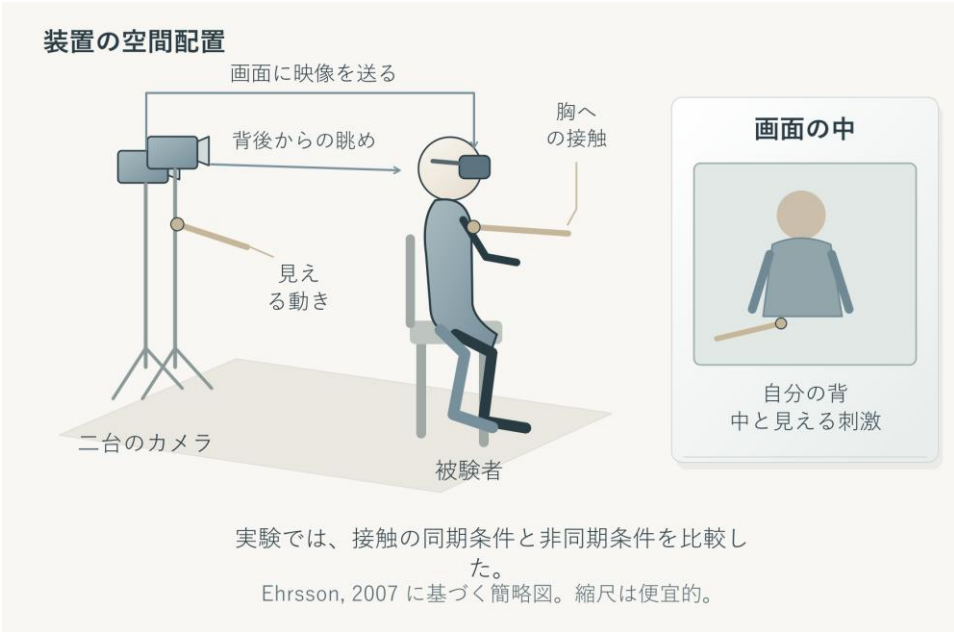


図6。視点の実験的変化。Ehrsson氏の研究の簡略化された図は、カメラ画像とタッチする視覚的イベントのマッチングを示している。環境に関する情報は、通常の視覚チャネルを通じて得られる。[9]

そのような結果は、紛争の主題を決定する上で重要である。経験豊かな自己の位置は、実験的な変化の影響を受けやすい。したがって、観察者がどこにいるかに関する即時の確実性は、それ自体が自身の物理的位置の独立した測定ではない。これは検証方法に関する一般的な結論である:空間経験と外部情報源は異なる手段で検査しなければならない。

これは、どのストーリーにも既製の説明を提供しません。特定の実験は、選択した条件を再現し、特定の特性を測定する。もう一つのストーリーは、欠落していた追加の要素を含んでいるかもしれない。インフォームド比較は類似点のリストから始まり、それから違いに移ります。「彼らは研究室で同じことを呼んだ」というフレーズは、説明の一つの点が同じであることが判明した場合、この作業はすぐに消去されます。

因果介入は、通常通常の経験と組み合わせられる特性を分離するのに役立つ場合に特に有用である。自伝的記憶が保たれると視点が変わるかどうか、所属意識が動きに左右されるかどうか、身体への脅威が自己の体験的な位置とどのように関係しているかを研究することは可能です。このような研究では、意識の問題はより正確になる:単一の不可分な "I"の代わりに、メッセージで区別でき、条件と比較できる特性が考慮される。

他者はいつ現れるか

通常の身体的位置から分離することは、他の人の存在感の隣で議論されることがある。これらの話題は、行動源の問題によってリンクされています。人は感触や動きを感じ、それを自分自身として、または他の誰かから来たと認識します。出会いの地図にとって、これは不可欠です:誰かが近くにいるという感覚は、識別可能な画像の前に、その人が誰であるかの説明の前に生じることがあります。

Blanke et al.は、仕事2014で、神経学的患者の観察と健康な参加者の実験を組み合わせた。ロボット装置では、手の動きと背中のタッチとのミスマッチが近くで他の人の感覚を高めました。著者らはそのような存在と関連する身体的印象を正確に調

査した。経験は死者の身元を確立しず、ガイドのメッセージを検証せず、余生全体を再現しませんでした。[10]

ストーリーを分析するには、一連の質問を提案します。まず、あなたが直接与えられたものを見つける必要があります:近接感、シルエット、声、顔、または人に宛てられた行動。その後、認知されるようになった。それは外観、メッセージの内容、または識別可能な兆候なしですぐに自信に関連している可能性があります。これらのオプションは交換可能ではありませんが、後に親戚に会うことについて同じフレーズで表現することができます。

最後のレベルは情報です。存在が既知のメカニズムを有するとしても、未知情報の主張はそれ自身の検証を必要とする。逆に、個人情報の正確性は、それが帰属している人のすべての特性を自動的に確立するものではありません。分離は、画像、そのアイデンティティとそれが現れた世界の構造の起源のためにすぐに答えるために一つの結果を強制することなく、各質問で作業することができます。

見るとは何か

「See」という単語は、研究がその内容を明確にするまではシンプルに思えます。ストーリーでは、視点のあるカラフルなシーン、物体の位置に関する瞬時の知識、通常の視覚的な視点のない画像、またはイベント全体が利用可能であったという信念を意味することができます。この区別は、クオリアを記述することと可能な情報チャネルをテストするために重要である。

RingとCooperは1997で、31や他の体外離脱体験を報告した盲目の参加者のインタビューを公開した。「見る」ことは、空間的知識と他の印象の組み合わせを伝えることができる。ナンシーの場合は、目撃者にインタビューすることが可能だったが、彼の話には通常の聴覚チャネルも含まれていた:彼は名前で患者に演説した。この研究は異例の解釈を提供したが、公開された情報は各エピソードを目のない視覚検査に変えなかった。[11]

そのような物語に対する態度に依存しない有用な原則は、テストされる知識は、それを取得する意図した方法とは別に記述

されるべきである。誰かを正しく識別した場合は、確認前に報告した識別可能な兆候を知る必要があります。オブジェクトに名前を付ける場合、正確性、位置、および事前または後でそれを見つける能力が重要です。正しい答えでさえいくつかの情報源があり、検証のタスクは徐々にそれらの区別である。

これは、語り手自身の言語に注意を払う必要があります。研究者は、写真がリトークするのにより便利だからといって、異常な感覚を普通の絵に変えるべきではありません。同時に、曖昧な「すべてを知っている」は、追加の情報なしに特定のオブジェクトの正確な知識と見なすことはできません。検証可能な部分は、その確実性、記録時間および比較の独立性のために重量を受ける。

外部の出来事と体験談の正確さ

AWARE I の著者らが詳しく検討した事例では、57 歳の患者が蘇生について述べた情報を、著者らが医療記録と自動除細動器の作動に照らし合わせた。時間的な対応は、およそ数分の範囲で再構成された。この場面について患者個人の脳波記録はなく、部屋には隠された視覚標的も設置されていなかった。したがって、公表された検証が扱っているのは、識別できる蘇生時の出来事であり、あらかじめ隠した画像を読み取ったことではない。[3]

外科医 Lloyd Rudy のよく知られた体験談でも、情報の由来に同じ注意が必要である。Rivas と Smit の論文は、後年の彼の映像による証言と、その映像を見た助手による確認に基づく。二人によれば、患者は、メモが付いたモニターなど、手術室の細部を語ったという。患者の身元と診療記録は確認できず、出来事の順序の精度には限界が残った。この事例のモニターは、この世界の手術室に属する。それを、想定される死後の世界の機器一覧に加えることはできない。[12]

そのようなメッセージは、利用可能なドキュメントの範囲内で説明を必要とするケースとして有効です。しかし、証拠の強さと歴史の繰り返しの数は同じではありません。繰り返される言い回しは失われた医学文書を復元しない。物語を読んだ後の

確認は、独立して保存された記述とは異なります。これらの状況は、ストーリーテラーの信用度ではなく、説明範囲がどの程度狭くなるかを決定する。

特別に用意したテストでは、検証可能な答えを得るための本当のチャンスも必要です。HoldenとJoestenの隠れたカード付き病院プロジェクトでは、研究期間中に利用可能なテストインタビューは得られなかった。個々の報告された経験は、設備の整った部屋の外で起こりました。この結果は組織の難しさを示していますが、カードを読むのに失敗した一連の試みを表していません。[13]

この段階の終わりには、二つの独立した結果が残る。一つ目は、自分の立場と身体性をどのように経験するかに関するものです。二つ目は、環境に関する情報を検証することです。その接続は、特定のケースからのデータに基づいてのみ可能です。人や設備のある部屋ではなく、通路、光、またはグリーターがあります。テストは、認識可能な地球上の出来事から、別の環境に関する物語自体の構造に移行する。

第 5 章 移行と出会い

慣れた空間によらない移動

身体に対する姿勢を変えてから、物語は動き続けることができます。「トランジション」という言葉は、誰もが取らなければならない必須の道路を想像しない限り便利です。遷移には方向がありますが、可視パスがない場合があります。近づく感覚はあるが、距離はない。シーンはすぐに変化し、二つの記憶状態を接続しようとする試みにのみ動きの印象が現れる可能性がある。

その物語をミセスという名前で出版した女性。グレースは、光る曲がったパイプ、軽さ、そして耳の参加なしに知覚された心地よい音を説明します。彼女は考え続け、意図的に前進します。この物語には生き物や声はありません。この物語は手術後の経験と関連しており、出版物は確実に確立された心停止を提示していない。[14]

この説明により、私たちは動きの経験を出会いから切り離すことができます。プロット自体はここに付随する人を必要としません:方向はすでに設定されています。彼が他の物語に登場することに基づいて挨拶を追加した場合、元の証拠は変わります。再構成されたマップは、ガイドのないパスと前のパスのない出会いを可能にする必要があります。



図7。ガイドなしの移行。物語からの輝く曲面通路の芸術的再構成ミセス。グレースこの記述は、意図的な動きと軽さの感覚を保持します。[14]

移動の方向と、どのように移動するかの区別も、同じくらい重要である。通常の歩行では、身体が比較的安定した周囲の環境に対して進む。通常と異なる体験では、壁が近づきも遠ざかりもしないのに、移動を感じることがある。逆の語り方もありうる。周囲がすべて変わる一方、観察者自身は同じ場所にとどまる、というものである。移行という全体の意味は共通していても、想定される空間の幾何学は異なる。

したがって、トンネルは体験の具体的な形態として、移行は状態どうしのより広い関係として記述すべきである。この区別は、後に廊下、川、場面の瞬間的な切り替わり、以前の周囲の消失が一つの図式に現れるときに役立つ。それらは同じ対象にならなくても、物語の中で似た役割を果たしうる。

他者が見分けられるようになる

ピーターNの物語では、目に見えない存在が近くで現れます。彼の答えは外部と内部の両方に知覚されている。トランジションには、暗黒、動き、リズミカルな音が伴う。ピーターはヘリコ

プターと比較する。その後、識別可能な光の個性が生まれ、そのメッセージは感情とともに思考として伝達される。珍しい色や星のような生き物は、彼が自分自身の中でそれを経験するにもかかわらず、メッセージの源を認識している環境を形成します。ピーターは、エピソードを次々にリストすると、その経験がうまく伝わらないと強調する。団結の感覚は、個々の個性を壊さなかったと彼は言った。これは、自動車事故後の経験の後期記録です。[15]

ここでは、対話者は部屋の彼の顔、衣服や場所によって異なっていません。主な機能はメッセージの起源です:それは別のものから来るように経験されます。人自身にとって、これは電話で知り合いの声として確信することができます。外部の研究者にとって、二つの質問が残されている:誰か他の人の著者に対する信頼とどのような情報が得られたか。

「テレパシー」という言葉は、しばしばこのようなコミュニケーションの略語として使用されます。しかし、経験を記述する際、いくつかの可能性を組み合わせる。一つは内なる言葉に似ており、もう一つは意味の直接的な理解のようなものであり、三つ目は対話者の感情を含んでいる。メカニズムを議論する前に、フォームを復元する必要があります:単語、言語、イントネーション、画像、もう一度尋ねる機会がありました。これらの違いが失われると、普通のフレーズで話すことと突然黙った理解は一つの兆候になります。

シャロンTは dr死と二人の白い人物の後、自分の寝室のシーンを思い出します。一人は彼女にイエスのように見えますが、彼女は顔を詳細に調べていません。数字は静かで、愛と支持が感じられます。彼女は伝えられた指示を報告しない。窓の光は夜明けのように徐々に強くなります。シャロンは、ベッドに横たわっている人物の目の開口部をプールのそばで覚させる。イベントの外部位置は、経験豊富なシーンのスペースとは異なります。[16]



図8。沈黙の伴奏。シャロンTの物語に基づいて、二つのライトフィギュアと寝室で光を増やします。設定は従来通り行われ、外部イベントとプールでのdr死を関連付ける。[16]

沈黙の伴奏も社交的な出会いです。人は言葉なしで受け入れられ、彼らの役割のヘルパーとして存在を知覚することができます。しかし、この役割はまだ生涯を確立していません。「私は助けられました」、「それは知り合いでした」、そして「それは特定の死んだ人でした」は異なる声明を含み、それぞれが独自の検証を必要とします。注意深く読むことは、語り手自身がそれらを一つの単語と組み合わせた場合でも、この違いを保ちます。

見覚えと名前

顔を認識し、親しみを感じることは異なる出来事です。最初のケースでは、外観の特徴に名前を付け、写真を比較し、変更について説明します。第二に、人は名前や人間関係の地球的な歴史を持たなくても親密さを確信することができます。このような認識は、帰国の感覚にとって特に重要である:たとえそれが以前に見たアドレスとして記述できないとしても、場所はそれとの関係を通して自分自身になる。

また、経験中の認識と後で与えられる名前を区別する必要があります。バルCは異星人との暫定的な比較で、珍しい人物を描写している。彼女はその登場人物の外観について以前に読んだ本の影響を許している。シーンそのものでは、ヴァルは命のショーよりも対話者に興味があり、彼の目を見る許可を求めています。地球上の友人と学校の演劇は、彼女の記憶にアクセスでき、彼女の復帰意欲に影響を与えます。彼女は、誰もが期待に従って他のストーリーのその後の読みと画像が表示されるという説明を結び付けています。[17]

このようなソースは、イベントとその説明を分離するための独自の試みを含んでいるため、特に有用である。個人的な外観の仮定は合理的かもしれませんが、それがよく説明されているからといって元のシーンの一部にはなりません。物語を比較するには、両方の層を保存する必要があります:その生物がどのように見え、人々が後でそれについて考え始めたか。

これは「神」という言葉にも当てはまります。それは、登場人物、目に見えないガイダンスの源、普遍的な団結、または人が経験に付随する意味を示すことができます。これらの使用は完全に一つの画像に還元することはできません。語り手の目でこの出会いが正確に神聖なものとなったことを知ることができれば、神との出会いについての声明はより明確になります:話される名前、意図の知識、無条件の受け入れまたは絶対的な信頼感。

リサRは、境界の外にある光のある暗い部屋、色のついた服を着た短い生き物のグループ、そしてコミュニケーションを数回中断する主な対話者について話します。彼女にとって、厳しい顔は優しい目と組み合わされています。別の参加者は、目に見えない対話者神と呼ばれます。リサ自身は彼に会わない。彼女の説明によると、生き物は彼女の考えを理解していますが、部分的には彼女を自身の考えに許可します。彼女が事故を思い出すと、好奇心は恐怖に変わる。彼女は滞在したがっているが、返還は必須であることが判明した。[18]

この物語では、登場人物のメッセージと行動の観察を通じて階層のメンバーシップが確立される。体験はすべての参加者に平等なアクセスを提供するものではありません。これは、意識

の普遍的な透明性に関する仮説の有意義な制限である:直接コミュニケーションの可能性は、誰もが全員についてすべてを知っているという意味ではない。

慰めが約束されていない出会い

導体は外観だけでなく興味深いです。彼には指示権、許可権、拒否権、答えを待つ権利、または別の決定権がある。したがって、感情的な印象と権力分布は別々に考慮されるべきである。友好的な対話者は自由をほとんど残さない。厳格な図形は信頼できると認識することができます。愛の感情自体は、提案された道を拒否することが可能かどうかという質問に答えていません。

個々の「I」が特に明確に現れていることはここにあります。質問、異議、決定を延期したり考えを隠そうとするには、自分の欲望と他の人の意図を区別する必要があります。人はそのようなシーンを記述する場合、彼の周りの一体感と共通の関係がある場合でも、彼の自己は完全には溶けていない。団結と抵抗が同じ瞬間に属するのか、それとも記憶の異なる部分に属するのかを知ることは重要である。

ティナ・Wは子どもの頃の電気的トラウマについて、自身の身体と白い光を冷静に観察したが、トンネルや生き物、生命調査、全知科学、時間変化を否定した。彼女の話は、身体感覚の復帰で終わります。彼女は出会いが開かれる別の世界を報告しません。[19]

サミーEは、国内の危機を説明しながら、他の存在や声の存在を直接否定します。異常な状態では、彼は自分自身の人生を覚えており、戻ってくることを考えています。通常の視覚や聴覚はなく、身体は記憶のように遠くに感じられます。数行の思考が同時に経験されるが、彼自身のままである。主な内容は反射であり、光やトンネル、宇宙科学などは存在しない。危険な状態の医学的期間は独立して確立されていない。[20]

経験は自己認識に富み、外界をほとんどあるいは全く含まない。ここにガイドがないことは、復元する必要がある欠落した文字のようには見えない。イベントの性質を変化させます。その人は状況を理解しているだけで残されており、決定は会話として形式化されていません。

この出会いは、自己を超えて経験の可能な拡張を表します。時には他の人は存在し、時々彼はお互いを知るようになり、時々彼は規則を説明します。次のシーンでは、より複雑な組織が表示されます:コミュニケーションのためのスペース、過去へのアクセス、アクティビティと制限。一つの出会いが、世界全体の表象となるのです。

第 6 章 人生の振り返りと周囲の世界

過去に触れられるようになる

普通の記憶は過去の一部を浮き彫りにする。他の出来事や、他の人々の経験は注目の対象外です。したがって、人生の完全な概要の物語は、主にその想定されるアクセスの完全性において印象的です。人は、自分の行動を同時に見て、その動機を理解し、その結果を他の人に感じることができると報告します。主観的な状態の正確な記述としてそのような記述を受け入れると、オブザーバーの位置が変化します:彼はイベントに参加しており、いくつかの側からそれの目撃者であることが判明しました。

キャサリンLは、パビリオンとスクリーンをテーブルに置くかのように説明します。レビュー中、彼女はショーを一時停止し、エピソードを拡大して、彼女の行動に影響を受けた人々を含むさまざまな視点を見ることができました。生き物との会話も行動する機会を逃した。彼女は手術からの合併症の経験をアトリビュートしますが、心停止に苦しんだかどうかは分かりません。[21]

この説明では、画面はイベントへのアクセスを提供し、道徳的意味は視点の変化から生じる。これらの機能は分離できる。たとえあなたが視覚装置を取り外しても、行動とその結果に関する共同認識のアイデアは残ります。他の人の視点を外すと、自分の生涯を見るのと同じように、一連のシーンが残されます。二つのレビューオプションは、ストーリーテラーとは全く異なる意味を持つかもしれません。



図9。人生と視点の変化の見直し。カトリーヌLによる物語に基づいた芸術的再構成:画面はテーブル上のように位置します。画面上のエピソードとパビリオンの詳細は従来から描かれている。[21]

審査は事前に裁判所と見なすことはできません。裁判所にとって重要なことは、告発、規則、査定官と決定です。理解の変化は自尊心に十分である。両方のプロセスは会話の中に存在し、人自身が後悔を経験し、同時に他の人の評価を聞くことができます。この研究は、それを身近な宗教的または心理的用語に置き換えることなく、この構成を示す必要があります。

Odell Hは、いくつかのシーンがある大きなスクリーンを思い出し、そのうちの一つは議論のために拡大されました。残りは縁に残った。彼は対話者をイエスと呼んでいる。この物語には、非難への恐怖、行動に対するコメント、笑いの共有が含まれている。オデルによれば、犯罪の動機を装飾しようとする試みがすぐに発見され、良い行動も議論された。トンネルは見学後に現れる。ページでは、同じほぼdrれる物語の二つのバージョンが紹介されている。これは一人の目撃者であり、イベントの順序の二つの確認ではない。[22]

この順序は正確にその特異性のために有用である。ユニバーサルルートの先頭にトンネルを置くと、元のシーケンスは消え

ます。意味の比較は、類似する要素が異なる接続される可能性を開放しなければならない。順序は安定していないが、マップはシーン間の遷移の可能なネットワークを表す。

物としての画面と比喩としての画面

画面画像は特に注意深い読み込みが必要です。「人生は映画のように過ぎ去った」という言葉は、記憶の急速な出現を示すことができます。表面、フレーム、人物に対する位置、および制御方法の説明は、説明をより具体的にします。もう一つの例は、珍しい経験を伝えるために数年後に選ばれた近代的な比較です。これらのオプションは、語り手が同じ単語を使用した場合でも異なります。

リエットWは、白い部屋、白い服を着た男、そしていくつかのフラットタッチスクリーンを説明しています。一つはライフオプションを示し、もう一つは追加情報を提供します。彼女はどちらの選択肢も好まないにもかかわらず、選択しなければならないと感じている。その結果、彼女が同情している家族を優先します。決定の後、ドアを通る通路が続き、継続は記憶されません。彼女はこの回想エピソードを四歳前後まで遡るが、その出生前の解釈は成人向けの出版物に含まれている。白い衣服は医療ガウンと呼ばれていません。[23]

ここでは、レビューストーリーのいくつかで、正確な実体的類似性が現れる: 情報は別の表面を通して見ることができる。しかし、コンテンツは時間の反対方向に向かっています。ある場合、過去が、もう一方の場合には可能な未来が示されます。選択や知識の表現方法が一般的に見えるが、その意図する目的は異なる。

Shelley Pは部屋といくつかのスクリーンも説明しているが、三つの生活を同時に表示していることを詳細に強調している。一つのオプションは拒否ジェスチャー後に消え、もう一つは再生されます。護衛は、彼女が最初に望んでいない人生を受け入れるように彼女に説得します。後に同じページでは、多くの魂を持つ円形劇場が登場しますが、これは別の大人のビジョンで

す。選択室と円形劇場を一つの連続したシーンに組み合わせると、ソースが歪む。[24]

この区別は空間地図にとって重要である。一人によって説明される二つの状況は、必ずしも隣接するものではなく、必ずしも同じ状態のクラスに属するものではない。それらを一つの場所の一部と考えるには、語り手自身が示す接続が必要です。テキスト全体の豊かさは詳細な地理の印象を与えることができるが、ソース材料は離散的なエピソードから構成される。

画面の位置、画像を選択する方法、停止する能力、別個の付随人:いくつかの機能が一致した場合、類似性はより意味を持つようになります。しかし、この組み合わせでさえ経験の起源は決定しません。彼女は比較質問をする。回答するには、レコードが現れた時間、人が利用可能な文化的イメージ、および記憶の状況を考慮する必要があります。複雑な情報を説明するための装置の単なる利便性は、共通の外部技術の存在を裏付けるものではない。

人間の人工物には重要な特性があり、直ちに行動方法を提案する。ドアは通路を可能にし、本は読書を招待し、キューはアクセスを待つことを意味します。物語を解釈する上で、この手がかりは強すぎるかもしれない。装置が似ているのを見た研究者は、目撃者がまったく言及しなかった機能に起因するリスクを負っている。

環境の記述に登場する部屋と本

ジョージCは長い白い廊下と右側の部屋を報告します。彼は背が高くて軽い生き物を伴っている。部屋には他の生き物と、廊下とは対照的な星陰があります。彼が他の人が彼と一緒に行くかどうか尋ねると、付添人は彼らがまだ準備ができていないと答えます。ジョージは小さく感じ、彼の仲間の態度を父親と比較します。彼は旅と誕生の終わりを覚えていません。客室内の治療は記載しておりません。[25]

そのようなスペースは簡単に病院、教育機関または物流センターと呼ばれることができます。しかし、各名前は情報を追加します。病院の場合、治療の兆候が必要です。学校の場合は -

訓練のため、配布のため - 場所を割り当てるために。廊下と待っているだけでは、これらのバージョンから選択できません。時々、最も正確な定式化は記述的なままです:フォローされている人が移動している間、他の人が存在する部屋。

Brian D氏は、学習に伴う机や本、インデックスカードについて話します。彼のガイドはほとんど顔のない黄金の生き物として現れ、精神的にコミュニケーションし、彼が見えなくなった場合でも接続を維持します。彼の身近な感覚がありますが、認識可能な顔はありません。コミュニケーションはユーモアを可能にします。ブライアンは、地球人格が形態の一つを代表する広い存在として自分自身を経験します。彼は質問をして注意を向け、最後に他のライトアシスタントが現れます。これは逸話的な医学的および時間的評価を伴う自己報告である。[26]

そのような場面では、知識は通常の組織を受けます。机は学生の場所を分け、本は内容を保存し、カードインデックスは検索を約束します。一緒に彼らは情報を扱う印象を作成します。主観的な世界を理解するためには、実際に読み、検索し、覚える必要があるのか、あるいはその意味がすぐに使えるようになったのかどうかを知ることが重要です。最初のケースでは、一貫した活動が維持される。第二に、周囲のオブジェクトはむしろアクセスを提供し、そのメカニズムは記述されていない。

これにより、シーン内の因果関係の問題が提起される。本を開けた人が答えを受け取った場合、オブジェクトはアクションに参加します。彼がすでに答えを知っていて、同時に本に気づいているなら、接続は弱いです。後で説明としてこの本を追加した場合、私たちは記憶の言語について話しています。三つのオプションはすべて誠実かもしれませんが、経験豊かな世界の構造に関するさまざまな情報を提供します。

白衣とこの世界の職業

白衣を着た人々についての、とりわけ文字どおりの体験談の一つを公表したのは、スティーヴンIである。彼自身は、それを成人の夢と明記し、長年、看護師として働いてきたと述べている。夢には、ストレッチャー、医師と思われる人影、そして過

去の自分と想定される人物に関係する写真や画面の画像が現れる。ただし、この人物についての独立した確認は、掲載された文章には含まれていない。[27]

この例は、被写体類似性がコンテキストとともに保存されるべき理由を示している。ローブは確かに存在します。しかし、夢の中での検出は、医学的に決定された死に近い出来事をもう一つ生み出さない。病院環境に関する専門的な知識もソース記述に含まれているが、それ自体は夢のすべての詳細を説明するものではない。



図 10。白い服と医療用の白衣。左は、白い服が現れる、リエッテ W が出生前の記憶として報告した体験。右は、成人のスティーヴン I の夢に現れた医療のイメージである。この二連の図は、異なる二つの報告を再構成している。[23] [27]

体験と習慣的なイメージの異なる関係が可能です。人は、他の世界では、身近なものを実物として知覚することができます。彼はそれらを特別に選ばれた代表として理解することができる。最後に、画像はその後のリテリングでしか理解できない。これらの可能性の中から選択するには、目撃者が何を主張しているのかを知る必要があります。彼が見た部屋が文字通りの部屋か、コミュニケーションの形かを決めることは不可能だ。

注意に依存する世界

キャサリン・Lは、彼女が注意を払うと建物の形がより明確になり、同様に自分の存在の人間の形が現れる可能性があると付け加えた。彼女の発表では、客観性の度合いは濃度に依存する。後に彼女は庭園にとどまったが、都市に深く入り込むことができなかった。彼女は一人の対話者イエスを呼ぶことを決めたが、彼女は神聖な意図の代表として彼をより説明した。得られた知識の内容は、戻った後にアクセスできなくなることが判明した。[21]

そのような世界は、通常の方法ではマッピングが難しい。マップは、オブザーバーが別の方向を見ている間、オブジェクトが持続すると仮定します。物語そのものが注目につながっている場合、別の質問が発生します:それが変化すると、正確に何が安定していますか? おそらく、場所、機能、他者とのつながり、または認識の感覚。答えは、繰り返しユニットと見なすことができるものを決定します。



図11。客観性と注意力。形が集中的に定義されるようになったというキャサリンLのメッセージの条件付き視覚化。詳細な変更は、説明された経験を伝えます。[21]

キャミ R は、姿がはっきり見えるわけではない存在、全体の一部である感覚、以前の身体で生き続けることについての共同の決定を報告している。体験全体に、明確な順序や場所があったと述べているわけではない。その語りには入院中とその後の複数の状態が含まれており、臨床上の同じ一分間にまとめることはできない。[28]

主題とほぼ非対象の物語を一緒に考えると、可能な記述の範囲を示す。一方の端には、建物、表面および活動があります。もう一方には、詳細な設定を必要としない関係、意味、決定があります。一般的な機能は依然として保存されるが、馴染み深い地理は定義されなくなる。

さらなる比較は、この違いを維持するべきです。組織化された世界を体験することは、常に変化し続ける環境を記述することを意味するとは限らない。ストーリーテラーにとって、最も持続可能なことは、他の人とのつながり、帰属意識、そして何が起こっているのかを理解することです。これらの特性は、運動が停止し、滞留が起こると特に顕著になる。

第 7 章 滞在、休息、回復

到着した後

「ステイ」という言葉は、物語の重要な変化を表しています。遷移が完了し、最初の位置が理解され、次のイベントはまだ発生していません。これらの点の間で、経験のある空間で生活することが可能になる:話す、観察する、活動を選択する、または単に落ち着く。ここで、新しい出生の準備に還元できない物語にギャップがあるかどうかという問題が発生します。

Maureen Kは、最初の出会いの後、彼女の回復に従事する別のヘルパーのグループについて説明します。彼女は柔らかい暖かい毛布、明白な情報源のない音楽、そして疑問の余地なくニーズを理解することを覚えている。アシスタントは黙って働いています。最初に彼女は本当に死んだのか、何が起きているのかを尋ねます。恐怖は落ち着きます。モーリーンは近くの人には気づいていない。彼女は直接、過去の時制を決めるための基準点がないと言います。すると他のアテンダントが登場する。この物語は、医学文書に付随することなく、危険な状態の自己報告として出版された。[29]

この場合、復元はシーン自体の内容によって強調される。それは即時救済とは異なります:注意を必要とする状態の経験があり、助けがあり、その完了があります。カレンダーの持続時間がない場合でも、シーケンスは残ります。最初は助けが必要で、その後状況が変わります。このような遷移は、それが何分間に対応するかを計算せずに記述できる。



図12。到着後はお気を付けください。Maureen Kの物語からの柔らかい毛布と静かな助け。芸術的再構成は修復と落ち着きを伝えます;持続時間はソースに指定されていません。[29]

救済、休息と回復は完全に同じではありません。安心とは、痛みを伴う感覚が減ったということです。休息は行動する必要性の欠如を意味します。回復は、いくつかの能力や状態の復帰を意味します。物語はこれらすべてを含んでいるかもしれませんが、一つの兆候に限定されることがあります。暖かさの感覚は治療を示すものではなく、疲労の欠如はそれ以前に休息期間があったことを証明しません。

とどまる可能性

OBERFアーカイブのJames氏は、おそらく以前の死亡、白地回復、そしてその後の訓練について概説している。グローブでは、彼は教師に地球に戻るか、メンターと一緒に滞在するように提供されています。長い会話、谷を見下ろすベンチ、白ひげの教師が記憶に残っています。ジェームズは、この場所が彼のためだけに作られたように感じています。メンターはこれを予約で確認します。生まれてくる準備はだんだん整う。それは抵抗に先行し、それから愛する人への別れと将来の兄弟の会です。Ja

mes氏は、回復までの時間を測定することができないことを強調している。「分か年」という表現は不確実性を伝えます。彼は存在と宇宙を通じて神の言及を説明します。これは成人向けの出版物であり、幼少期から記憶があり、以前の生涯や初期の文書は未定である。[30]

そのようなストーリーの中で、このギャップには独自のコンテンツがあります。それは到着の即時ソートとして記述できない関係と興味を含みます。さらに、特定の状況にとどまるという選択は、無期限にとどまる権利を決定するものではありません。テキストは、一つの決定とその後の心の変化を示しています。このエピソードを普遍的な自由の法則に変えることは、物語そのものが提供しない情報を追加します。



図13。滞在する機会。谷を見下ろすベンチとジェームズの物語に基づいたメンターとの会話。芸術的再構築は、滞在の別のエピソードを伝えており、その期間は不明である。[30]

比較のために、機会と好みを区別することは特に有用である。人は滞在して、それが不可能だと感じたいかもしれません。滞在できるかもしれませんが、継続したい。コミュニケーションが進むにつれて、欲望を変えることがあります。その後、移行の理由は、特定の期間の満了ではなく、個人の状態の変化にあ

る。これらのオプションは、帰還の異なるパターンを作成しますが、短いリテリングのレベルでは、「彼は返された」ように聞こえます。

ギャップには別の性質があります:それはそれ自体で評価することができます。会話、関係または環境の探索に興味深い場合、その意味は将来の生活に限定されません。これは学習仮説を議論するときに考慮しなければならない。仕事の準備のため、理解のために、あるいはコミュニケーション自体のために学ぶことができます。特定の意味を選択するには、メンターの存在だけでなく、メッセージの内容を知る必要があります。

保ちたい安らぎ

アンジェラEは、以前の死、疲労、身近な存在からの快適さ、そしてコミュニケーションから撤退したいという願望の後に説明します。彼女の以前の家族への Reみと彼女の運命への関心は残っていますが、彼女に付随する人々は痛みを引き起こさないように継続的な観察を許しません。彼女はさらに休息を許される。その後、彼女は両親を選ぶことを拒否し、彼女によると選択は彼女のために行われます。この間隔の感覚環境はほとんど記述されていない。焦点は、安全性、遅延と決定への参加の度合いを変更することです。幼少期の記憶という仮説には、他の独立した記録は存在しない。[31]

この例では、詳細な風景がないと、ストーリーが心理的に空白にならないことがわかります。内部状態は空間よりもよく説明できる。人は何を回避し、いつ相互作用を始めるかが求められます。滞在マップでは、これはドアと部屋の数よりも有用です。人格の回復は、関係に入る準備の復帰を通じて描かれます。

しかし、ここではケアとマネジメントは互いに排他的ではありません。アシスタントは遅延の要求を尊重し、後でメンテ人の決定を下すことができます。人間にとって、これは合理的、強制的、または不公平に見えるかもしれません。付随する人々の役割を理解するためには、彼らの行動に対する語り手の態度を再構築する必要があります。「愛する」という一つの単語は、相互作用の全順序を記述するものではありません。

ジェニファー・Bは、彼女にとってとても長く続くように思えた暗くて安全で身近な状態を覚えている。私は出発したくない。フリーストーリーでは留まる機会があり、アンケート回答は離れる必要性を語ります。好意的な存在は、この決定に関連付けられている。音や匂いは記述されず、出発の瞬間に緊急感が現れます。[32]

この相違を維持することをお勧めします。可能な説明には、欲望の変化、「缶」の異なる意味、不正確な質問、または後の記憶の組織が含まれます。一つの説明を選択するには、さらなる根拠が必要です。それらが利用可能になるまで、ソースは経験した自由と経験した必要性の間に緊張を示す。この緊張感は、過度に滑らかな編集で消えてしまう要素です。

活動と関係

Diana Gは、明るい風景、クリスタルの建物と図書館を説明しています。独立した太陽はなく、光は周囲の光から来るようです。彼女の印象では、彼女が遭遇する生き物は芸術と創造に従事しています。身近な存在が彼女を案内し、帰還について話し合う。ダイアナは最初に抵抗し、それから同意する。物語はほぼdr死しており、彼女自身は彼女の臨床的死亡が確立されたとは主張していない。[33]

そのようなシーンは活動の質問として重要です。他の人生が地球上の痛みの欠如としてのみ記述されている場合、その肯定的な内容を満たすものを理解することは困難です。終わりの苦しみを超えて目標を創造し、コミュニケーションし、探求し、そして導入するのに役立つ。参加者同士の違いも想定します ― 結果を見たいと思う人もいれば、学んだり、学んだりする人もいます。



図14。活動と創造性。Diana Gのストーリーに基づいた二つの別々のシーン: 左側は図書館、右側は創造的な活動です。建築と具体的な活動が伝統的に描かれています。[33]

これは、世界モデル自体に関する内部的な疑問を提起する。すべての知識がすぐに利用可能であれば、どのような意味で学習が必要ですか? すべての欲望がすぐに満たされると、長期的な仕事の意味は何ですか? これらの質問は物語を反省しない。彼らは、主張されている知識の完全性が特定のトピック、要約状態、または一般的な後の解釈に関連するかどうかを明らかにするのに役立ちます。

いくつかの論理的に異なるオプションを想像することができます。結果の知識は利用可能だが、プロセス自体はまだ経験されていない。アイデアは明確ですが、あなたはアクションの方法をマスターする必要があります。他人の感情は知られていますが、彼らとの関係に入る自由は維持されています。これらは分析の可能な区別であり、既存のポストモーテム配置に関する情報ではない。特定のストーリーは、そのうちの一つを選択する理由を提供するべきです。

コミュニケーションには、変動性も必要です。新しいことを学ぶことができず、態度を変えることができない会話は、通常

の意味で学習にほとんど似ていない。したがって、人は驚いたり、質問をしたり、最初にすべてを理解していないかどうかを明らかにすることが重要です。たとえ語り手自身が時間の欠如について話しているとしても、存在の内部のダイナミクスを示すのはこれらのような細部です。

物のない滞在

キャリーTは、大人のレコーディングで、普通の物体、身体、思考や感情が欠如していた空虚さの子供の頃の夢を思い出します。その後、好奇心が入り、猫の幼少期と傷の痛みのシーンが続きます。記憶そのものは、四歳の子どもの夢のようにフレームされ、目覚めで終わります。彼は次の説明で空白と事前の接続を開発します。出生の移行と付随する人は、この断片には記載されていません。[34]

この物語は、人口の多い休暇スポットのイメージからは程遠い。しかし、彼はまた、従うという疑問を提起する:活動していない状態を記述することは可能であり、まだそれを過去のものとみなすことができるか? ここで特に重要なのは、最初の思考不足と後の好奇心を混同しないようにすることです。すでにそれらの間の境界があり、その向こうには何か別のものへの方向が現れます。

そのようなオプションの比較は、コンテンツの豊かさと自尊心の保存を区別することを可能にします。ある語り手にとって、「I」は、愛する人の記憶によって、別の人のために、第三者のために選択する能力によって、単純な存在感によって支えられています。事前に人を定義すると、豊富な生涯が必要な場合は、後者のオプションが考慮の対象外になります。人間としての存在経験を考えると、特定の地球上の生活とのつながりは不明のままです。

したがって、滞在はいくつかの独立した方向で説明されています:州の快適さ、活動の可用性、他の人との関係、自由度と変化への準備。いずれも他を置き換えるものではない。あなたは安全でコミュニケーションを望んでいないことができます。喜びを体験することができ、同時に決定に従うことができます。

新しい生活の問題は、現在の状態を維持できなくなったり、別の参加者が移行の必要性を報告した場合に現れます。次の章は特にこの境界に捧げられます。特に、オファー、合意、譲歩、割り当てと、語り手が後に自分の選択と呼ぶものの違いを示しています。

第 8 章 戻ることの選択

何を選ぶのか

生まれ変わることの選択は、人生の間にいるという話に対する自然な結論に思えます。しかし、「選択」という言葉はいくつかの異なる行動を隠している。あなたは体の中に存在し続けること、家族を選ぶこと、他の人よりもいくつかの状況を好むこと、またはもはや変更できない決定をすることに同意することができます。それぞれの場合、ある程度の参加は保たれていますが、自由度は異なります。

アダム K は、二つの選択肢を提示されたと回想する。背が高く、双子のきょうだいなしでスポーツ選手になる可能性をもつか、双子の兄弟と暮らし、深い結びつきをもつか、という選択である。彼は兄弟との関係を選ぶ。この場面には、場所も、対話相手の身体や外見も、詳しく描かれていない。それ以前の死や、出生そのものも示されない。幼い頃、母親にこのことを説明しようとしたという話は、後年になって刊行された。[35]

そのような物語では、人は自信を持って選好の対象を識別できます:関係は他の可能性よりも優れています。しかし、二つの人生の間で選択する能力は、生まれない機会を意味するものではありません。オファー全体を拒否する権利は、別の機能です。説明されていない場合、それは未知のままであり、自動的に存在するか存在しないと仮定すべきではありません。



図15。選択とはどういう意味ですか? 分析フレームワークは、決定への参加、状況の選択と修正の可能性を区別する。一つのパラメータを選択する自由は、他の自由の範囲を決定しません。

ミシェル・Nは大人のエントリで、幼少期から付き添い、出生前に遡ったという記憶の夢と点滅を説明します。彼女は静かな暗い空間、別の少女と次の人生への願いについて尋ねる目に見えない対話者について話します。富と人気に対する最初の欲求は、人生の教訓の選択に置き換えられます。その後、水のない古代のボートのようなもので自分自身を見つけます。白い光が記憶を完成させます。生前死の場面はない。[36]

ここでは、学習動機がリコールされた会話の中に存在する。さらに、そのような選択から、すべての化身の目的を確立することは不可能です。社会における地位、関係、経験、助け、または特定の品質の獲得など、望ましいと見なされるものを比較することしかできません。シーンの外部組織が異なる場合でも、好みのオブジェクトは意味のある比較のための材料を提供する。

同意は変わりうる

クリスチャン・サンドバーグは、苦痛な生活の後、長い遅延、ハンドラーの準備とその後の同意についての繰り返し質問について説明します。別のエピソードでは、彼は制限を受け入れるためのトレーニングを思い出し、大まかにそれをシミュレーシ

ョンと呼んでいます。ガイドは最初にラッシュがないことを保証しますが、特定の入り口の前に地球的な時間に与えられた緊急性があります。サンドバーグが伝統的に技術者と呼んでいた存在は、忘れる準備に参加し、最終的な同意を求める。医療用のガウンは記載されていない。彼はまた、文字通り観察されたデバイスではなく、粗い比較として内部状態の棒グラフも提供している。記憶は、me想を通じて大人になって戻ったと彼は言った。[37]

一見すると、時間からの自由と急ぐことの要件は互いに矛盾しています。しかし、物語はそれらを異なる解決策と呼んでいるかもしれない。選ばれた機会には限られたウィンドウがありますが、無期限に参加することができます。これらは論理的に互換性のある規定です。検証の質問は次に始まります:なぜ私たちはそのような窓の存在を確立し、地球上の出来事に結び付けることができますか?

この区別は、プロセスとしての同意を理解するのに役立つ。最初の好奇心は最終的な決定ではありません。恐怖は先延ばしにつながる可能性があります。知覚される制限との親密さは意図を変えるかもしれない。したがって、最後の発言や誕生だけでなく、その人が合意した道も重要です。

同意には条件がある。その人はその結果を十分に理解していましたか? 準備は止めていただけますか。代替案は提案されていますか? これらの質問は、地球上の法律を別の世界に移すことを必要としません。彼らは証拠自体に「自発的」という言葉の意味を明らかにすることを可能にします。仕様なしでは、少なくとも一つのポジティブな感情が先行したイベントを呼び出すのは簡単です。

義務と拒否の限界

別の出生前の話では、ジェニファーは愛するガイドと彼女がタスクが完了するまで戻らなければならないという信念を説明します。彼女はもっとうまく対処できるように記憶を保ってくれと頼む。その後、記憶を消すという別の力が現れ、抵抗が始まります。Jennifer自身は「最後の時間」について曖昧な言葉を考

えています:それは最後のチャンスか何かかもしれません。彼女は神との出会いを報告しません。[38]

ここでは、サポートと強制が異なる参加者を指します。コヒーレントな政府のシステムも、独立した当局の紛争もすぐには予測できない。そのような結論は、それらの間の説明された相互作用を必要とする。これまでのところ、ストーリーはまず、経験した役割の違いを与えます。

他にはもっと重要なことがある。必須タスクのアイデアは、その内容に関する不確実性と組み合わせることができる。その後、人は責任を経験しますが、完了するための明確な条件はありません。これは学習仮説にとって難しい質問である: タスクの記憶が制限されている場合、成功の尺度は何ですか? ストーリーは道徳的な答えを提供するかもしれませんが、結果を検証するメカニズム自体には別の説明が必要です。

アレックスPは、痛みを伴う以前の死と繰り返しの恐怖のために次の状況を選択することができないことを覚えています。選択の時間、彼は感じ、終わり、そして彼は最終的な好みなしに体に入ります。彼は特定の過去の生涯を覚えていない、未来を知らない、そして彼の現在の生活の目的に名前を付けることができません。彼の出生に関する情報は、その後の比較として与えられます。[39]

この物語は意図した選択の感情的な中心を変えます。可能性を冷静に比較するのではなく、決定がプレッシャーの下で現れる。魂の不十分な発達、特別な教訓や誤った認識によって事前に不安を説明することは不可能です:ソースはそのような情報を確立しません。恐怖は物語の一部であり、より快適なバージョンと一緒に見えるようにするべきです。

以前の人生への帰還

別の枝は、同じ体に戻る決定によって形成される。彼らは別の科目を持っています。人は未知の家族や生涯を選ばず、自身の欲望と既存の関係とを関連付ける。意識に戻ることの単なる事実は、決定が生理的回復を引き起こしたかどうか、または決定

がこの回復の経験の一部となったかどうかを判断することはできません。

ウルスラKは、子供の危険な状態に関する後の説明で、病院の観察と母親の共感について説明します。彼女は出発の結果を考慮し、帰ってくることに決めた。トンネル、別の世界、死者と人生のレビューは直接否定します。医学的状況と病院の観察は独立して検証されていない。[40]

ここでの関係動機は、出生前の物語における親密さの選択に匹敵します。しかし、動機の偶然は二つの出来事を一つの生理学的または形上学的な手順に結合しない。同じ生涯を続けて別の生涯を始めるには、異なる証拠が必要です。共通呼び出すことができる唯一のことは、人々とつながる理由の経験です。

この区別は、「早すぎる」という言葉にも重要であり、現在の生活が終わっていないことを意味します。その完了後に次のものが必ず選択されることは彼らから従いません。蘇生後の帰還で終わる物語は、観察を超えてさらなるサイクルを残します。ソースの変更を明確に記した、別のソースでのみ満たすことができます。

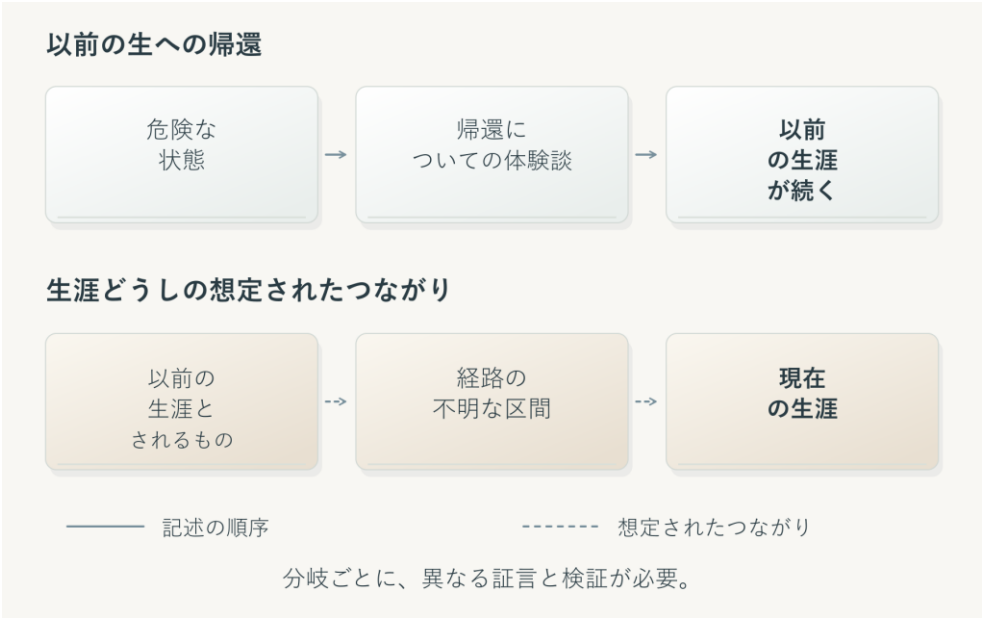


図16。帰還の二つの枝。このスキームは、以前の生涯の継続と新しい生涯との意図的な接続を分離する。各枝は、独自の証拠と検証方法を必要とします。

計画と開かれた未来

状況の選択が期待されることは、その後の人生における自由の問題を引き起こします。ここではいくつかのモデルが可能です。第一に、初期条件のみが定義される。もう一つは、おそらく困難が選択されるが、それらに対する答えは依然としてオープンである。第三に、起こることはすべて事前に記録されます。これらのモデルは、説明上の利便性に応じて慎重に変更できない: 予測と記憶に異なる要求をする。

可能性のあるブランチについて話す場合、特定のイベントとの相違は許容できるかもしれないが、予測をテストすることはより難しくなる。不変シナリオがアサートされると、予測エラーがより重要になる。仮説があらゆる結果に適応すればするほど、結果がその正しさについて伝えることは少なくなります。

録音の瞬間も考慮する必要があります。現在の難易度の説明は、難易度がすでに分かっていた後に現れる。それは人生について考える意味のある方法です。しかし、予測の明らかなタス

クは、イベントの前に存在し、かなり明確な情報を含むテキストを必要とする。運命の後期認識はそのようなテキストを置き換えない。

特に慎重な取り扱いには、事前に苦悩が選択されているという仮定が必要です。自身の同意を共有することは、他人の同意を得ることはできません。さらに、それは病気、暴力や災害が被害者のために必要であったことを立証しません。事前選択の仮説モデルでさえ、引き起こされた害に対する地球上の責任と苦しみを減らす機会が残っています。

学習動機は、すべての課題に報奨を与えない。学習について話すためには、何が変化し、その変化がどのように維持されているかを特定する必要があります。結果が完全に忘れられている場合、取得した品質の別の担体が仮定される。他者に関連する傾向や方法が持続する場合は、それを現在の生活の特徴と区別する方法を示す必要があります。これはすでに、私たちが戻らなければならない性格の連続性の問題です。

したがって、ストーリーは、異なる要素として欲望、提供、制約、同意と目的を強調することを可能にします。場合によっては、それらは明確な解決策を形成します。その他、紛争や未完の選択が残っています。その後の誕生は物語を完成させますが、その曖昧さを取り除くことはありません。何が正確にこの境界を越えたのかを理解するためには、人生の始まりの記憶に目を向けるべきです。

第 9 章 出生前の記憶

今の人生はどこから始まるか

出生前の状態の記憶は、別の地球上の生涯を含める必要はありません。人は、母親を選ぶこと、子宮で待っていること、窮屈な状態、または出生後の最初の感覚を、以前の死について何も言わずに記述することができます。その人のために、これは自身の体験談を開始します。研究者にとって、提案されたシーケンスに別の生命が存在するかどうかは不明である。

記憶の四つの科目を区別することは理にかなっています:前の生涯、生涯間の間隔、子宮内状態と出生。彼らは接続することができますが、一方の存在は他を確立しません。例えば、母親の声への言及は、家族の選択についての声明をまだ含んでいません。家族の選択シーンは、記憶された身体的感覚よりもずっと前に完了することができる。



図17。記憶の四つのアイテム。以前の生涯、推定間隔、子宮内状態および出生は別々に提示される。これらのカテゴリを組み合わせることができますが、一方の存在は他のカテゴリを確立しません。

岡戸氏と池川氏の研究は、21を調査する。13ではインタビューが実施され、母方のアンケートは八回使用されました。多くは彼らの過去の生活について話しませんでした。ある母親の報告では、犬とウェディングドレスを着た母親を見たという少女が関係している。比較は、子供がイベントの写真を見ていないと主張した母親の記憶を通じて行われます。マッチングの前に子供の言葉の独立した記録は表示されません。[41]

そのようなシーンは、外部のサポート - 親の生涯の中のイベント - を持っていますが、観察者の想定位置は別のステートメントのままです。ドレスと犬が確認されたとしても、子供が写真で見たものや家族で聞いたものを見つける必要があります。オブジェクトの詳細の確認と出生前の認識の確認には異なるテストが必要です。

身体の世界が戻ってくる

メイは、顔を思い出せない存在の支えを受けて、生きることを選んだと語る。将来の生涯は、穴のようなものを通して示されるが、彼女自身はそれを画面とは呼んでいない。白い光は、ほとんど触れられるほどに感じられ、感情を伴う。その後に、暖かさ、密度、窮屈さ、誕生時のまぶしい光、母親の声が続く。後年の語りでは、思考する主体は、乳児の身体で表現できる以上に賢い自分を感じ、言葉が使えないことにもどかしさを覚える。すでによく知るつながりだと感じる母親に近づこうとする。この記憶を早期に記録した資料はない。[42]

この記述は二つの自尊感情を結びつける。一つは体とその制限に関連しています:移動が難しく、話すことができない、感覚は珍しいです。もう一つは、すでに存在する理解と評価の能力として表される。私たちがその内部構造のレベルで物語を取るならば、誕生は観察者の想定保存を伴う表現手段の制限になる。



図18。身体感覚の回復。後年のメイの語りに現れる暖かさと窮屈さ、まぶしい光、母親の近さ。芸術的な構成によって、感覚の順序を示している。場面の細部は仮のものである。[42]

しかし、経験的な感覚と大人の名前の間には距離があります。「ウォンブ」、「選択」、「同意」、「吸入」という言葉は、初期のイメージの後期概念である可能性があります。これは画像を変更しませんが、質問を変えます。人は正確に何を覚えているのか、そしてシーケンスから何を推測しているのか、家族の説明と現在の知識を知る必要があります。

誤解の記述は特に有用である。語り手が、ある時点で自分がどこにいるのか分からなかったと主張するなら、その人が何が起きているかを十分に理解しているとは言い切れない。後のシーン認識はタイムスタンプを保持する必要がある。さもなければ、不完全な早期断片は静かに出生プロセス全体の詳細な記録に変わります。

ビルDは、待ち時間、ライン、そして体に準備ができている人を集める強力なフォームレスの存在を覚えています。通常の視覚や音はなく、他者の位置と感情が直接知覚される。彼は記憶を保存しようとし、自身の戦略計画を説明します。力強い人物の隣で、彼は理屈と行動を続けながら、彼自身の小さを感じています。それから震え、難しい最初の呼吸と冷たいスケールがあります。しかし、彼は子宮内位置を理解しておらず、以前の過去を知らないと言います。著者自身でさえ、再生は唯一の必要な結論とは考えていません。[43]

このような場合、意図の保存は、想定される知識の完全性よりも重要である。個性は目標を通して認識される:記憶し続けること。しかし、記憶の消去要求はさらに一歩進みます。記憶にはギャップがあるかもしれませんが、そのギャップそのものは、記憶が使用できなくなった理由を示すものではありません。外部消去メカニズムに関する結論を引き出すためには、追加の情報が必要です。ルートの欠落した部分すべてを自動的に説明することはできません。

子どもの体験談における移行、滞在、帰還

シャルマとタッカーは、ビルマの 35 事例の分析で、死後の移行、比較的安定した滞在、親の選択や受胎に結びついた帰還、という三群の報告を区別した。資料には、この世界の場所、役目、

快適さと不快さ、自分で家族のもとへ向かうこと、年長の存在による助けが登場した。ある記述では、ほかの存在が語り手に物を投げていた。別の記述では、必要なものが満たされ、滞在が心地よく感じられた。著者らは別途、データベースのビルマ部分の符号化が不完全であり、生と生の間の記憶があることを基準に一部が選ばれていたと注意している。したがって、その頻度を計算するための代表的な標本とはみなせない。[44]

このスキームの重要性は、特定のレコードクラスからシーケンスを抽出することである。しかし、三つのワイドノードは、それぞれの場合にどの状態が必要とされるかをまだ教えてくれません。「Stay」は、場所の詳細な説明と木の近くにいるという短いフレーズを組み合わせることができます。同じコードでは、情報の完全性が異なります。

外部および内部の標識も同様です。既知の場所は持続時間を与えません。長老に関するメッセージは、コミュニケーションの方法を確立しません。次の家族への言及はそれが自由に選ばれたかどうかを説明していません。元の研究者がこれらの質問をしなかった場合、欠落した情報は他のストーリーとの類似性だけでは回復できない。

MatlockとGiesler-Petersenは85の公開事例を比較し、検討した五つの段階のうち三つ以上をカバーした例はほとんどないと述べた。それらの材料は、アジアと西洋の記述における地上環境と非地上環境の違いを含んでいる。同時に、著者はいくつかのケースで事前の生まれ変わりの説明を受け入れます。この前提は比較自体の結果ではありません。[45]

結合したシーケンスは、ソースが完全に渡らない場合でも連続的に現れる。この場合、マップは個々の断片と一般的な仮説との互換性を示している。単一のルートに関するステートメントに移行するには、同じ状態が実際に接続されていることに加えて、それらの間のギャップは仮定で満たされていないことを確認する必要があります。

子どもの声と記録の経緯

はオカドの研究において、現在の自分と元イギリスの少年を区別する。彼はスライドやエスカレーターに例えられた画像を通しての移行を説明し、強い身体を選ぶことについて話す。情報の大部分は母親の日記に保存されています。調査のインタビューによって、多くの詳細はすでに消えていました。仮説上の元アイデンティティは見つからなかった。私の元母のイメージと彼女に会いたいという願望は、細部よりも長く続きました。したがって、利用可能な情報の減少は、感情的接続の即時消失と一致しない。[46]

この場合、日記では時間の経過とともに物語を見ることができます。どの質問があり、どの回答が最初に来たかが表示されます。確立された生涯がなくても、そのような文書は記憶の変化を研究するのに有用である。また、後の再構築の可能性も制限されている:既知の以前のステートメントをより便利なバージョンに静かに置き換えることはできない。

子供の年齢それ自体は物語を影響から解放しませんが、その内容も説明しません。家族との会話、旅行、画像、大人からの質問など、情報へのアクセスには特定の履歴が必要です。同時に、研究者は両方の方向でエラーの可能性を維持しなければならない。マッチをすぐに認めると、通常のチャネルはチェックされません。ファンタジーで説明しすぎると、可能な知識源の検索が停止します。

スティーヴンソンとサマララトネによるトゥシタ・シルヴァについての論文には、出生前に、現在の父親を巡礼の地で見ていたという報告がある。生涯に関する主張には初期の一覧が残っていたが、生と生の間についての発言が、どの記録段階に属するかは、十分には明らかでない。論文には、誤った情報も残されている。[47]

この例は、ドキュメントの日付が個々のステートメントレベルで重要である理由を示しています。ケース全体の早期記録を持つことは、後で公開されたすべての詳細が最初からそこにあったという意味ではありません。歴史はいくつかの結論を補強し、独立した支持なしに他の人を残すことができる。ケースの

一般的な評判は、特定の断片の検討を置き換えるべきではありません。

境界を越えるべきもの

パーソナリティの継続を前提とした場合、正確には何を継続するかを決定する必要があります。おそらく生涯情報、特徴的な好み、態度、スキル、親しみやすさ、または経験する能力。これらの標識は、チェック方法によって異なります。前の場所の名前は文書と比較することができます。かつての家の感覚は、記憶の起源に対する現在の自信とどのように異なるかを最初に説明する必要があります。

自己認識の連続性にもいくつかの意味がある。一つは、経験豊かな休憩がないことです。もう一つは、同じ主体が休憩の前に存在していたという信念です。三つ目は、その後の情報を保存することです。三人目の存在は、一人目を自動的に意味するものではありません:人は、移行を全く記憶せずに過去に関する情報を知ることができます。したがって、「過去の人生を思い出す」と「パス全体を記憶する」は、異なるカテゴリにとどまるべきです。

本のこの部分の誕生それ自体は、ストーリーの境界として機能し、意識の付着の所定の点ではありません。いくつかの情報源は、概念よりも早く選択を置き、他のものは後に身体へのエントリを説明し、そして他のものは身体シーンから始まります。追加の仮定を犠牲にして一つの日付にそれらをもたらすことは可能です。各ケースは、独自のシーケンスを持つ必要があります。

誕生後、別の物語が始まります - 経験の物語の話。言語が現れ、質問が発生し、アクセス可能な概念が変化します。ある時点で、初めて情報が記録される。仮説化された出来事と文書の間に数年があるかもしれません。本の次の部分は、この距離を通して復元できるものに捧げられています:地球的な時間、個人の安定性、他の人の証言。

第三部 時間と人格の連続性

第 10 章 二種類の時間

出来事の暦

時間の問題は、帰還の物語の直後に発生します。ある人が死体を捨てて別の場所にたどり着いたと言うと、どのくらいの期間彼がそこに滞在していたのか知りたい。子供が自分が死んだ人だと考えると、もう一つの質問が生じる:どれだけの時間が二つの生命を分けたか。どちらの質問も理解できますが、異なる量を指します。第一は経験期間、第二は地球暦の出来事間の間隔に関するものである。これらの数量を接続するには、追加の情報が必要です。物語の説得力だけでは、自動的に二つのスケールを同等にするには十分ではありません。

ある人の死亡日と別の人の誕生日の差は、通常の方法で計算されます。しかし、結果の意味は仮定に依存します。二つの生涯の間に他の推定される存在が欠落していないこと、および誕生は語り手が記述する移行の瞬間に対応することが確立されている前の人生であることを受け入れなければなりません。少なくとも一つの条件が不明な場合、結果の数はカレンダーの意味を保持しますが、人生間の滞在期間としての解釈は条件のままです。

簡単な算数でもチェックしなければならない。Krishna Rawat氏のShanti Deviに関する記事は、ルグディ4 十月1925の死と、Shanti 11 十二月1926の誕生をリストしている。著者は一年十ヶ月と七日間を期間と呼びます。日付に基づいて、それは一年、二ヶ月と七日、または433日であることが判明しました。これは内部的な公開エラーです。修正された減算は、日付自体を独立した検証済み文書にしません。記事では物語を再認識し、元の死亡証明書と出生証明書はここに表示されません。[48]

そのような矛盾は、物語全体の異常さと比較して軽微に思えるかもしれません。しかし、そのような数字から、帰還のタイ

ミングに関するアイデアが構築されるのは正確です。偶発的なタイプミス、翻訳エラー、または間違った月に期待されるパターンが変更されることがあります。したがって、時間をチェックすることは、各日付がどこから来るか、どの文書が表示されますか、どのくらいの日が分かっているか、テーブルとメインテキストが一貫性があるかどうかといった、日常的な作業から始まります。形上学的な解釈は、カレンダーの要件をキャンセルしません。

持続時間と順序

主観時間にはいくつかの側面がある。人は、出来事の連続を記憶し、長い待ち時間を感じ、長年が経過した経験の中で知るか、時代を超えた印象だけを保持することができます。これらの記述は一つの列に書き込めません。シーケンスは、前後に何が起こったのかという質問に答えます。持続時間の感覚は、イベントがいかに引き出されたかを示しています。年数に関する声明は、経験の内容の一部であるかもしれないが、これらの年のシーケンシャルな経験は記憶されていない。

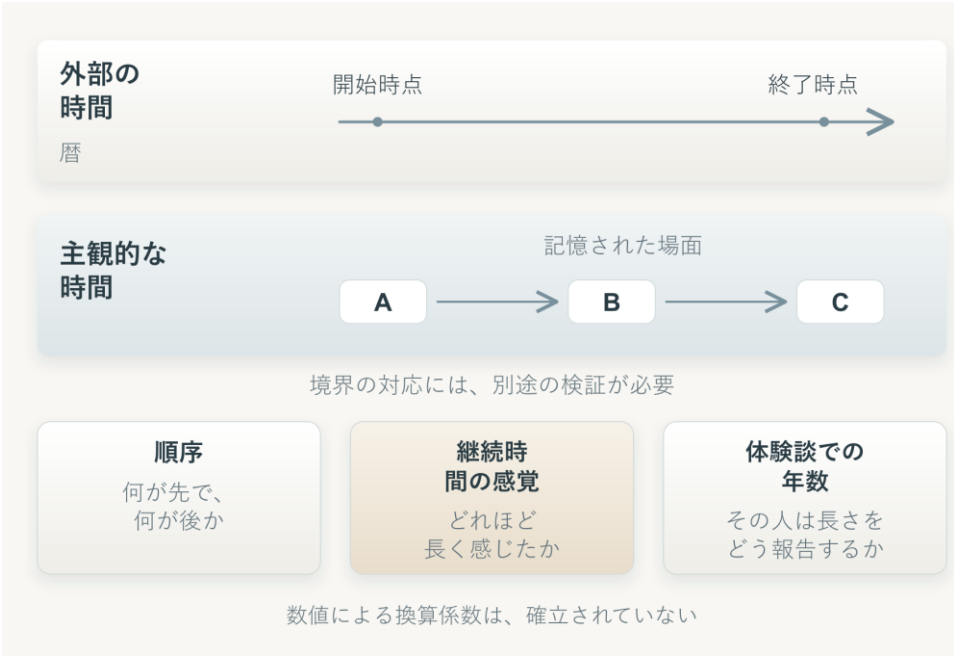


図19。カレンダーと主観時間。スキーマは外部の手がかりをシーンの順序と持続時間の感覚にマッピングします。主観的な直線は、定数値スケールを持たない。

RawatとRivasの出版物で、Shanti Deviは時間について尋ねられたとき、その感覚はなく、彼女は持続時間を推定できないと答えました。別の通路は待ち時間を呼びます。これらの定式化は互換性があり、経験は数値評価なしで一貫性と期待の感情的品質を持つことができる。ただし、催眠的インタビューの記述など、さまざまな年の資料を組み合わせるため、イベント直後に行われた一つの記録は考慮されません。[49]

「時間がない」という表現は、とりわけ慎重に読む必要がある。時計がないこと、長さへの関心を失うこと、戻った後で経過した時間を見積もれないこと、あるいは同時性の体験を指している可能性がある。それぞれについて問うべきことは異なる。語りに会話、決断、その後の移行が含まれるなら、語り手がその場所を時間の外にあると考えていても、すでに状態間の違いがある。それは体験を否定するものではない。ここでは「時間」という語が複数の意味で使われているのであり、物理モデルを構築する前に、それらを分けて考える必要がある。

精神的な例は違いを見るのに役立ちます。ある人はドアで長い間待っていると報告しますが、どのくらいの時間か分かりません。過去百年をすぐに知ったという説もある。三日目は多くの日を思い出す。三つのケースすべてにおいて、長期滞在の強い感じが可能です。しかし、第三のストーリーだけが、説明された拡張シーケンスを含んでいる。それでも、記憶が何日も表わされているか、そしてその数を確立することができるかどうかという疑問は残る。三つすべてに同じ長さを与えることは、ストーリーの主な違いを失うことです。

外部の手がかり

推定間隔の説明には、葬儀、親戚の会話、身体の近くにいる人の移動など、地球上の出来事が見られます。このような詳細は、その起源が検証された場合の一時的な参照として機能する。しかし、ランドマークは特定のフラグメントとカレンダーを接続します。後続のシーン全体を自動測定しません。認識可能な葬儀は、葬式に関連するエピソードの位置についての議論を可能にするが、庭、暗闇または見慣れない部屋でさらに滞在する期間を示すものではない。

Purnima Ekanayakeの研究は、死者の遺体の近くで数日言及し、続いて移行した。カレンダーのチェックには障害があります:表は9から四月1985までの日付ですが、主なテキストは同じ年の九月までです。出生は八月1987の24として示されます。研究者は、家族との接触の前に発話が記録されていないことも指摘しています。矛盾が解消されるまで、正確な間隔は主観時間の速度を推測するのに不適当である。[50]

エラーの別の可能性があります:人は後で地球上の出来事の時間を見つけることができます。復帰後、蘇生がどのくらい続いたかを読んだ場合、この知識はその後の物語に含めることができる。「私は七分間そこにいた」という言い回しは、「医師が七分が過ぎたと報告した」という意味で、この場合、主観的な評価はありません。研究者は、医学的間隔が内部時計を偽装し始めないように、処方と起源の両方を維持しなければならない。

どのように正確に人が彼の評価に来たかを尋ねることは有用です。彼は時計を見たり、繰り返しアクションを数えたり、昼と夜のサイクルを観察したり、キャラクターから数字を聞いたり、目を覚ました後に結論を出したりしましたか? 答えは物語全体の真実を決定するものではありませんが、比較のために一般的に提案されている価値を理解することができます。最も正確な結果は、期間が不明であることを認めることです。このような記録はさらなる研究の余地を残し、誤った精度を作り出さない。

欠けたつながり

特に難しいのは、過去に複数の存在を報告するケースです。スティーブンソンのSwarnlataに関する記述には、1939年に亡くなったBiyaと、三月1948に2で生まれたSwarnlataが含まれる。しかし、この話にはそれらの間の別の命、カムレシュが含まれており、彼らは特定できませんでした。したがって、二つの既知の日付間の間隔は、人生の間に一つの滞在と見なすことはできません。[51]

同じ本では、ジャスビルの事例は異なっており、前任者が子供の誕生から約三年半後に亡くなったと考えられている。物語は、すでに生きているヤスビルの病気との移行を結び付けており、病気の正確な日付は確立されていません。身体の誕生日とここでのアイデンティティの変化は、さまざまな出来事を示しています。誕生と死の負の違いは、逆時間の証拠にはなりません。[51]

特別に選ばれた短い間隔もあります。Matlockは、36が報告した死亡例を九ヶ月未満で報告した。このサンプルでは、意図する移行、妊娠、および誕生の関係について議論することができます。それはすべてのメッセージ間の短い間隔の頻度を特徴付けず、それ自体が身体への愛着の瞬間を確立しません。[52]

これらの例から、スキーム自体の重要な修正に従う。妊娠中の特定のポイント、出生、または後期の自己同一性の変化:それはいくつかの可能な終了マーカーを有する可能性があります。研究者がすべてのストーリーに対して一つのラベルを事前に選

択すると、彼または彼女は自身の定義によって作成されたパターンで終わるリスクを負う。それぞれのケースでどのイベントが議論されているかを確認し、同等のインターバルのみを比較します。最初の発話の年齢とその記録日は、メッセージの歴史を意味します。語り手の特定の承認がなければ、それらは意図した移行の瞬間と見なすことはできません。



図20。境界線間。従来のスキームは、概念、誕生とアイデンティティの宣言された変化を分離する。最初のエントリはメッセージ履歴に関連します。その日付は、想定される化身の瞬間を決定しません。

二つの時間軸の照合

十分な照合には、始点と終点がそれぞれ同じ二つの時間間隔が必要である。外側の時間間隔は、記録によって裏づけられた出来事に結びつけなければならない。内側の時間間隔は、外側の結果を知らされる前に、体験者本人が記述していなければならない。さらに、その記憶が、前後の状態ではなく、まさにその期間についてのものだと分かる必要がある。これらの条件を満たすのは難しい。しかし、この条件から、個別の医療記録上の

数分間と、何年にも及ぶという体験談を、まだ普遍的な比率にまとめられない理由が分かる。

精神的な例では、二人が独立して長期滞在を説明し、医療記録が同じ非応答期間を示しているとしましょう。そのような偶然でさえ、いくつかの選択肢を残します:彼らは同じ期間を異なる方法で推定し、観察された期間の異なる部分で経験を形成したり、後で経験をより長くすることができます。変種を区別するためには、シーケンスの詳細と他のレコードが必要である。単に一つの数字を別の数字に分割すると、これらのフォークは非表示になります。

また、経験の瞬間と記憶におけるその回復の瞬間を区別する必要があります。人が初めてシーンについて話すのに数年かかることがあります。これはそれ自体は、その後の創造またはその保存を変化しない形で確立するものではない。別の物語が生まれます:最初の確実性が現れたとき、正確に最初に記憶されたものは何か、後で何が起こったのか。経験、生涯、および物語はそれぞれ独自の年表を持っています。彼らの関係は研究問題を構成する。

これらの制限の認識は、時間の問題をコンテンツレスにしません。それどころか、それは具体的な結果を可能にします:修正された日付、年の知識から長い待ちの分離、人生の欠如の識別、早期メッセージの確立。ここで考慮される異種証拠は、地球と主観的持続時間の間の信頼性の高い一般的な関係を導出できない。したがって、次の問題は、誰が時計を比較しているかという懸念です。時間が二つの生涯を結びつけるならば、それらが同じ存在の生涯と見なされるかどうかを理解することが必要である。

第 11 章 誰が生き続けるのか

身体と想定される人格

生命の継続という問題は、しばしば「継続」という言葉の意味が明らかであるかのように定式化される。しかし、心停止体験についての物語、別の家族の子供の頃の記憶、そして大人のアイデンティティの突然の変化は人格の概念に異なる要求をします。最初のケースでは、人は彼の生涯に戻ります。第二に、別の生涯についての声明が表示されます。第三に、体の前の人生は続きますが、この体の所有者の物語が変わります。一般的な理論は、単一の名前でそれらを排除するのではなく、違いを説明するべきです。

スミトラ氏の場合、この問題は特にはっきりしている。最初の報告によると、彼女は1968の年頃に生まれました。シヴァ・トリパティは1985年五月に亡くなった。同年七月、珍しい状態の後、スミトラはシヴァと身元を突き止め始めた。スミトラの死は医学的に確認されていない。研究者は家族を紹介した後に作業を開始し、死亡についての新聞情報は以前に入手できました。著者らは、写真で一つの認識と誤りのヒントを認識したが、他の情報のいくつかは説明が難しいと考えられた。[53]

ここでの移行は、新生についての一つの文では説明できません。物語によると、自分の名前に対する生きている人の態度は、愛する人や過去が変わりました。シヴァの文字通りの継続を想像すると、前スミトラの運命に関する疑問が生まれます。自己識別において心理的な変化を想定する場合は、その内容とそれに関連する知識を説明する必要がある。どちらのプロダクションも有意義ですが、それぞれに独自の観察が必要です。表現的な用語が選択されるため、不確実性は消えません。

そのような場合、「死」という単語でさえ、別の検証が必要です。親戚は、不動性、顕著な呼吸の欠如、または人が死んだという信念を記述することがあります。これらの報告は目撃者の認識を明らかにする。医療承認にはその他のデータが必要で

す。したがって、鎖「人が死んだ、別の魂が彼の体を引き継いだ」には、少なくとも二つの仮説が含まれます:身体の状態と新しいアイデンティティの源について。第二部からの強い印象は第一部を確認しません。

確信、知識、同一性

三つの独立したステートメントを区別することができます。人は自分を特定の人として認識します。彼はこの人の生活に関する情報を提供します。彼と死者の間にはアイデンティティがあります。つまり、私たちは主体を継続する一つについて話しています。第一のステートメントは自己認識、第二の情報、および第三のパーソナリティの性質に関連しています。それらは接続されていますが、一方から他方への遷移には正当化が必要です。

Iris Farzadi氏の話は、なぜ自己同一性の安定性がテストを完了しないのかを示している。ハンガリーの少女は自分自身をスペインルチアと想像し始めました。後の調査では、主張されているスペイン人家族は見つけられなかった。詳細な出版物の著者は、所有、クリプトムネシアとの解離、および問題を解決する可能性を検討した説明で異なっていた。特異なアイデンティティの耐久性は、検証された仮説化された生涯の欠如と互換性があるように見えた。[54]

クリプトネシア(Cryptomnesia)は、事前に学習した内容がその起源を認識せずに現れ、独自の新しい思考として知覚できる状況である。Brown氏とMurphy氏は、参加者が誤って他の人の答えを割り当てるタスクでこの効果を調べました。[55] この用語自体は、特定のケースにおける特定の情報チャネルの確立に取って代わるものではありません。説明が読んだ本、聞いたことのある会話、または以前の知人を含む場合、そのような仮定の理由を提供することをお勧めします。潜在的な機会へのリンクは可能性のままであり、見つかった情報パスは検証済みの状況のままであるべきです。

逆のエラーは、未知の情報源が即座に個人継続の証拠として宣言された場合に発生します。精神的な例:人は、説明可能なア

クセスなしで、他の人の生涯の事実を正確にリストアップします。この条件が満たされても、情報の受信と主体自体の保存の間には差があります。記憶伝達仮説、知識仮説の代替モード、および転生仮説はすべて一つの予測に一致する可能性がある。彼らは、同じ事実を繰り返すことではなく、追加の結果によって区別されなければなりません。

この理由付けは、異常な情報を割引しません。解決できる問題を明確にします。知識をテストすることは、説明の範囲を著しく狭めることができる。アイデンティティを確立するには、情報の偶然が「私」という経験の継続を示す理由を示す必要がある。魂の可能性に関する本では、この境界は特に重要です:そうでなければ、生涯情報は意識の理論全体の仕事を静かに実行し始めます。

新たな言葉と以前の生涯

もう一つの強い動機は、人が勉強したことのない言葉の出現です。このコミュニケーションは異性愛と呼ばれる。その起源を議論する前に、いくつかの単語、記憶された表現、質問の理解、流な話し方、または言語におけるネイティブレベルの習熟度という、正確に何が実証されているかを決定する必要があります。発音の変更と新しい文を構築する能力には、異なるテスト要件がある。言語を知らないリスナーは、これらの特性の一部しか評価できません。

ウッタラとシャラーダの事例を言語学的に分析すると、サラ・トマスンはベンガル語に対する評価の間に相違を示した。以前の言語への露出の可能性が検討され、ある専門家はスピーチを現代的で非ネイティブであると評価した。このような材料は、印象的な言語行動から特定の歴史的人物に関する推論に移行する際に注意が必要である。トマスンは、主に証拠の言語的強さを分析し、彼女の結論を読むべきであることはこの枠組み内である。[56]

よくできた言語テストでさえ、限定的な問題に対処します。彼は、人がどのように自由に理解し、スピーチを生成するかを判断することができます。言語習得の履歴は別々にチェックさ

れます。歴史上の人物は、自分自身を別の仕事だと考えている。これらのレベルを混合すると、異常なフレーズが言語、記憶、意識の新しい担体の証拠として機能し始めます。対照的に、シーケンシャルな分割により、どの段階で証拠が実際により強くなるかに気づくことができます。

検査中のコミュニケーション方法も重要です。評価者が意図した背景を知っている場合、適切な質問をし、あいまいな答えを好意的に解釈することができます。逆バイアスは、事前承認された説明のために珍しい答えが拒否された場合にも可能である。質問、回答、評価基準を別々に記録すると、研究はエラーの両方向から保護される。ここで重要なのは、研究者の感情的な状態ではなく、別の専門家がテストの進捗を回復する能力です。

いくつかの継続の可能性

単純なモデルは、一人の死者と一人の新しい人物のマッチを仮定します。スティーブンソンは、一人の死者が数人の子供を出産したと信じられていたイボ族の間で報告について話し合った。彼は証拠の不平等な強さとそのような帰属に対する家族的関心を指摘した。同じ本では、牛の体にマタンタンアイの中間的な存在が主張されていることは検証できないままでした。そのような物語は仮説の集合を拡大するが、人格の分割や生物種間の遷移は確立しない。[57]

論理的に、いくつかの連続の仮説は一つの仮説よりもはるかに厳しい。何が正確に共有されているかを決める必要があります:記憶、経験する能力、文字の特徴、または上記のすべて。二人が同じ認識の過去を持っている場合、彼らは経験の共通の中心を維持していますか? 彼らの決定は分かれるだろうか? どの時点で別々のエンティティになるのでしょうか? 答えがなければ、「分離」という単語は、観察と比較できるメカニズムではなくイメージを表します。

メンタルな例は、困難をより明確にします。一つの自伝的記憶の二つの正確なコピーを想像してみましょう各コピーは過去に自信があり、自分自身を前の人の継続として認識します。異

なる場所にいて、新しい経験が違う場合、彼らの現在の視点は異なってきます。同じ記憶があるからといって、どの記憶が前の主体か、一つの答えがここで適用できるかどうかは定まらない。これは、生まれ変わる特定の物語を議論する前にも生じる哲学的な問題です。



図21。同じ記憶と異なる視点。メンタルな例: 二人の人物は同じ自伝的記憶を持っていますが、異なる新しい経験を受け取ります。記憶の偶然は、主体のアイデンティティに関する疑問を解き明かす。

一方、記憶の欠如は問題を否定的に解決しません。記憶を通して個人的連続性を定義することは可能であるが、その損失の場合には追加の条件が必要になる。あなたは体に寄りかかることができますが、そのようなモデルは別の身体についての物語を読みます。利用可能な生涯に依存しない経験の安定した持ち主を仮定することができます。その後、あなたが彼が認識されている観察可能な兆候で説明する必要があります。各定義には結果があり、オープンに選択する必要があります。

違いを研究できるものにする

ここでは、将来の理論のために問題が発生します。最初のモデルは、前の主体の継続なしに情報の転送を伴い、二番目のモデルは、同じ主体の継続を伴います。両方とも利用可能な条件の下で同じ反応を予測する場合、追加の生涯的マッチはそれらの中から選択することを不可能にします。これはモデルの観察的識別性を意味し、哲学的な質問がすでに解決されていることを意味するものではない。

これをさらに進めるために、各モデルは意図したホスト、記憶、および動作間の接続に関する独自の法則が必要である。例えば、複数の同時継続の制約や、スキルと特定の意図を共同で保存する制限などです。機会を経験した後、制約は選択できません。まず、テスト可能な結果がモデルデバイスから派生し、適切なデータが検索または収集される。この本は研究課題としてこの経路を提供しており、主体の数値的アイデンティティを直接測定する方法は確立されていない。

存続する自己

ストーリーを分析するには、いくつかのパーソナリティコンポーネントを一時的に並べて保持することが有用です。まだ存在感はありますか? 人は自分の地上生活を認識していますか? 彼は関係と義務を覚えているだろうか? 彼は自分の状態を反映できますか? 意思決定の著者意識はありますか? すべてのコンポーネントを同時に変更する必要はありません。したがって、「I」の保存についての声明は、正確に語り手がこの「I」に何を指しているのかを説明することと関連してのみ意味があります。

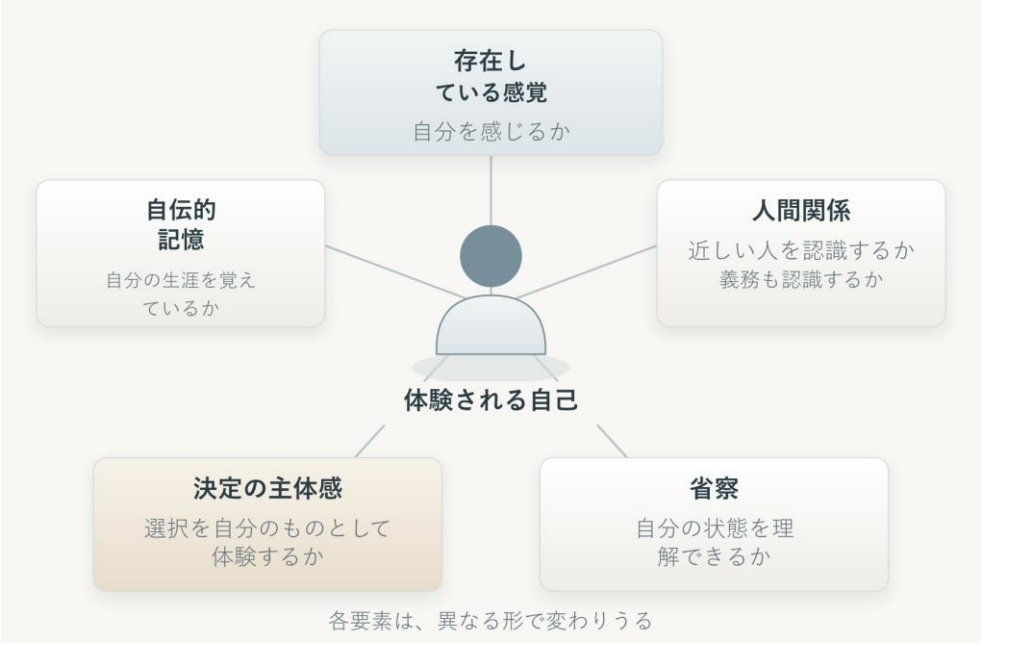


図22。永続的な自己の構成要素。作業フレームワークは、存在感、生涯記憶、関係、意思決定の著者、省察を区別する。これらの兆候は異なる方法で変化する可能性がある。

クオリア、すなわち状態の経験豊富な品質は、質問の反対側へのアクセスを提供します。色、痛み、平和やタッチについての物語は、経験が内側からどのように記憶されているかを明らかにします。それは現在の生涯の外の誰がその持ち主であるかについての準備ができた答えを含まない。自己認識は経験に関係を加えます:何が起こっているかは自分自身として認識されます。省察では、この態度を評価することができます。これらの違いは、感覚の鮮明さが個人の連続性の確立に取って代わらないように分析に保存されるべきである。

ジャスビルの場合、特に差し迫った疑問が残ります:その後のアイデンティティは外部から来たと考えられた場合、ジャスビルの元自己に何が起こったのですか? スティーブンソン自身は明確な答えを持っていなかった。そのような物語の未知の場所は、たとえ他の詳細が研究者を引き付けるとしても、目に見えるままでなければならない。[51]

したがって、人生の継続の地図は、場所間の遷移だけでなく、自分自身を認識する人の変化を示すべきです。ある時点で、フル記憶を持つ他の人について、別の時点で - 名前のない主体について、三番目で - 過去の別々の断片を持つ新しい生涯について話します。そのような状態の間にアイデンティティの線を静かに描くことは不可能です。説明が必要なのは、この行です。次のエビデンスのグループは、タスクをさらに複雑にします:死者は生き続ける別の人によって認識されます。

第 12 章 夢の中の出会いと共有された体験

出会いのどちら側を調べられるか

死者に会うという話は、特に直接の観察に近いように思えます。身近な人は、特定の見方をしたり、言葉を言ったり、手に触れたり、自分が大丈夫だと報告したりするのです。しかし、研究者は生きている参加者の証言を受け取ります。死者の推定側は、この経験の内容を通してのみアクセス可能です。この単純な区別により、それぞれを別の世界の構造に関する独立したレポートにすることなく、出会いの詳細を維持することができます。

亡くなったホスピスの介護者の調査で、ライトらは死者の健康と平和、メッセージ、記憶共有、病気や死などを含む夢のテーマを発見しました。夢は快適、不快または混在する可能性があります。この研究は、夢の登場人物の存在の主観的な持続時間を測定することなく、葬儀者の経験を見た。[58]

可能な死後のパスのマップの場合、これは画像が睡眠時間のみに基づいてフェーズに配置できないことを意味します。葬式の後何年にもわたって親戚を見た人は、夢想家の人生のギャップが知られています。親戚が主観的に同じ年数を待っていたか、ずっと一ヶ所にいたことはそれから従いません。特定の日付は夢の中にも存在するかもしれませんが、その後、それを知る方法とそれが何を意味するかを別々に確立する必要があります。

この問題は、このような出会いと生まれ変わることの両立についても生じる。例えば、ある死者は生まれ変わったと信じられており、別の人は後に彼と寝ていると報告しているとします。矛盾は追加の条件の下でのみ現れます:新生は以前の症状を完全に排除します。この規則が元の仮説にない場合、夢は拒絶または再生の確認と見なすことはできません。しかし、この二つのストーリーをつなぐ新しいルールが何であるかがわかります。

生きている人の最期の日々

近死の夢と患者のビジョンは、それ自体が別々のグループを表しています。Kerrらによる縦断的研究では、分析には59ホスピス患者が含まれており、52は終末期の夢やビジョンを報告している。画像の中には、死と生と日常のシーンがありました。この数字は、すべての52が死者を見たという意味ではありません。インタビューは繰り返され、患者のその後の死に対して時間は注目された。[59]

ホームホスピス研究では、Depnerらは、親密さとサポート、中立的または矛盾した相互作用、日々の活動、交通機関、人気の文化の身近なイメージなど、さまざまな内容を発見しました。一人の参加者からのメッセージが繰り返されることがあります。したがって、記録された経験の数は人の数と異なり、日常的なシーンの存在は自動的に特別な死後カテゴリに割り当てられない。[60]

このような観察では、時間の経過とともに変化を追跡する能力が特に有用である。夢の内容、メッセージの頻度、患者の状態、話す能力、または研究者がエピソードを含める意欲などです。もはや回答できなければ、新しい面接を欠くことは経験不足に匹敵しない。ここで研究者は、内部で起きたことを推測して満たすことができないデータの可用性のフロンティアに直面しています。

同じシーンでも、異なる感情的意味を持つことができます。あなたが知っている死者を見ることは、安を経験することを意味するものではありません。ダムのインドの研究では、彼のイメージが慈悲深いように見えたとしても、一部の参加者は自分が死んでいると知っていた人の存在に驚いていました。これにより、快適さをそのような経験の必要な特徴と考えることは困難である。状況やサンプルの違いは、国民的または宗教的な所属によってのみ結果を説明することはできません。[61]

したがって、それに対する内容と反応を別々に記述することが有用である。誰が現れたの? どうなってたの? 出会い中はどうでしたか。目を覚ますか、通常のコミュニケーションに戻った後にどのように評価したのですか? これらの答えは矛盾するこ

となく分かれる可能性がある。当初この出会いは威圧的だったが、後に支持を募った。どちらの点も経験の再構築に重要であり、後の慰めの意味は初期状態と一致しない。



図23。出会いを体験する人。左側には喪失後の夢があり、右側には人生の終わりにおける患者の経験があります。著者の構成はメッセージの二つのコンテキストを分離し、その側面が研究に利用可能であることを示す。

まだ届いていない知らせ

検証の最大の関心事は、死のニュースを受け取る前の出会いについてのメッセージです。ここでは、以前の記録と比較できる可能性のある外部の事実が表示されます。ただし、未知死・未知病・未知危険は区別しなければならない。親戚の重篤な状態について長い間知っていた場合、偶然は予備情報がない場合とは異なる条件を持つ。どちらのストーリーも経験者にとって意味のあるものですが、研究の枠組みは異なります。

The Historical Case of Doris』はウィリアム・バレットによって出版されている。手紙によると、家族は死ぬ女性からビダの姉妹の死を隠しました。しかし、フィレンツェ・バレット博士はビダのエピソードの前に出発した。ニュースを隠すための

対策は親戚によって報告され、情報の隔離は制御されていない。ウェブ転写は証拠の違いの再構築を可能にするが、元の写本や医療記録を置き換えるものではない。[62]

ハラルドソンの研究において、別の語り手はマーグレットの外観を「03:30」と書かれた時計に関連付けていた。彼の妻は後に、彼は彼の死のニュースの前に出会いについて話したことを確認しました。このシーケンスは一つの後の記憶よりも興味深いが、初期の記録と正確なマッチの独立した確認は分まで提示されない。[63]

強力なテストは、最初のメッセージの内容、記録された時間、それ以前に利用可能な情報、および独立して識別される外部イベントの四つの要素を一緒に持つ必要があります。一つの要素が欠落している場合、他の要素は消えませんが、許容される出力の範囲は狭くなります。死の確認は死を証明する。朝の物語の確認は、特定のニュースイベントの前に物語の存在を確立する。部品のマッチングには、独自の検証が必要です。確認済み要素を指定せずに「確認済み」という単語は、データが許可するよりも自信を作り出します。

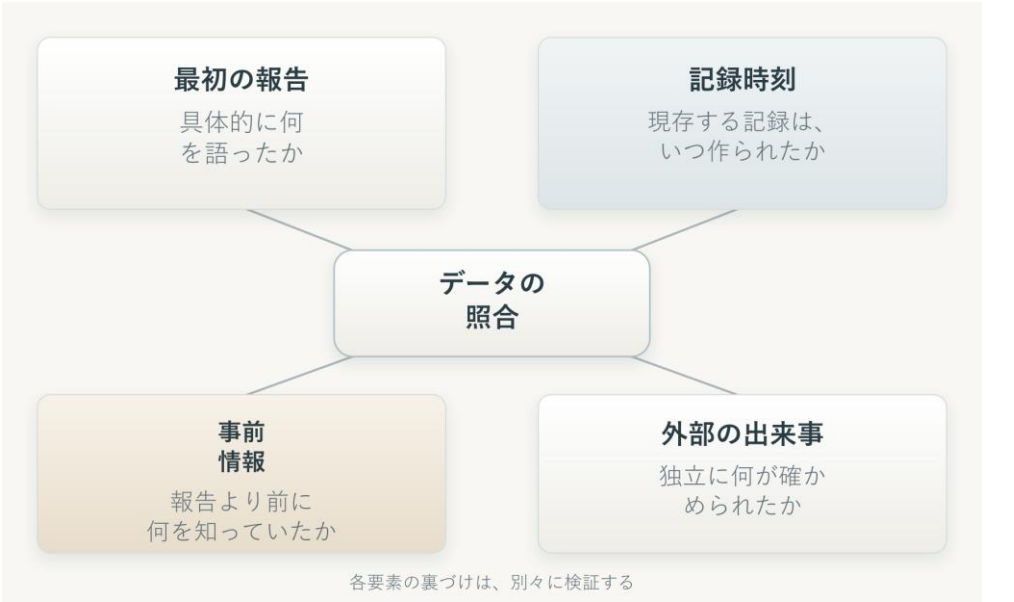


図24。何が正確に偶然を確認するか。このスキームは、最初のメッセージ、記録時間、以前に知られた情報、独立して確立されたイベントの四つの検証要素を組み合わせたものである。各要素はそれ自身の確認を必要とします。

また、失敗した通信を考慮に入れる必要があります。精神的な例:人は友人についての多くの夢を書き留めるが、悲しいニュースが来る一つだけについて話し合う。そのようなストーリーの非常に近いマッチでさえ、一つの事前定式化されたメッセージとは異なる評価される。観測と機会を比較するためには、夢、人、適切な出来事、許容可能な時間間隔の数など、可能性の空間を知る必要があります。この質問は、人の誠実さではなく、テストの構造に関するものです。

共有と独立性

名前の共有死体験は、二人が同時に同じ世界を観察していた印象を与えるかもしれません。Shared Crossing Research Initiative Study 107では、参加者が164の経験を報告した。この用語には、一人の語り手が死亡者に付随する感覚が含まれており、二人の独立した記録された目撃者が各エピソードに必要とされなかった。このプロジェクトの二つの出版物は同じサンプルを使

用しているため、独立したコーパスとして積み重ねることはできません。[64]

Tressoldi et al.の異文化調査には、146症例を報告した121個人が含まれていた。定義には、別の死の前、中に、そしてその後の経験が含まれます。利用可能な著者のプレプリントでは、同じ人物で複数の瞬間をカバーする場合、「前」カテゴリに優先順位が付けられました。したがって、時間分布はエンコーダの決定にも依存する。この研究は、すべての試合の将来的な医学的検査を表していない。[65]

少なくとも四つの互換性があります。一人は死にゆく人に近づくことがあります。何人かの人々が同じ出来事について話すかもしれません。後の話は議論の後と一致するかもしれない。最後に、情報を交換する前に別々のレコードを取得することができます。これらの状況は、「一緒に」という言葉がすべてに存在するため、同じレベルに置くことはできません。一般的な情報源をチェックするには、最後のオプションが特に重要です。

ハラルドソンは、別の目撃者もいたという報告を調べた。共同で目撃したとされた 39 件のうち、21 件は後に確認され、6 件は不明のまま、3 件では記憶がないか、確認への参加が得られなかった。9 人の目撃者には連絡できなかった。この結果は、後から確認することの価値を示しているが、最初の記述どうしが独立であったことを証明するものではない。[63]

ここで重要なことは、古いストーリーから不可能を要求するのではなく、それらの能力を正確に理解することです。後のインタビューでは、不一致を明らかにしたり、以前の会話の存在を確認したり、状況を明確にしたりすることができます。通常は、目撃者が連絡するまで、失われた記録を復元することはできません。人々がすぐに何を見たかを議論すれば、その後の合意はこの事実と合わせて分析されるべきである。証人の人格の独立と彼の情報の独立は、異なる特性である。

体験した出会いの意味

文化的な解釈は夢の意味を変えることができます。トラウマ的なカンボジア難民たちのヒントンらの研究では、死者の永続的

な夢は生まれ変わることの難しさの兆候として理解されることができた。これは大量暴力を経験した臨床グループであり、その特性をすべての仏教徒やすべての葬儀者に転送することはできません。[66]

研究カテゴリでさえ検証が必要です。Black et al.の著作では、コーダーコンセンサスは、より具体的な愛情の身体的表現をコーディングする場合よりも、死者からの快適な訪問に夢をアトリビュートする際に弱いものだった。これは、外見上明らかな精神的な名前が鑑定人の異なる決定を隠す可能性があることを意味します。カテゴリがイベントの意図した性質に近ければ近いほど、それが割り当てられている理由を確立することがより重要である。[67]

人にとって、出会いは、画像の起源が確立されているかどうかに関係なく意味を保持することができる。感情的な結果と外部情報の伝達は、異なる問題を指す。どちらも、夢世界の客観性を証明するための慰めや、経験の価値を破壊するための起源の不確実性を必要とせずに真剣に探索することができます。このアプローチにより、人の経験全体を事前判断することなく証拠について話すことができる。

一般的な地図では、重要な結果が残っています。夢、死に近いビジョンとそれらに伴う人々の物語は、追加の形の出会い、認識およびコミュニケーションを提供します。彼らは比較のために材料を拡大しますが、故人の年代記の直接的な記録にはなりません。彼らの個別の位置は保存されるべきである:これは、死者の画像に会うときの生活経験に関する情報であり、時には未知の情報を受け取ることについての声明です。二つ目のステートメントのテストは、出会いの明るさの単なる説明が終了するところから始まります。

第四部 考えられる説明

第 13 章 意識、脳、説明の限界

機構に求められるもの

異例のストーリーに親しんだ後、一つの説明を得たいという自然な願望があります。それは、身体を離れること、思考の明瞭さ、出会い、光、時間の変化と何が起こっているかの現実への自信を組み合わせる必要があります。しかし、まずこれらの特性を個別に説明しているのか、特定の個人におけるそれらの組み合わせなのか、あるいは共通の物語ルートの起源なのかを判断する必要がある。ある質問に答えると、他の質問は自動的に完了しません。

意識研究において、神経相関は、特定の意識経験に対して共同で十分である最小限の神経機構であると厳密に理解されている。単一の脳波測定はこれらのメカニズムの候補マーカーであり、レポートとの統計的接続はまだメカニズム全体を確立していない。[84]因果的説明のために、条件の変化が経験の望ましい特性にどのように影響するかを示す。もう一つのステップは、この特定のコンテンツがなぜ起こるのかを理解することです。状態の変化、特定の画像の出現、およびその意味に対するその後の信念は、異なるレベルの分析を必要とする可能性がある。

仮説的な研究の状況を想像してみましょう特定の露出が与えられた場合、人々は異常な身体的視点を報告する可能性が高いことが知られている。これはすでに有意義な結果です。でも、病院の部屋を見た理由も、暗闇の中での動きも教えてくれないし、三人目は何も覚えていません。一般的な可能性から特定のストーリーに移行するには、追加条件、イベントのシーケンス、記憶形成に関するデータが必要である。

外的世界や意識の継続に関しての説明も同じように扱うべきです。しかし、別のレベルの現実を仮定すると、ある人物が一つのシーンにアクセスできる理由と別の人物が異なるシーンに

アクセスできる理由、あるいはこの特定の形式で情報を保持する理由を説明しません。実体モデルは、経験が生じる条件を説明し、その期待と矛盾する観察を特定する必要がある。さもなければ、体験談をより一般的な言葉で言い換えるだけです。

体験談を伴わない脳の記録

Vicente et al. 2022の論文は、重度の脳損傷と発作を有する87患者の脳波を分析した。絶対ガンマ力は心停止より前の記録部位で増加し、その後減少した。患者は死んだ。彼は経験の内容を伝えることができなかったので、人生の可能性レビューの仮定は、生理学の解釈中に発生した。[68]

Xu らは 2023 年、死にゆく患者四人の記録を調べた。二人では、換気補助の中止後に、ガンマ活動の増大と結合性の変化が見られた。生き残った人はおらず、この期間の体験談を残した人もいない。著者ら自身、結果は意識的な処理の存在を確定するものではなく、病的な過程とも両立すると指摘している。[69]

そのような作品を読むとき、電気的活動を特定のシーンの翻訳に回さないことが特に重要である。周波数範囲の名前は、記憶、愛の感情、または親戚との出会いを示していません。有意義な対応には、合意された時間枠内で一人の人の生理学と経験に関するデータが必要である。当事者の一つが欠落している場合、まだテストされていない関係に関する仮説が残っています。

AWARE IIでは、この問題はそれ自身で異なっている。EEGはインタビューを受けた二人の参加者にしか利用できず、明確な記憶は得られなかった。他の患者で記録されたリズムは、語り手に転送できない。ある記事における生理学的記録と珍しい物語の両方の存在自体は、それらが個別に同期されていることを意味するものではない。[4]

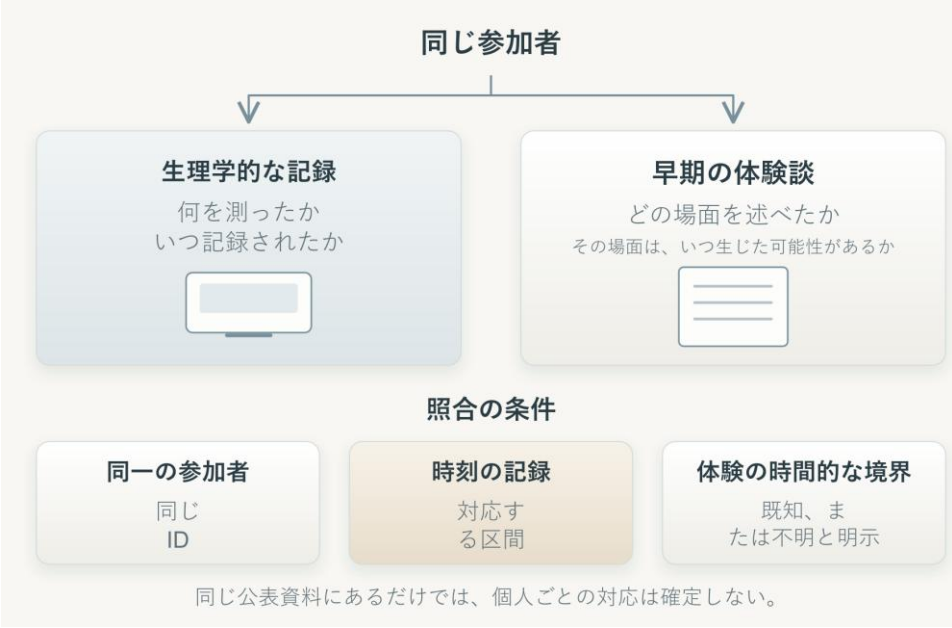


図25。生理学と物語の比較。著者の図は個々の比較のための条件を示しています:一人の参加者、合意された間隔および既知のリコール時間の制限。一つの出版物における両方の種類の材料の存在は、まだその接続を確立していない。

タイトルの意味を変えることができる単純な算術的な難しさもあります。特定の信号の相対寄与は、総量が信号自体よりも速く減少すると増加する可能性がある。例えば、条件付きデータセットでは、十のうち五つのユニットは百のうち十ユニットよりも大きい割合を構成するが、絶対数は減少している。したがって、「アクティビティの増加」という言葉は、指標、比較の開始点、および記録領域を明確にする必要があります。この原理は一般に測定に適用され、意識に関する結論が小さな用語的誤りに依存する場合に特に有用である。

実験室で比較できること

実験室アナログは、条件の正確な変化と結果の比較を可能にする場合に有用である。その値は元の現象と完全に一致する必要はありません。同時に、マッチのリストは違いのリストの隣に保存する必要があります。それぞれのコンポーネントのモデル

は、ストーリーのどの部分がテストされているか、実験はまだ対処していない質問が明確であれば、はるかに有益になります。

Martial らの 2024 年の研究では、管理された条件での失神の後、利用可能なデータが得られた参加者 22 人のうち八人で、体験談の内容が Greyson 尺度のしきい値に達した。時間の体験の変化は 20 人が報告した。この標本では、死者や宗教的な存在との出会い、引き返せなくなる境界は報告されなかった。研究では体験談と脳波を対応させ、臨死体験の現象的特徴との部分的な重なりを示した。不可逆な死の後の体験を研究したものではない。[70]

比較するもう一つの方法は、興味のある両方の条件を経験した人に尋ねることです。Martial、Carhart-Harris、Timmermann 31の作品では、参加者は自身の臨死体験とサイケデリックな経験を対比しました。身体分離と視覚画像の違いで、多くの特性が重なっていました。調査は振り返りであり、自己選択に依存していた。経験の状況はさまざまだった。特徴の偶然は、メカニズムの完全な同一性や共通の外部位置を確立できなかった。[71]

類似度を評価するためには、周波数と強度を分離することが重要である。一つの症状は両方のグループでほぼ同じ頻度で発生するが、異なる強度で経験される。全体のスコアは、さまざまなコンポーネントのセットを隠すこともできます。二人は異なる回答を通じて同じ数に到着します。したがって、類似度ステートメントはスケール質問と一緒に読まなければならない。これがなければ、比較は名前の比較になり、その背後にはさまざまな経験が残っています。

臨床状況は複雑さの別の層を追加します。2025でFritz et alによって発表されたケースでは、女性は重度の呼吸不全とケタミンの緊急投与後に他の薬と一緒に異常な経験を説明した。記述に心停止は指定されません。薬物やその他の状態の障害に関連する経験を正確に位置付けることは不可能でした。すべてのコンテンツを単一の物質にアトリビュートするには、この場合の可能性を超えることになります。[72]

したがって、比較はコンテキストを維持しなければならない。レトロスペクティブ調査、実験介入、単一の臨床観察は異なる質問に答える。それらは研究プログラムに統合することができますが、あるカテゴリから別のカテゴリに移行すると結果のステータスは不可解に変更することはできません。問題の場合に必要な条件が確立されるまで、可能なメカニズムは引き続き可能です。

説明を組み合わせる試み

2025でMartial et alによって提案されたNEPTUNEモデルは、生理的ストレス、血流、神経化学的変化、身体信号処理および心理的プロセスの提案された影響を統合する。彼女は臨死体験を脳死まで見ます。著者らはモデルの理論的状態と、機構の未知の必要かつ十分な組み合わせを直接示している。その目標は、異なる発見を検証可能な神経科学的な説明に結びつけることである。レビュー自体は患者の新しい単一のサンプルを構成するものではない。[73]

メカニズムを組み合わせることで、すべての詳細に一つの原因を必要とせずに複雑な経験を意味的に記述することが可能になる。しかし、モデルの複雑さはコストがかかる。観察の組み合わせが追加のプロセスの選択によって説明できるならば、モデルは確実性を失う。したがって、統一の後、特に制限が必要とされる:どの特性が一緒に起こるべきか、どのような条件が特定の効果を弱めるべきか、そして結果の欠如が期待されているか。

そのような要件の単純な例は、最終理論を選択することなく定式化することができる。身体的視点の変化が特定の信号の不整合に依存すると仮定した場合、研究者は不整合を除去した際にこの兆候がどのように変化するかを事前に記述しなければならない。挨拶者のイメージに対する生涯的期待の影響が期待される場合、経験の前にまたは少なくともその後の解釈とは独立して期待を記録する必要がある。いずれの場合も、説明の有用性は新しいデータとの関係によって決定される。

可能な条件から確立された原因への移行は、特別な注意に値する。「そのようなメカニズムは類似した特性を引き起こす可能性がある」という定式化は、特定のエピソードの問題を開く。それはメカニズムの存在、その動作の時間とその内容との接続に関する情報を必要とします。この中間レベルは普遍的なソリューションほど完全ではないように見えるかもしれませんが、一般的なアイデアを無限に繰り返すのではなく、徐々に説明を洗練させることができるのはまさにこのレベルです。

説明の限界と問いの限界

脳の研究と意識の性質に関する哲学的質問は関連しているが、完全に偶然ではない。特定の経験が生じる条件の詳細な説明でさえ、なぜそれが主観的な側面を持つのかという疑問を解くことができます。逆に、この哲学的クアンダリーを認識することは、別の世界、家族の選択、または身体間の性格の変化についての具体的なストーリーを確立しません。それぞれの物語には、独自の情報要件があります。

神経科学的な説明は、経験の人間の意味も否定しない。経験の発生の理由とそれが人生で取った場所は別々に研究することができます。ある出会いが和解や新たな理解の源であると考えるならば、それは結果と意味の表明です。接触の実際の現実を議論するには、異なる議論セットが必要である。一つの研究方向は二番目を吸収する必要はありません。

仮説を比較する場合、逆置換も避けなければならない。特定のモデルの不十分さは、その代替案の準備ができた証拠として機能しない。代替モデルがテスト中の観察をよりよく記述し、期待される結果を事前に制限し、それを取得する従来の方法を見つける試みに抵抗すると、肯定的な基礎が生じる。検証されるコンテンツは確認まで保存されなければならず、可能なチャネルを別々に調査しなければならない。

この時点で、脳についての会話は証拠の構造に戻ります。体験のすべてのイベントが正確に日付を決定できたとしても、コンテンツは記憶とストーリーを通じてアクセス可能である。自信、質問、文化言語によってどのように影響されているかを探索することはすでに可能です。次の章は、研究者が利用可能な材料のほとんどは形成されるイベントとその説明の間のこのギャップに捧げられます。

第 14 章 記憶、暗示、文化

記憶の説得力

人は他人の話を疑うことができ、自分自身の経験についてほとんど疑いを持つことができません。異常な明快さで記憶され、人生に対する態度を変えている出来事に疑問を投げかけることは特に困難です。したがって、記憶による説明はしばしば発明の告発として認識される。研究のために、これは誤った収束です。誠実さは、語り手の意図、正確さ - イベントへの個々のステートメントの対応を指します。記憶として経験されているものを忠実に報告することができ、その内容の外部検証が必要である。

Moore氏とGrayson氏は122参加者に、臨死体験の記憶と現実および想像上のイベントを比較するように依頼した。NDEの記憶は一般的に特に豊かであると評価された。実験の後の平均間隔は約34年でした。これは、研究の時の記憶の特徴の証拠です。単一の検査では、各記憶の内容が前年まで変化しなかったことが示されていない。[74]

シュミットらの24成人実験では、催眠後の手がかりはニュートラルな手がかりと比較して信頼度を高め、単語認識を早めた。統計的に有意な精度変化は見られなかった。この研究は、確実性の個々の変動を示すが、偽の生涯や死後の旅の出現を再現しない。[75]

したがって、いくつかの特性に従って記憶を検討することは有用である。どのくらい明るいですか? その人はどのくらい自信がありますか? どのように一貫して詳細を繰り返すのですか? 外部検証はありますか? 最初のエントリはいつ表示されましたか? これらの機能は一貫性があるかもしれないが、信頼性の一つの全体的な印象に置き換えることはできない。外部参照点のない詳細なストーリーは、詳細なストーリーのままである。検証可能なまれな詳細を含む短い早期メッセージは、感情的な影

響を少なくするが、特定の問題にとってより価値があるかもしれない。

サステナビリティには定義も必要です。一般的な意味の繰り返しは、特定の単語、シーケンスと状況の偶然が別のものであるということです。ある人が何年も愛に囲まれていると言った場合、これは各エピソードの不変性を確立しません。後のバージョンに新しい名前がある場合は、前のエントリにあるかどうかを調べる必要があります。この分析は、変更が意図的な欺であるという仮定なしに変化に気づくことを可能にする。

誤りと知識の由来

Meyersburg et al.の研究では、過去の記憶を報告した 15成人と15コントロール参加者を比較した。意味的に関連する単語を持つタスクでは、欠落した単語の誤ったリコールと認識が発生する可能性がある。最初のグループでは、統計的力はテストに依存していたが、いくつかの誤った答えがより一般的でした。特定の背景は検証されていない;自発的小児症例は研究されていない。したがって、この小さなサンプルによって実行される実験タスクの特性に関連する。[76]

このような研究の重要性は、既知の条件下で単一のメカニズムを研究する能力である。研究者はどの単語が提示されたか、そうでないかを知っています。出生前の存在を想定した話では、そのような参照リストは存在しない。そのため、検査結果の転送には注意が必要です。決定的な認識は誤ってもよいが、研究室外で得られる特定の記憶の起源を自動的に決定するものではない。

再構成による説明も具体的である必要がある。どんな情報が入手できましたか? 彼らはいつ人にたどり着くことができますか? 物語のどの部分がそれらにマッチしますか? 詳細はまだ説明されていませんか? 本を読んだという前提は、本が見つかればより強くなり、親しみが確立される。物語の影響の一般的な可能性は依然として弱い主張である。研究の厳密さは、通常の方法でそれを説明するときと同じように珍しい情報源を探すときに必要です。

メンタルな例では、コンテンツのエラーと起源のエラーを区別することができます。その人は住所を正確に再現しますが、夢の中で見たと信じています。住所は正しいかもしれませんが、どこにあるかは間違っています。アドレスだけ確認すると、確認された異常送信の印象が得られます。記憶エラーによってアドレスを拒否すると、真に正確な情報が失われます。ステートメントが異なるため、二つのチェックが必要です。

これは有用な読書規則につながります。知識に関する各ステートメントは、コンテンツと記載されたソースに分解できる。「家は赤かった」という声明がある。「私は体外にいる間にこれを学びました」別のものです。確認の度合いが異なる場合があります。この分離は人間の経験を人工的に切断するものではなく、物語のどの部分が既存の説明に問題を引き起こすかを理解することができる。

質問によって決まる順序

記憶を得るために設計された手順には特別な注意が必要です。ヘレン・ワンバッハの著書では、身体からの想像上の出口、出生前の状態、誕生の選択、ヘルパーと人生の目的に人を導くシーケンスが出版されている。最初の答えは、時には五秒間与えられる。説明材料にそのようなシナリオのないコントロールグループはありません。したがって、経路の重なりは問題の重なりとともに考慮されるべきである。[77]

オープンエンドの質問とガイドする質問の違いは、形式的には小さく、影響が大きい。「次に何が起こったか」という質問は、幅広い回答を可能にします。「出発後に誰と会ったか」という質問は、すでに出口とグリーターを想定しています。「なぜこの家族を選んだのですか?」という質問はさらに、選択が行われたと仮定します。人が誠実に答えても、これらの答えはリストされているすべての要素の独立した発生として処理することはできません。

26セラピストの調査で、ワンバッハはトンネルの稀有な言及を多くの専門家が死後の移行について尋ねていないという事実に帰した。彼女の仕事の仕方は、光への導くこと、人生を見直

すこと、そしてその後の化身について話し合うことでした。材料は、なぜ欠落した質問と否定的な答えが異なるシンボルを持つ必要があるかを示しています。[78]

Newton Institute Guide 2022はオープンエンドの質問を推奨し、さまざまな経験の順序を可能にします。同時に、特定の領域は認証に必要です。評議会または最高の知恵の場所は、必須の停止によって示されます。期待されている場所は、トレーニング、回復、および身体選択を含む。これは現代の教育文書です。手順の分析には役に立ちますが、Newton氏の初期のセッションがそれぞれまったく同じルールに従っているという確証はありません。[79]

ストーリーを比較するには、答えの隣に質問を保存すると便利です。その後、部屋が一人で現れたか、部屋を検査するオファーの後に表示されるか、または研究者によって最初に命名されたかを見ることができます。ガイド、画面、アドバイス、新しい生活の準備にも同じように適用されます。単語の類似性は唯一の基準ではなく、各要素の出現の歴史が見えてきます。繰り返しの独立性はこれによって決まる。



図26。質問が物語を導く方法。左側は「次に何が起こったか」というオープンエンドの質問、右側は出会い前の質問「誰と会ったのか?」です。著者のモデルは答えの出現のためのさまざまな条件を示しています。

期待とシナリオの限界

出版者のロバート・ベイカーの研究の要約は、退学時に支持的で中立的または懐疑的な訓練を受けた60学生について報告している。報告された過去の生活の数は設定によって異なります。アノテーションでは、グループ分布とエフェクトサイズの詳細をすべて再構築することはできません。この作品は予期的期待の価値を示しているが、この結果によって個々の物語の歴史的真実を決定するものではない。[80]

予測の影響は必ずしもプロンプトの受動的反復を意味しない。人は自分のイメージに驚いたり、意図した話に抵抗したり、面接官が期待していなかったことを報告したりするかもしれません。Brian Weiss氏の本では、一人の患者の材料には休息、待ち、復帰する義務が含まれています。そのようなエピソードは物語そのものの変動性を示しているが、世界の記述された構造を独立した検証を提供していない。[81]

したがって、「完全にインスパイアされた」と「完全に独立した」という単純な分割は、分析には粗すぎる。初期印象、与えられた話題、ランダム画像、質問後の明確化、後の解釈など、さまざまな貢献が可能である。特定のレコードでは、それらのシーケンスを探す必要があります。プロトコルがより詳細に保存されているほど、元の体験に属するコンテンツのどの部分が議論中に発生したのかを推測する必要は少なくなります。

反復の独立は特に重要である。同じ命令に従った百の同様の応答は、その命令の堅牢性を反映する可能性がある。既知の共通ソースを持たない百の類似した初期のレポートは、別の疑問を提起する。どちらの場合もパターンが見つかりますが、パターンは異なるオブジェクトに関係します。第一は手順と想像力の相互作用、第二 - 物語の出現のより広いメカニズムを記述することができる。その起源に関する情報のない答えの数は、説明の間では選択されません。

体験の前後における文化

パーソナライゼーション仮説は、使い慣れた画像が共有意味を伝える方法となることを示唆している。それは議論のために十分に正確に定式化することができます。しかし、まず、文化的な影響の三つの可能な瞬間を分離する必要があります。経験そのものの内容、最初に話すときの言葉、そして後の解釈です。同じイメージは、帰国後にのみ宗教的な名前を受け取ることができます。これが起きた場合、元の状態に自動的に名前が割り当てられなくなります。



図27。経験の文化的枠組み。分析フレームワークは、習慣的画像と言語の影響の三つの可能なレベルを区別する:経験自体、最初のストーリー、後の解釈。

森田らによる日本の研究では、近死のビジョンが親戚によって報告されました。報告の可能性は、反応する親族の宗教と信念に関係していた。この接続は、患者の経験の原因を確立するものではないが、可能な選択の別の場所を示す:オブザーバーは何に気づいて思い出し、ビジョンを呼び出すかを決定する。[82]

Rashidi et alによるイランの研究のタイトルは、「再生」という言葉を使用します。コンテンツでは、それは人生に戻った後の個人の更新を意味します。このような違いは、異なる言語で出版物を比較する際に重要である:単語の文字通りの偶然は、研究中の現象の偶然を保証するものではない。[83]

パーソナルデザインモデルは、可変性の制限も設定する必要があります。共通の道が保存されている場合、宗教に関係なくどのような特徴がある必要がありますか? 伴奏には異なる画像があるかもしれないが、伴奏の義務的な性質は別個の予測である。選択室と直接決定は同様の機能を実行することができるが、強制と自由拒否は行動規則が異なる。すべての矛盾は、仮説が一般的な過程を記述すると主張するならば、風景の変化と見なすことはできない。

したがって、記憶、質問、文化は、繰り返しプロットの説明の重要な部分を形成します。彼らの参加は、意識の起源の問題全体を最初に解決することなく探索することができる。正確な仕事は、起源、生き残ったもの、提案されたもの、後に名前が付けられたものを区別することから始まります。このような分析の後、一般的な地図に戻ることはもはや等しく重い物語ではなく、異なる歴史を持つ証拠である。それらから、私たちは独自の例外に耐える回路を構築しなければなりません。

第五部 地図と意味

第 15 章 分岐のある地図

地図が表すもの

別々の証拠グループを検討した後、それらを単一のシーケンスに集める誘惑があります。身体からの分離、移行、遭遇、生活の見直し、滞在、選択と再生は明確な物語を形成します。しかし、シーケンスの理解可能性とそのリンク間の遷移の確認は異なる特性である。

この章で示した地図は、説明されたモチーフ間の関係を表しています。そのノードは経験のクラスを示している。矢印は、ソースのグループ間の接続に関するストーリーや研究仮定内の可能な遷移を示しています。完全な遷移が一つの個人で観察されていない場合、関係は条件のままであるべきである。

このような構成は、記述空間の外部現実の問題を解決することなく有用である。どの要素が十分に詳細に検査されているか、同じ単語の異なる意味が使用される場所、およびどの領域で特に不足している情報を静かに埋めるのが簡単かを見ることができます。

地図には二つのスケールがあります。大きなスケールでは、身体に対する態度を変えたり、出会いをしたり、滞在をしたり、決定をしたりといった機能も目に見える。小さなスケールでは、具体的な詳細が保存されています:指揮者の形状、コミュニケーション方法、自身の身体の感覚、行動の順序。別のストーリーに戻る機会がなくなることのないように、一般化を進めるべきです。

比較マップノード

ノード	比較されるのは	章
身体的視点	自己の位置と環境に関する情報へのアクセス	4

ノード	比較されるのは	章
変遷と会合	環境・認識・コミュニケーションの変化	5
展望と空間	生涯、目的および意味を得る方法へのアピール	6
滞在	休息、回復、待ち、運動	7
解決策	同意、拒否、遅延と選択の制限	8
生涯	体験の後、あなたの古い生活に戻ります。	3、4および8
新しい命を	出生前の記憶と生涯の関連性	9と11
時間	外部の手がかりと主観的持続時間	10
その他の証拠	付随する者の夢や物語	12

最初の区間

初期ノードは、通常のボディパースペクティブの変化と呼ばれます。これは、独立エンティティの分離に関する既製のステートメントよりも慎重な説明です。それは物語で利用可能なものをカバーする:オブザーバーの位置、自分の体の外観、痛みの変化、軽さ、慣れ親しんだ境界の欠如。

次のノードは、環境の変化に関連している。ここで重要なのは、移行の物語に基づいて物理的な動きを仮定しないことです。5章で議論されている説明では、ランドマークのシーケンスと詳細な遷移のない新しいシーンの出現を持つパスがあります。マップの場合、これらはステート間の通信のための異なるオプションです。

出会いは別のノードを形成します。その機能は、認識、支援、コミュニケーションまたはさらなる動きの制限である可能性があります。これらの機能は、あなたが事前にガイドとして会う一人一人を考慮する必要はありません。戻ってくる必要性を伝え、感情的な出会いが起こる親しみやすい人は、異なる役割を占めるかもしれません。

6章で議論されている生涯レビューは、別々に示されるべきです。グリーターの役割と生涯の扱い方は必ずしも一致しません。その内容は、記憶、結果の評価と理解の感覚を含みます。地図は、査定の有無のみから裁判所の強制的な存在を推測すべきではありません。

滞在と判断

地図の中央領域は比較的安定した滞在をもたらします。ここでは、休息、回復、コミュニケーション、学習と待機の区別を維持する必要があります。人がアクティビティを記述しない場合、これはまだ空の状態を定義していません。治療が言及されている場合は、それが幸福、記憶、感情的な結果、または身体的回復のイメージを指すかどうかを調べることが重要です。

移行の決定は独立した領域を形成します。それはオファー、同意、遅延、説得、割り当てと強制の経験を区別します。すべてのオプションを「選択」という言葉で置き換えると、いくつかの材料が破壊されます。一方、戻りたいというメッセージは、このニーズの仕組みをまだ明らかにしていません。

元の生活に戻ることと、新生の準備をすることの間には根本的な違いがあります。最初のケースでは、物語は通常、前の生涯を継続する人と関連付けられています。二番目は、生涯間の接続、または少なくともそのような接続の主張の起源を確立する必要がある。これらの枝は、どちらも「戻り」という単語で記述されているため、図面にマージしないでください。

愛する人の夢は地図の隣にありますが、死者の道の失われた部分を置き換えないでください。彼らは夢想家の経験に関する情報を提供し、時には検証できる声明を含んでいる。夢を他の人の存在の特定の段階の観察として使用するには、追加の議論が必要です。死者の認識だけでは、彼の再生日や滞在期間は定まらない。

つながりが途切れる場所

最も重要なギャップは、通常の状態からの一時的な離脱と生涯の不可逆的な終わりの間にあります。生きた生存者は、ほぼ死の体験談を提供します。ソースには、帰還ポイントを超えて何が起こるかの体験談が含まれていない場合があります。このセクションに出生に関する資料を埋め込むことで、独立したデータに接続する必要のある研究モデルが作成される。

第二のギャップは、人生の準備とこの人生の特定の状況の確認の間に生じる。大人が彼の両親の選択を説明した場合、彼の家族のその後の知識はすでに彼のアクセス可能な生涯に含まれています。事前知識をテストするには、その知識の影響を制限するための早期固定が必要である。

三つ目のギャップは、主体の保存に関するものである。異常な情報の転送が確立できたとしても、受信者が以前の経験者の継続であるかどうかは依然として問題です。情報接続、人格と個人アイデンティティの類似性は異なる基準を必要とする。

休憩は、コミュニケーションが不可能であることを意味するものではありません。これは、既存の情報が次の推論ステップで不十分な場所を示している。科学的地図はその不完全さが見えるとより有用になる。読者は、新しい観察が回路の設計を変えることを理解することができます。

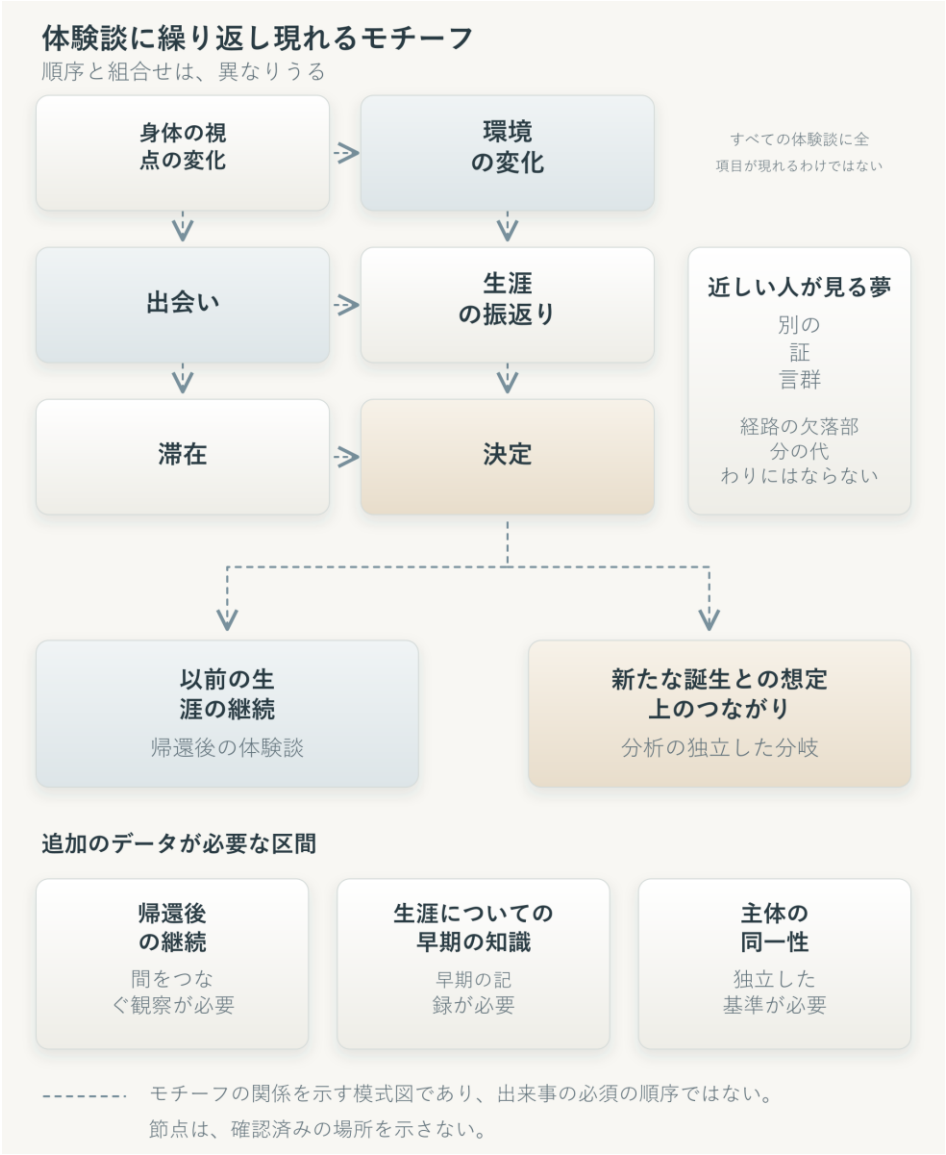


図28。フォークとブレイクのモチーフマップ。接続は条件付きであり、必須順序を指定しません。すべてのストーリーが全てのノードを含んでいるわけではない。

分岐の比較方法

一つの可能性は、私たちは共通のプロセスの異なる形式を持っているということです。もう一つは、部分的に類似したコンテンツを持ついくつかのプロセスを可能にする。もうひとつは、経験とストーリーテリングの一般的な手段との類似性を結び付けています。それらの中から選択するには、一般的な単語をリストするだけでは十分ではありません。

記号の組み合わせを探してください。光の別の言及は、イベントの順序についてはほとんど言っていません。より意味のあることは、稀な遷移方法、ある種の相互作用および同じ作用の制限を安定的に組み合わせることである。この場合、マッチング基準を事前に決定し、インタビュアーの文化や質問にどの程度依存しているかを確認する必要があります。

矛盾は、主張のレベルでも評価される。部屋の色の変化は、必ずしも全体的な機能パターンを混乱させるものではない。自由拒否と強制返還の区別は、意図したメカニズム自体に影響を与える可能性がある。規則がモデルにとってより重要であるほど、風景の違いによってのみその欠如を説明する理由は少ない。

したがって、最後のマップは枝のある地図のままでなければなりません。共通のパスの可能性は保たれていますが、ソースが確立しない単一のパスを必要としません。次の質問は、提案された動きの意味に関連する:正確に正当化または繰り返し帰還を引き起こすことができるもの。

第 16 章 なぜ戻るのか

原因、機能、意味

「なぜ」という言葉の意味が明確になるまで、生まれ変わる原因の問題は統一されているようです。メカニズムについて質問されることがある。次の移行の原因は何か? 時々それは機能に関するものです:どんな結果が繰り返しによって達成されるのですか? なぜ人は新しい生活に同意するのでしょうか? これらの質問は、異なる答えと異なるテスト方法を可能にします。

メカニズムは、意識的な目的なしに行動することができます。システム全体の構造を決定することなく、アクターの目標は存在する可能性がある。たとえそれが原因ではなかったとしても、個人的な意味はイベントの後に現れることがあります。したがって、ミッションの経験は自動的に存在の一般法則の説明と見なすことはできません。

以前の章では、タスク、トレーニング、帰還、延期の可能性に関するメッセージが論じられていた。現在、いくつかの分析モデルはそれらと区別できる。これらは、予測ルールを比較するための構造です。物語を首尾一貫した形で読むことを助けるだけでは、どれも成立しない。

各モデルは、人生の間にどのような持続性、どのような変化、なぜ身体的な生活が必要なのか、そしてプロセスが完了できるかどうかを問われるべきです。答えが見つからない場合、モデルの名前は既製の説明ではなく、思考の行を示しています。

学習のモデル

最も理解できるバージョンは、繰り返し生きることが何かを教えることを示唆しています。しかし、「学習」という言葉はコンテンツを必要とします。情報を取得し、スキルを習得し、他人に対する態度を変え、道徳的発展は異なるプロセスです。それぞれが結果の独自の特性を必要とします。

出生前に非常に幅広い知識へのアクセスが期待される場合、人生でまだ獲得する必要がある知識は何かという問題が発生します。可能な答えの一つは、説明と生活とを区別する。痛みに関する言葉を知ることができ、個別に痛みを経験します。このようなモデルは、論理的に、特定の種類の経験の獲得として具体化の価値を可能にする。しかし、この特別な経験が必要な理由と、それが繰り返されなければならない理由はまだ説明されていません。

もう一つの答えは、物事を行う方法の変化への学習に関するものです。この場合、記憶、傾き、意思決定能力、他者に対する態度など、前に進むものを確立することが重要です。転送可能な結果がなければ、連続した生活間の接続は不確かになる。蓄積を正当化するには、転送可能な結果と永続性の兆候を決定する必要がある。

忘れは自己選択条件としてモデルに含めることができる。しかし、この説明はコストがかかる。推測される忘れが多ければ多いほど、学習の継続性をテストすることは難しくなります。ある人物の性格が過去の教訓の結果であると宣言された場合、この仮説はすべての結果をカバーし、それらの間にはほとんど違いをもたらさない。

モデルの研究開発には、制約が必要です。例えば、特定の生涯においてどのような変化がより一般的であるべきですか? どんなメッセージがハードリングの前提を否定するだろうか? 提案された転送は、現在の人の通常の発達とどのように異なりますか? これらの質問は、事前に学習を拒否する必要はありません。特定の意味を持つ。

完成という問題もあります。目標が有限であれば、十分な基準が必要である。目標が絶えず変化している場合は、次のサイクルが前のサイクルを継続するかどうかを説明する必要があります。「開発」という言葉自体は、方向や制限、結果を評価する人を伝えるものではありません。

関係と修復

別のモデルは関係の中心に置きます。新しい人生は、つながりを継続し、何が行われているかを修復し、役割を変え、または他の人を助ける機会であるはずです。ここではユニットはもはや個人ではなく、相互作用のネットワークです。

このようなスキームは複雑な調整問題を引き起こす。一つの生活の状況が多くの人々に影響を与える場合、その決定は彼らの選択に関与していますか? 不一致は可能ですか? 他の人の行動が違うと計画は変わりますか? 誰もが自分の運命を完全に選ぶモデルは、これらの選択の交差点を説明する必要があります。

また、現在の人物が彼に起こったすべての出来事に実際に同意したという仮説上の選択から結論を下すことはできません。そのような結論を得るためには、選択の存在、その内容、結果の理解、意思決定主体の継続性を確立する必要があります。これらの条件は、目的に関する一般的な信念に置き換えられていない。

苦しみと学習のつながりは、特に正確さを必要とします。後にその人が耐えてきたものに意味を見いだすことは、その目的のために苦しみが事前注文されたことを立証しません。その後の理解と元の原因は、異なる声明のままである。この区別のおかげで、研究は人々に証明されていない解決策を帰さずに意味について論じることができる。

独立して記録された相互関連メッセージがあれば、リレーショナルモデルはより意味のあるものになるだろう。しかし、そのようなマッチでさえ、通常の情報のチャネルとマッチングルールをチェックする必要があります。過去の合意によって各出会いを説明することは、仮定と結果の区別を失うコストでのみ行うことができます。

体験、参加、奉仕

別のモデルは、目標が経験の多様性であると仮定する。新しい人生は、異なる見方と行動を表します。多様性がそれ自体に価

値がある場合、完了は必ずしも卒業試験の形を取るものではない。

このオプションは、一般的なアイデアのレベルで多くの異なる生活の可能性を説明します。しかし、なぜこれらの特定の条件が要求され、誰がその価値を評価するのかを説明しません。また、多様な経験を持つ共通の担体があるかどうか、または各主体が別々の部分のみを受け取るかどうかを判断する必要があります。

参加モデルは、世界の行動を強調します。帰還は、助け、関係、または特定のタスクのために意図されています。彼女にとって、経験の後に人が彼の人生に割り当てる意味と、独立してそれに遡ることができるタスクを区別することが重要です。どちらのオプションも個人的な意味を持つことができるが、検証において異なる役割を果たす。

最後に、必須サイクルモデルが可能となる。その中で、遷移は現在の欲望に依存しない規則に従って起こります。この仮定は、ルールを必須にするものを確立する必要があります。教師、評議会、またはより高い権限を指すと、問題はその俳優の権威にシフトします。当局の名前自体は、その決定の基礎を明らかにしていません。



図29。返還予定の五つの説明。左から右へ、上から下へ:学習、関係、経験の多様性、援助と必須サイクル。著者の構成は、結果、遷移規則および完了の可能性を明確にするために必要な分析モデルを比較する。

とどまる自由

出生の放棄の問題にはいくつかのステップがあります。経験者は滞在したい、いやいや、pr予を得たい、または最終的にサイクルから抜け出すことができるかもしれません。ある段階から別の段階への遷移には、追加の情報が必要である。

最終的な失敗は特に調べるのが難しい。現在の生活について話している人のサンプルは、その設計により、現在の生活に存在する人が含まれています。生まれて間もない人の比率を直接計算することはできません。この選択制約は、変性モデル全体が一時的に受け入れられても持続する。

「この人生の後、私はもはや化身する必要はありません」というメッセージは、期待される未来を指します。それをテストするためには、拒絶と見なされるもの、新しい化身の確立方法、観察すべき期間を決定する必要があります。そのような条件がなければ、「最後の」という言葉は物語の内容の一部のままです。

また、特定のパラメータを選択する自由とシステム全体を拒否する自由の間にも違いがあります。家族や時間、仕事を選ぶ能力は、存在をコントロールするという意味ではありません。マップは、これらの自由を別々に保つ必要があります。そうでなければ、プライベートな決定が密かに絶対的な自律性に変換されます。

何を神と呼ぶのか

目的を議論するとき、より高い情報源の質問が生じる。5章と6章では、「神」という言葉は、認識可能な対話者、光り輝く存在、包括的な一体性、そしてその後の説明など、さまざまなことを意味しています。

これらの値は自動的に互いに変換されません。個人的アピールは参加者間の関係を前提としている。それどころか、団結した経験は、自分と環境の境界線が弱まることにともなう可能性がある。最終話の同じ言葉は、経験の構造の違いを排除しません。

パーソナライズされたプレゼンテーション仮説は、あるソースが異なる人々にとって理解可能な形式をとると仮定する。研究に役立てていくためには、形が変わると一定であることを示す必要があります。決定の外観、ルール、シーケンス、および意味が変化する可能性がある場合、ソースの統一性に対して一般的に証言するデータを決定することは難しくなります。

したがって、存在の意味に関する問題は、繰り返されるプロットの問題よりも広いままです。メッセージの類似性は、ターゲットを体験する一貫した方法を明らかにすることができる。システム全体の客観的目的に関する結論を引き出すためには、これらのメッセージの内容と独立した根拠を結びつける必要がある。この本は、人間の経験の意味のためのスペースを作りながら、この境界を維持します。

第 17 章 世界像をどう検証するか

説明より先に主張を定める

ストーリの比較の後,次のステップでは,個別にテスト可能なステートメントを策定します。「説明された世界全体が存在するか」という質問は、一つの観察には大きすぎる。より具体的な質問は、特定の情報、イベントのシーケンス、または条件に対する画像の依存性に関するものである。

研究プログラムはいくつかの方向から開始することができます。通常の観察ではアクセスできない物体について、レポートの精度を確認することができます。記事の初期のバージョンと後のバージョンを比較することができます。質問の方法によって内容が変わるかどうかを知ることができます。あなたは、他の人の死についてのメッセージのシーケンスを研究することができます。これらのタスクは、事前に同じ説明を提供する必要はない。

各ステートメントは、結果が偶然、エラーまたは不確実性と見なされる条件を必要とします。答えを読む前に彼らに尋ねることをお勧めします。結果の後、ルールが変化すると、見つかったパターンを分類適応と区別することは困難である。

以下のスキームは研究の方向性であり、本書で実施された実験の説明ではない。彼らの実施には、適切な専門的な訓練、倫理的条件に関する合意、参加者の保護が必要です。

医療上の出来事に伴う観察

臨床レビューは、医療イベントの客観的シーケンス、情報可用性の状態、および人の早期自由な物語の三つの記録を関連付ける必要がある。オブジェクトの正確なレポートでさえ、オブジェクトが通常の方法で見たり聞いたりしたかどうかがわからない場合、体験のローカライズにはほとんど役に立ちません。

可能なテスト刺激は、チャンバーの通常の情報から分離されるべきである。タイミング目的のために、所定の刺激変化と独立した時間ログが有用である。この場合、回答を評価するインタビュアーは、可能であれば、ストーリーを記録する前に正しい内容を知るべきではありません。

このような研究が始まる前に、許容可能なマッチの辞書、時間窓、および答えを評価する方法が記録される。刺激が変化した場合、内容の正確性とタイミング精度は二つの異なる結果となる。表示されている画像との一致は、所定の間隔の画像との一致とは異なる意味を持つ。

そのような手順は治療の対象となります。危険な状態を作ったり、観察のために必要な援助を変えることは一切関係ありません。課題は、医学的優先順位を維持しながら自然に発生する出来事を記録することである。

肯定的な結果は、利用可能な情報チャネルと再現性の調査を必要とする。負の結果もタスクの境界内で読み取らなければなりません。個人が目標刺激を報告していない場合、これはその刺激に関する特定の知覚的推論を制限する可能性がある。経験豊富なコンテンツに関するすべての質問に必ずしも答えるものではありません。

別の生涯についての早期の報告

子どもの物語を研究する上では、マッチを見つける前の定着が中心である。無料の発話は日付と文脈で記録される。そして、元家族と会った後に現れた説明や大人からの質問、情報などを別々に記憶する。

ステートメントのリストは検証可能性によって分割されるべきです。家族を持つことのような一般的なフレーズは、多くの可能なマッチを持っています。名前、場所、イベントのまれな組み合わせは潜在的に有益なものですが、綴りのバリエーション、検索範囲、通常の知識源についてチェックする必要があります。

エラーと矛盾を保持することが重要です。成功した詳細だけが公開される場合、ステートメントのセット全体を評価するこ

とは不可能です。また、文書によって検証された情報、一つの親戚の物語と共同議論の後の数人の同意を区別することをお勧めします。

可能な追加の制御の一つは、事前に確立された規則に従って元のリストを複数の生涯と独立して比較することである。評価者は、参加者がどの家族がストーリーに一致すると信じているかを知りません。このアプローチは、検索のすべての難しさを排除するものではありませんが、それはあなたが希望の答えを知ることに依存するどのくらいの選択を確認することができます。

想定される生涯自体の検索は、情報転送の歴史の一部になる。したがって、その段階は文書化される必要がある。後に続く検証の独立性は、まず第一に、参加者が各瞬間に持っている情報を再構築する能力を意味します。この手順は、最終的にどの説明が望ましいかに関係なく有用である。

夢と死の知らせ

夢の場合、それらに関連するニュースを受け取る前の登録は特に有望です。日記は、珍しい偶然だけでなく、通常のエントリのシーケンスも含んでください。さもなければ、成功した事例が際立っている背景は不明である。

事前定義されたコンプライアンスルールが必要です。名前、画像、一般的な気分と特定のイベントの偶然は、精度の度合いが異なります。時間も可能なマッチの数を変更することができます。これらのパラメーターが自由であればあるほど、結果に慣れ親しんだ後に接続を選択することが簡単になります。

複数の証人の場合は、相互審議の前にメモを取得する必要があります。既存の通信は別々に記述されている。分離が遅すぎる場合、これはデータを破壊する理由ではなく、独立性に関する結論を制限する理由です。

可能な制御比較は、どのペアが予測マッチと見なされるかを評価することなく、実際のイベントと等価な制御イベントとのレコードの対応を評価することからなる。ペアを形成するためのルールは事前に設定されています。その結果は、分離された

ストーリーの印象ではなく、これらのペアを区別するための確立した手順の能力を指す。

十分に文書化されたマッチであっても、利用可能な情報チャネルとそのようなメッセージの頻度を評価する必要がある。あるエピソードは疑問を呈し、所定の条件を持つシリーズはその再現性を理解するのに役立つ。



図30。体験談を検証する三つの方法。デザインは医学的ケーススタディ、子どものレポート、そして睡眠に関する調査を行う。早期の修正、利用可能な情報の検証、独立した比較にはマッチとエラーの保存が含まれます。

個別化と共通の道筋

個々の設計と共通パス仮説は、二つの特徴セットの比較を必要とする。最初の画像に関連する:図、オブジェクト、スペースと宗教的なシンボル。二番目は関係とルールについてです:誰が拒否できるかどうか、移行の前に何があり、情報がどのように伝達されるかを決定します。

第二セットの類似性は、第一セットの違いが個別化仮説と適合する。しかし、それは人間のストーリーテリングの一般的な

特性と互換性があるかもしれません。したがって、他の経験との比較や質問の影響のテストが必要になります。同じようなトピックのクロスカルチャーリストだけでは不十分です。

経験の内容に関係なく、文化の記述を得ることが望ましい。最初にイメージクリスチャンを呼び出して、その存在を人のキリスト教的期待の唯一の証拠として使用することはできません。実際の信念、ストーリーへの露出、イベント前とイベント後の見解の変化に配慮する必要があります。

コーディングは、事前定義されたルールを適用する数人に委ねるべきである。彼らの不一致そのものが有用な情報を提供する。異なる研究者によって同じシーンが一貫して異なるフェーズに割り当てられている場合、これは想定される世界の特別な特性ではなく、マップ内のあいまいさを示す可能性がある。

どの結果なら結論を実際に変えるか

既知の従来のチャネルを除外し、結果がイベントのタイミングに正確にリンクされる条件の下で、所定の情報を繰り返し取得することで、強い進歩が起こる。これにより、特定の異常な情報効果の有効性が向上します。情報担体に関するさらなる結論は、まだ別の分析を必要とします。

もう一つの重要な結果は、インタビューモードにおけるストーリーの一貫した依存性である。プロシージャによってマップのどの部分が作成または拡張されているかを特定するのに役立ちます。同様に、制御された影響下にある要素の特定の組み合わせを独立して再現すると、この組み合わせのメカニズムが明確になる。

この研究は両方向の変化の可能性を維持しなければならない。より厳格な証拠は、異常な仮説を強化したり、制限したり、複数の現象に分割したり、元のカテゴリが広すぎたことを示す可能性がある。これが、プログラムの研究ベースになります。

このような結果が現れるまで、適用範囲の異なるいくつかの説明を維持することは許容される。検証済み終了と仮定の開始のステップを理解することが重要です。この明確さにより、事前に最終回答を決定することなく作業を進めることができます。

おわりに

出生前の死や生の経験について話している人は、すでに記憶と言語を通過した経験を伝えます。このパスは証言を非評価にしません。それはどのような方法で研究できるかを決定します。

ソースの比較により、身体的視点の変化、遭遇、意味の受け取り、滞在、決定と復帰といった、認識可能なテーマを特定することができます。しかし、テーマの反復は単一の外部メカニズムを確立しず、異なるストーリーから構築されたシーケンスが自動的に完全なサイクルの観察にはならない。

最も有用な区別は最初小さく見えます。循環停止は不可逆的な死と異なる。医療イベントの期間は、経験豊富なシーンの期間と異なる。存在感は特定の人の認識と異なる。信頼と正確さは異なる。情報の転送は、同じ主体の継続と異なります。休息は待機と異なり、延期の可能性は最終的な拒絶とは異なります。

これらの区別は、継続的な存在の問題から遠ざかるものではない。より定義される。どんな情報が保存されているか、どんな性格的特質が継続していると仮定しているか、そしてどのような観察によって生涯間の特定の関係が確認されるかを問うことができる。

提案された地図は条件のままである。比較的よく説明されている領域とトランジションがあり、データがない。確立された完全なルートの欠如は、そのようなルートが不可能である証拠ではありません。それは、それは観察の完成結果として読者に提示できないことを意味します。

返還の目的に関する問題は独立したままである。人生間の異常な関係の確立でさえ、それが義務的で、想定される目標が誰に属するかに関係なく、この関係が存在する理由を説明するものではありません。学習、関係、参加、タスクパフォーマンスは、定義された条件と識別可能な意味がある場合にのみ研究モデルとなる。

経験の個人的な意味は、その外部の説明よりも明確であるかもしれません。人は、意識の構造の完全な画像を持たなくても、

人生、記憶、そして愛する人に対する態度を変えることができます。彼にとって人生の意味を選ぶためには研究は必要ない。その仕事は、何が知られており、なぜ知られていると信じられているのかを正確に記述することである。

作業の継続は、次の観察の質に依存します。初期の記録、独立した証人、保存された誤り、開いた記録と正確なタイミングは、時には別の完全な物語よりも多くのものを提供する。意識の境界の問題が一貫した研究の対象であり続けることを可能にするのは、まさにそのような詳細です。

付録 1 個々の証言の記録票

ケースレコードは、公開資料の比較を目的としています。各詳細の起源を保存し、イベント、記憶、および解釈間の混乱を避けるのに役立ちます。未知値は未知として記録されるべきである。空のセルは、現象がないという意味ではありません。

マージンはストーリー全体ではなく、特定のステートメントを指します。例えば、医学的状況は文書によって確認されるが、指揮者のフレーズは後のインタビューからのみ知られている。この情報は、同一の場合であっても異なる基盤を持っています。

フィールド	記録内容
事例・出版物	人のコード名または識別子; 同じ場合に関連する出版物のリスト。繰り返しのリテリングは別個にカウントされません。
メッセージタイプ	死に近い経験;子供の言葉;大人の記憶;夢;ガイド付きセッション;別の目撃者からのメッセージ。
仮説化イベント	日付、場所、および問題の状況。各日付の基礎は別々に示されています。
初回入門	いつ、誰によって作られましたか? 完全に保存されているのでしょうか?フリーストーリーを録音したり、他の人のリテリング。
問題の歴史	個人が独立して報告したこと、オープンな明確化の後に表示されること、意味のあるプロンプトの後に発生したこと。
医学的文脈	文書化された状態と間隔。親戚の呼吸不足報告は、医療記録に取って代わるものではない。
自己状態	場所、身体性、行動の著者、自分自身の記憶、起こっていることを評価する能力。
経験豊かな環境	視覚、聴覚、他の感覚、空間の配置、物体、移動し、注意を変える能力。
その他の文字	画像、認識方法、音声またはその他のコミュニケーション方法、メッセージコンテンツ、割り当てられた役割。

フィールド	記録内容
二回	外部の手がかりと主観的なシーケンスは別々に記録され、どの境界が実際に一致するかを示す。
検証済みコンテンツ	正確な元の文言、可能なマッチ、確認の源、および矛盾の存在。
情報チャネル	コンタクト、読書、議論、知人、出版物、および物語の各段階までの利用可能な知識の他の方法。
独立	目撃者が互いに話し合ったとき。コミュニケーションの前に、そしてサポート情報を受け取る前に記録されるもの。
概要	指定された境界内で確認された;拒否;不確かであり、利用可能な材料を使用して検証することはできません。

付録 2 想定される各段階への問い

この表は一般的な読み方を示しています。その行は必須の順序を述べず、確認された場所を示しません。回答するときは、研究分類の隣に語り手の単語を保存する必要があります。

フェーズ	自己	環境など	時間と変遷
身体的視点の変化	自己と身体所有感の位置で何が変わったのですか? 生涯は保存されていますか?	何を見たか聞いたか? 独立して検証可能な世界の詳細は何ですか?	外部シーンマーカーはありますか? その始まりは?
変遷	誰が運動を引き起こしていますか? 体験者が止められるか?	パス、ランドマーク、またはすぐに変化する環境はありますか?	期間は記載されているか、それとも順序だけですか? どの境界線が使われますか?
会合	認識はどのように行われるか? 出会いの時点で人は何を理解していますか?	誰かのプレゼントはどんな感じですか? 割り当てられたIDはどのように確認されますか?	コミュニケーションはいつ始まりますか? メッセージの後、どのような変更がありますか?
特集にあたって	評価の個人的な著者はいますか? 記憶の体験はどうですか?	画像、会話パートナー、または即時理解はありますか?	シーンはお互いに従うのでしょうか、それとも一緒に与えられていますか? 外部のランドマークはありますか?
滞在	状態は安定していますか? 欲望や幸福は変わりますか?	どんな活動や関係が説明されていますか? 回復とはどういう意味ですか?	時間の経過はどのように認識されますか? 滞在の終わりは何ですか?

フェーズ	自己	環境など	時間と変遷
解決策	延期または拒否する、選択できるものは何ですか?	解決策を提案したり、説明したり、制限したりするのは誰ですか?	最終決定はいつですか? 再議論はありますか?
身体との繋がり	何が正確に連続的であるべきでしょうか?	家族、身体および生涯情報はどのように接続されていますか?	出生とアイデンティティは異なりますか? 確認の日付はありますか?
その後の記憶	何が残っていて、理解はどのように変わったのか?	誰が質問に参加し、マッチを探しましたか?	最初のエントリはいつ表示されましたか? 後にどのような情報が知られるようになったか?

付録 3 主要な概念の用語集

以下の定義は、この本における用語の意味を示している。彼らは意識の単一の哲学理論との合意を必要としません。

クオリア. 体験の主観的な側面、感覚や状態が経験される方法。クオリアを説明することは、その経験の外部原因を特定することとは異なります。

現象学。この文脈では、状態が体験者にどのように与えられるかの説明:画像、感情、時間、身体性、および自分自身の自己の位置。

経験の主体。経験者と思われる人。この用語は、経験の連続性に関する疑問を、その物理的またはその他の性質を事前に問うことなく提起することができます。

自己認識。自己認識:この分析は、最小限の存在感、自身の生涯の知識、および自分自身に対する他の態度を区別します。

省察. 自分の状態に気づいて評価する能力。経験を持つことは、必ずしもそれに関する広範な思考を伴うものではありません。

自己局在化。経験豊かな自分自身の居場所。その説明自体は、情報ソースの物理的位置を測定しません。

個人認証。異なる瞬間に同じ主体について話しているという主張。情報や性格の類似性は、未だに既製のアイデンティティ基準を提供していない。

臨死体験. 人が死の近さに関連付けられた経験。問題の出版物では、彼はその後のメッセージによって判断されます。特定の医学的状況とアンケート基準は別々に決定されます。

体外離脱体験. 身体の通常の境界の外にいるか、別の位置から体を見るように自分自身を描写する経験。その用語は経験を指す。

インターミッション。生まれ変わる物語の中で、人生の間に想定される間隔。その内容と期間は、一つのカレンダーブレークから派生したものではありません。

生まれ変わる。新しい身体的な生活を通して、継続した存在の仮定。異なるモデルは、正確に継続するものの定義が異なります。

将来の研究。興味のある結果が得られる前に観察条件が決定される研究。特定の品質は、プロトコルの実行によって異なります。

振り返り研究。記憶や保存資料を用いて、すでに発生した出来事の研究。その能力は、初期の記録と情報の歴史に依存します。

関係ある。別の指標に関連する測定可能な属性。接続の存在自体は、因果関係の方向や経験の特定の内容を決定するものではありません。

リグレッションガイド。人が知覚された過去を参照するように求められる手順。回答の経験豊富な説得力は、その歴史的起源を証明していません。

暗号学ソースの利用可能な記憶なしで以前に取得した情報を使用します。特定の場合、そのような説明も理由を必要とします。

独立した固定。他のストーリーの影響またはその後のレビューを制限する条件の下で行われた記録。独立の度合いは状況によって決まる。

機能コード。物語要素の役割の探索的指定:例えば、伴奏や期待。コードは元の記述を置き換えない:研究者は両方を保持する。

ネガティブなケース。期待される要素がないことを明示的に報告するケース、または指定された仮定と矛盾する結果。情報の欠如は、それ自体がネガティブなケースとはならない。

付録 4 本書で扱う報告の索引

この索引は、全体の模式図から具体的な出典へ戻るためのものである。第5–9章で扱う個人の体験談を含む 29 文書をまとめており、一部はほかの節でも参照する。角括弧内の番号は参考文献を示す。これは資料を探すための文書一覧であり、独立した裏づけの数ではない。特に、オデルの語りの二つの版は同じ語り手に由来し、シェリーとキャミの個別の場面を、途切れのない一つの道筋としてつなぐことはできない。

出典	メッセージ	章
[14]	夫人。グレース	5
[15]	ピーター・N	5
[16]	シャロンT	5
[17]	バルC	5
[18]	リサR	5
[19]	ティナW	5
[20]	サミーE	5
[21]	キャサリンL	6
[22]	オデルH	6
[23]	リエット W	6
[24]	シェリー・P	6
[25]	ジョージC	6
[26]	ブライアンD	6
[27]	スティーヴン I	6
[28]	キャミ R	6
[29]	モーリーン K	7
[30]	ジェームズ	7

出典	メッセージ	章
[31]	アンジェラE	7
[32]	ジェニファーB	7
[33]	ダイアナ・G	7
[34]	キャリーT	7
[35]	アダム・K	8
[36]	ミシェルN	8
[37]	クリスチャン・サンドバーグ	8
[38]	ジェニファー	8
[39]	アレックス・P	8
[40]	ウルスラK	8
[42]	メイ	9
[43]	ビルD	9

付属のファイルsource_registry.csvとsource_registry.jsonは、ソーステキスト内のリンク、材料の種類、およびディスカッションポイントを保存します。出版年は、最初の独立した文書の日付の代わりに使用されません。日付は未定である。特定のステートメントの起源を検証するには、Appendix 1からパスポートを作成し、ソース自身に戻る必要があります。

付録 5 出来事の順序をどう検証するか

主題の反復から予測へ

新しい物語の構造を事前に予測すれば、共通の経路仮説はより強くなる。これを行うには、すでに読まれている材料で光を見つけ、出会いし、戻ってくるだけでは十分ではありません。各イベントとしてカウントされるもの、順序の確立方法、どの例外が許可されているか、予測がチェックされる独立したメッセージについて。以下は著者の研究プログラムであり、15と17の章を継続している。それは実施された人間の試験を記述するものではありません。

二つのモデルを比較してみましょう。一つ目は、一つの順序を仮定することなく、動機周波数、文化的文脈およびインタビュー手順を考慮する。二番目は、トランジションに一定の制限を追加します。どちらも同じソースコードで動作しなければならない。モデルの言語的記述は、計算可能な予測と許容できる複雑性を指定した後にのみ研究コミットメントとなる。フリー例外の数は、各障害によって増やすことはできない。

統合する前のデータ

まず、人とドキュメントという二つの関連するレジストリが作成される。同じエピソードの異なる出版物、インタビュー、およびバージョンは、独立したケースとしてトレーニングとテストの間に分布しません。無料ナレーション、明確化と意味のあるヒントは別々に言及されている。各動機、説明、直接否定、言及なし、質問なし、曖昧さが区別される。順序のために、明示的な優先順位、継承、同時性および未確認接続がさらに保存される。

二つのエンコーダは最初は別々に動作します。合意まで、元の決定は保存される。画像と機能を区別することは特に重要です:白い衣服はまだ医療援助を示していませんが、他の人の存在は伴奏を示しません。不一致は定義の欠如を示す可能性がある。全体のルートをよりきれいにするコードを選択するだけでは修正できません。

計算可能な小さな例

八つの完全人工的な記録を見てみましょう六つは遷移と遭遇を明示的に記述し、五つは遷移が遭遇に先行する。七番目には遷移しかなく、八番目の要素では、両方の要素は定まった順序なしでリストされています。最後の二レコードはセットに保存されますが、このペアの方向の比較には含まれていません。スキップは順序を反転させません。

記録	コンディションイベント	発注
D1	トランジション →ミーティング	はい
D2	ボディ →トランジション→出会い	はい
D3	トランジション→ボディ →出会い	はい
D4	トランジション →出会い →決定	はい
D5	トランジション →ミーティング	はい
D6	ミーティング →トランジション	はい
D7	トランジションのみ	このペアで定義されていない
D8	移り変わりと出会い	いいえ

教育制御のために、我々は事前に非常に狭いヌルモデルを選択する:ペアの方向は独立しており、二に一の確率を持つ。このルールで少なくとも六マッチのうち五マッチを得る確率は、$[C(6,5) + C(6,6)]/2^6 = 7/64 = 0{,}109375$です。したがって、六つのうち五つの同一方向でさえ、選択された制御に対して結果を自動的に異常にしない。これは、一般的な経路が偽である確率ではなく、可能なすべての心理的説明との比較でもない。

プログラムは、レコードを除外する理由のリストと重複した識別子を拒否し、この例を再現します。10章では433の日、3章では2,9のパーセント制限を計算する。ソースコードと起動順序は、付随する資料に与えられます。

次の事例による厳しい検証

実際のコーパスの場合、方向の等確率は正当化を必要とする。インタビュー自体はシーケンスを設定でき、ストーリーの長さは利用可能な遷移数を決定できる。したがって、相手はこれらの特性を考慮に入れなければならない。比較の結果は、以前に設定した人や情報源で評価し、文化グループと言語グループ間の転送を別々にチェックする必要があります。提案した主な指標は、新しい独立ユニットに対する予測の平均対数損失であり、確率の信頼性は別々にチェックされる。

新しいメッセージに対する順序モデルの持続的な利益は、その予測値をサポートする。面接を考慮に入れた後の賞金の消失は、手順の役割を示します。いずれの結果も、主体の死後の持ち主や同一性を確立しない。これには、メッセージ構造を異なる観測可能な結果に関連付ける理論が必要である。

参考文献

数字はテキスト内の参照に対応する。個人的な物語では、アーカイブレコードが示されます。研究のために、出版物または利用可能な著者のコピーが表示されます。アクセス制限は、抽象的な出版物または不完全な出版物が使用される場合に注意されます。リンクは、あなたが情報の起源を復元することができる材料につながります。

1. Greer D. M., Kirschen M. P., Lewis A. et al. *Pediatric and Adult Brain Death/Death by Neurologic Criteria Consensus Guideline.* 2023. DOI 10.1212/WNL.0000000000207740. Terminology; General Principles; Recommendation 1.

2. Bray J. E., Gräsner J. T., Nolan J. P. et al. *Cardiac Arrest and Cardiopulmonary Resuscitation Outcome Reports: 2024 Update of the Utstein Out-of-Hospital Cardiac Arrest Registry Template.* 2024. DOI 10.1161/CIR.0000000000001243. Table 2; Process.

3. Parnia S., Spearpoint K., de Vos G. et al. *AWARE—AWAreness during REsuscitation—A prospective study.* 2014. DOI 10.1016/j.resuscitation.2014.09.004. Resuscitation 85:1799–1805; pp. 1802–1803; Table 2.

4. Parnia S., Keshavarz Shirazi T., Patel J. et al. *AWAreness during REsuscitation - II: A multi-center study of consciousness and awareness in cardiac arrest.* 2023. DOI 10.1016/j.resuscitation.2023.109903. Resuscitation 191:109903; Results; Figure 2.

5. Sanders R. D., Gaskell A., Raz A. et al. Incidence of Connected Consciousness after Tracheal Intubation: A Prospective, International, Multicenter Cohort Study of the Isolated Forearm Technique. 2017. DOI 10.1097/ALN.0000000000001479. Anesthesiology 126(2):214–222; Abstract.

6. Mauduit M., Anselmi A., Tomasi J. et al. *Does Hypothermic Circulatory Arrest for Aortic Surgery Trigger Near-Death Experience? Incidence of Near-Death Experiences after Aortic Surgeries Performed under Hypothermic Circulatory Arrest.* 2021. DOI 10.1055/s-0041-1725091. Methods; Results; Tables 2–4.

7. Rousseau A.-F., Dams L., Massart Q. et al. *Incidence of near-death e xperiences in patients surviving a prolonged critical illness and their lon g-term impact: a prospective observational study.* 2023. DOI 10.1186/s1 3054-023-04348-2. Critical Care 27:76; Results; Discussion.

8. Blanke O., Ortigue S., Landis T., Seeck M. *Stimulating illusory own-b ody perceptions.* 2002. DOI 10.1038/419269a. Nature 419:269–270.

9. Ehrsson H. H. *The Experimental Induction of Out-of-Body Experience s.* 2007. DOI 10.1126/science.1142175. Science 317:1048.

10. Blanke O., Pozeg P., Hara M. et al. *Neurological and Robot-Controll ed Induction of an Apparition.* 2014. DOI 10.1016/j.cub.2014.09.049. Cur rent Biology 24(22); Studies 2–4.

11. Ring K., Cooper S. *Near-Death and Out-of-Body Experiences in the Blind: A Study of Apparent Eyeless Vision.* 1997. DOI 10.1023/A:102501 0015662. Journal of Near-Death Studies 16(2):101–147; pp. 119–123, 13 3–135.

12. Rivas T., Smit R. H. *A Near-Death Experience with Veridical Percept ion Described by a Famous Heart Surgeon and Confirmed by his Assist ant Surgeon.* 2013. DOI 10.17514/JNDS-2013-31-3-p179-186. Journal o f Near-Death Studies 31(3):179–186; pp. 181–186.

13. Holden J. M., Joesten L. *Near-Death Veridicality Research in the Ho spital Setting: Problems and Promise.* 1990. DOI 10.17514/JNDS-1990- 9-1-p45-54. Journal of Near-Death Studies 9(1):45–54; pp. 50–52.

14. Mrs. Grace. Mrs. Grace NDE 7649. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

15. Peter N. Peter N NDE. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

16. Sharon T. Sharon T NDE 8597. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

17. Val C. Val C NDE 9155. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

18. Lisa R. Lisa R NDE 9456. 2022. 自由記述の体験談と質問票への回答。

19. Tina W. Tina W NDE 8608. 2018. 自由記述の体験談と質問票への回答。

20. Sammy E. Sammy E NDE 13385. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

21. Katherine L. Katherine L NDE 8213. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

22. Odell H. Odell H NDE 6339 and 5003. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

23. Riëtte W. Riëtte W Pre-birth 3519. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

24. Shelley P. Shelley P Experience. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

25. George C. George C Pre-birth 3414. 2019. 自由記述の体験談と質問票への回答。

26. Bryan D. Bryan D NDE 13327. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

27. Stephen I. Stephen I Pre-Birth 3099. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

28. Cami R. Cami R NDE 6132. 2011. 自由記述の体験談と質問票への回答。

29. Maureen K. Maureen K NDE 8982. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

30. James. James Other 6402NDE. 2012. 自由記述の体験談と質問票への回答。

31. Angela E. Angela E Other. 2011. 自由記述の体験談と質問票への回答。

32. Jennifer B. Jennifer B Pre-birth 3201. 2017. 自由記述の体験談と質問票への回答。

33. Diane G. Diane G NDE 622. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

34. Cary T. Cary T Pre-birth 3363. 2019. 自由記述の体験談と質問票への回答。

35. Adam K. Adam K Pre-birth 3421. 2020. 自由記述の体験談と質問票への回答。

36. Michelle N. Michelle N Pre-birth 3443. 2020. 自由記述の体験談と質問票への回答。

37. Christian Sundberg; Rick Archer. Christian Sundberg Transcript Pre-Birth Memories Veiling and the Purpose of Incarnation. 2021. Buddha at the Gas Pump 613 のインタビュー。全文の書き起こし。

38. Jennifer. Jennifer Pre-birth 3370. 2019. 自由記述の体験談と質問票への回答。

39. Alex P. Alex P Prebirth 3264. 2018. 自由記述の体験談と質問票への回答。

40. Ursula K. Ursula K NDE 13301. 年不詳。自由記述の体験談と質問票への回答。

41. Masayuki Ohkado; Akira Ikegawa. Children with Life-between-Life Memories. 2014. Journal of Scientific Exploration 28(3), 477–490; 「The Subjects」節、表 2、結婚式での目撃の記述、注 10。

42. Mae. Mae Prebirth 3289. 2018. 自由記述の体験談と質問票への回答。

43. Bill D. Bill D Prebirth 3435. 2020. 自由記述の体験談と質問票への回答。

44. Poonam Sharma; Jim B. Tucker. Cases of the Reincarnation Type with Memories from the Intermission Between Lives. 2004. Journal of Near-Death Studies 23(2), 101–118; 102 頁の方法と、107–108 頁の三段階の記述。

45. James G. Matlock; Iris Giesler-Petersen. Asian Versus Western Intermission Memories Universal Features and Cultural Variations. 2016. DOI 10.17514/JNDS-2016-35-1-p3-29. Journal of Near-Death Studies 35(1); 抄録とはじめに。

46. Masayuki Ohkado. A Case of a Japanese Child with Past-Life Memories. 2013. Journal of Scientific Exploration 27(4), 625–636; 調査の記述と発言の表。

47. Ian Stevenson; Godwin Samararatne. Three New Cases of the Reincarnation Type in Sri Lanka With Written Records Made Before Verifications. 1988. Journal of Scientific Exploration 2(2), 217–238; トゥシタ・シルヴァの事例。

48. Rawat K. S. The Case of Shanti Devi. 1997. 死亡日と誕生日が記された段落。

49. Rawat K. S.; Rivas T. The Life Beyond: Through the Eyes of Children Who Claim to Remember Previous Lives. 2005. PDF 3–4 頁。

50. Haraldsson E. Birthmarks and Claims of Previous-Life Memories: I. The Case of Purnima Ekanayake. 2000. 18–20 頁、表 2。

51. Stevenson I. Twenty Cases Suggestive of Reincarnation. 1974. Jasbi r 34–52 頁; Swarnlata 67–69 頁。

52. Matlock J. G. Congenital Physical Anomalies Associated with Decea sed Persons in Reincarnation Cases with Intermissions of Less Than Ni ne Months. 2023. DOI 10.1016/j.explore.2022.08.019. 方法、表 1。

53. Stevenson I.; Pasricha S.; McClean-Rice N. A Case of the Possessio n Type in India With Evidence of Paranormal Knowledge. 1989. 81–101 頁。

54. Barrington M. R.; Mulacz P.; Rivas T. The Case of Iris Farczády—A S tolen Life. 2005. Journal of the Society for Psychical Research 69.2 49–7 7 頁。

55. Brown A. S.; Murphy D. R. Cryptomnesia: Delineating Inadvertent Pl agiarism. 1989. DOI 10.1037/0278-7393.15.3.432. 抄録または論文の抜粋。 Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition 1 5(3)、432–442 頁。

56. Thomason S. G. Xenoglossy. 1995. 5–8 頁と 10–11 頁。

57. Stevenson I. Children Who Remember Previous Lives: A Question of Reincarnation, revised edition. 2001. 第 10 章; 注 8.13 と 10.1。

58. Wright S. T. et al. The impact of dreams of the deceased on bereave ment: a survey of hospice caregivers. 2014. DOI 10.1177/104990911347 9201. 抄録または論文の抜粋。American Journal of Hospice and Palliativ e Care 31(2) 132–138 頁。

59. Kerr C. W. et al. End-of-Life Dreams and Visions: A Longitudinal Stu dy of Hospice Patients' Experiences. 2014. DOI 10.1089/jpm.2013.0371. Journal of Palliative Medicine 17(3) 296–303 頁。

60. Depner R. M. et al. Expanding the Understanding of Content of End- of-Life Dreams and Visions: A Consensual Qualitative Research Analysi s. 2020. DOI 10.1089/pmr.2020.0037. 方法と主題分析。

61. Dam A. K. Significance of End-of-life Dreams and Visions Experienc ed by the Terminally Ill in Rural and Urban India. 2016. DOI 10.4103/097 3-1075.179600. 方法、結果、事例。

62. Barrett W. Death-Bed Visions: The Psychical Experiences of the Dying. 1926. 参照箇所: 第 2 章。

63. Haraldsson E. Alleged Encounters with the Dead: The Importance of Violent Death in 337 New Cases. 2009. 107–110 頁、事例 2180。

64. Shared Crossing Research Initiative. Comparing Near-Death Experiences and Shared Death Experiences: An Illuminating Contrast. 2022. DOI 10.17514/JNDS-2022-40-2-p77-94. 79–86 頁。

65. Tressoldi P. et al. Shared Death Experiences: A Multicultural Survey. 2023. DOI 10.1177/10499091221093270. 抄録または論文の抜粋。2022 年一月 26 日のプレプリントの方法。

66. Hinton D. E.; Peou S.; Joshi S.; Nickerson A.; Simon N. M. Normal Grief and Complicated Bereavement Among Traumatized Cambodian Refugees: Cultural Context and the Central Role of Dreams of the Dead. 2013. DOI 10.1007/s11013-013-9324-0. 文化的背景と夢の検討。

67. Black J. et al. Comforting Versus Distressing Dreams of the Deceased: Relations to Grief, Trauma, Attachment, Continuing Bonds, and Post-Dream Reactions. 2021. DOI 10.1177/0030222820903850. コーディングの方法。

68. Vicente R., Rizzuto M., Sarica C. et al. *Enhanced Interplay of Neuronal Coherence and Coupling in the Dying Human Brain.* 2022. DOI 10.3389/fnagi.2022.813531. Frontiers in Aging Neuroscience 14:813531; Results; Table 1; Discussion.

69. Xu G., Mihaylova T., Li D. et al. *Surge of neurophysiological coupling and connectivity of gamma oscillations in the dying human brain.* 2023. DOI 10.1073/pnas.2216268120. PNAS 120(19):e2216268120; Discussion.

70. Martial C., Piarulli A., Gosseries O. et al. *EEG signature of near-death-like experiences during syncope-induced periods of unresponsiveness.* 2024. DOI 10.1016/j.neuroimage.2024.120759. NeuroImage 298:120759; Results; Table 1.

71. Martial C., Carhart-Harris R., Timmermann C. *Within-subject comparison of near-death and psychedelic experiences: acute and enduring effects.* 2024. DOI 10.1093/nc/niae033. Neuroscience of Consciousness 2024(1):niae033; Tables 2–7.

72. Fritz P., Pichelin A., Ancion A., Alnagger N., Lejeune N., Ghuysen A., Gosseries O., Martial C. *Near-Death Experience During Emergency Ketamine Use: A Case Report.* 2025. DOI 10.1002/brb3.70939. Brain and Behavior 15(10):e70939; Case Report; Discussion.

73. Martial C., Fritz P., Gosseries O., Bonhomme V., Kondziella D., Nelson K., Lejeune N. *A neuroscientific model of near-death experiences.* 2025. DOI 10.1038/s41582-025-01072-z. Nature Reviews Neurology 21:297–311; NEPTUNE; Conclusions.

74. Moore L. E.; Greyson B. Characteristics of memories for near-death experiences. 2017. DOI 10.1016/j.concog.2017.03.003. 方法、結果、限界。

75. Schmidt B.; Böhmer J.; Schnürch M.; Koch T.; Michelmann S. Post-hypnotic suggestion improves confidence and speed of memory access with long-lasting effects. 2024. DOI 10.1016/j.actpsy.2024.104240. 方法 2.1–2.3; 結果 3。

76. Meyersburg C. A.; Bogdan R.; Gallo D. A.; McNally R. J. False Memory Propensity in People Reporting Recovered Memories of Past Lives. 2009. DOI 10.1037/a0015371. Journal of Abnormal Psychology 118(2) 399–404 頁。

77. Wambach H. Life Before Life. 1979. 方法論の節と、出生の選択に関する質問。

78. Wambach H.; 編者 Snow C.、Past-Life Therapy: The Experiences of Twenty-Six Therapists、1986。死と移行についての節。

79. The Michael Newton Institute. Life Between Lives Hypnotherapy Training: Training Manual & Guidelines for LBL Facilitation. 2022. 18–29 頁、96 頁、99–100 頁。

80. Baker R. A. The Effect of Suggestion on Past-Lives Regression. 1982. DOI 10.1080/00029157.1982.10404067. 出版社の抄録。

81. Weiss B. L. Many Lives, Many Masters. 1988. PDF 51 頁と 93–94 頁。

82. Morita T. et al. Nationwide Japanese Survey About Deathbed Visions: “My Deceased Mother Took Me to Heaven”. 2016. DOI 10.1016/j.jpainsymman.2016.04.013. 原文の抄録。

83. Rashidi et al. Rebirth: Near-Death Experiences (NDE) in Iranian Muslim Patients: An Interpretive Phenomenological Study. 2025. DOI 10.22038/ebcj.2025.88508.3145. 手法の名称と、Rebirth という主題の解釈。

84. Koch C., Massimini M., Boly M., Tononi G. Neural correlates of consciousness: progress and problems. 2016. Nature Reviews Neuroscience 17:307–321. DOI 10.1038/nrn.2016.22. 神経相関の同定と、機構、背景、指標の区別。抄録と出版社の要点。

著者とプロジェクト

メール: info@brenev.com

著者のウェブサイト: brenev.com

Miraのウェブサイト: mira.technology

その他のプロジェクト: haraizen.tech

Telegram: https://t.me/Eudgenee